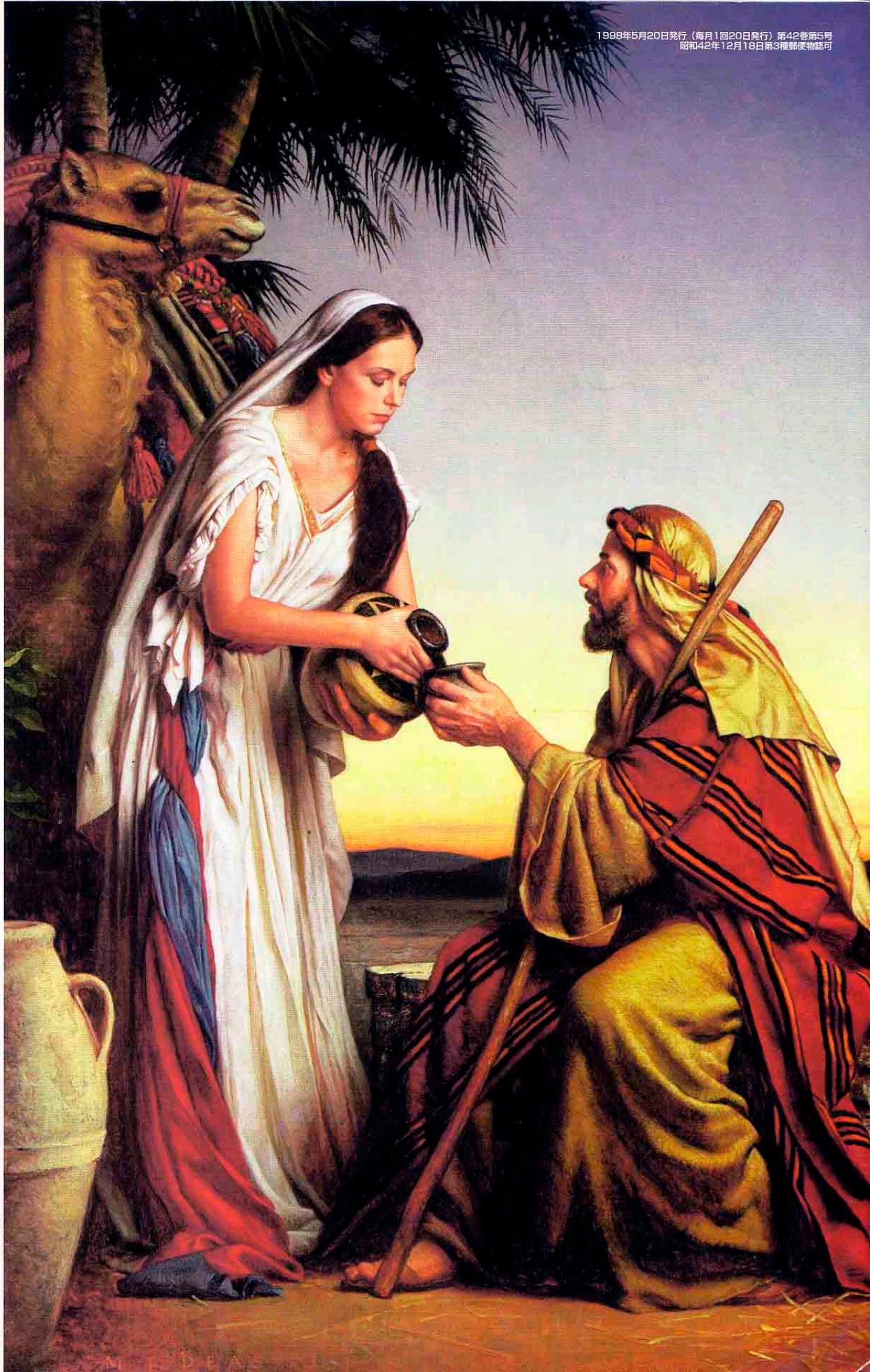


聖徒の道

5
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会

1998年5月20日発行（毎月1回20日発行）第42巻第5号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可



聖徒の道



表紙

表紙——「井戸辺のリベカ」マイケル・J・ディーズ画
裏表紙——「実現」デニス・スミス作

子どものページ

絵／タッド・R・ピーターソン

一般

- 2 大管長会メッセージ——逆境から生まれる祝福
第二副管長ジェームズ・E・ファウスト
- 16 安息日を覚えよ D・ケリー・オグデン
- 24 暴力に対する警戒 ハロルド・オークス
- 25 家庭訪問メッセージ——聖約を交わし儀式を受けることによってシオンを築く
- 26 生ける預言者の言葉
- 34 戻る——ドン・L・シール
- 42 信仰の女性

青少年

- 10 リーサル高校へようこそ ローリー・リブズィー
- 28 質疑応答——聖文から何を調べたらよいのでしょうか
- 33 モルモンメッセージ——わたしの家族
- 40 生活を変える フアン・アントニオ・フローレス
- 48 よい家庭に生まれて ケイ・ハーゴ

子どものページ

- 2 小さなお友だちへ——ダリン・H・オークス長老
- 4 分かち合いの時間——しゅは、わたしに話しておられます
シドニー・レイノルズ
- 6 タミ・コブのきょうだい トレーシー・ライト作
- 10 おもちゃばこ
- 12 イエスのよう——サガストゥーメ家族
コーリス・クレートン
- 14 モルモン書物語——『モルモン書』のしゅつげん

16ページ参照



42ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の日本語版公式刊行物です。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・K・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーカス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アーリング
編集長：ジャック・H・ゴーズリング
顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッケル、ティエイ・ン・ウォーカー
編集補佐：ジェニファー・グリーン・ウッド
工程管理：メアリーアン・マーティンデール
出版補佐：ペス・デーリー
デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・パン・カンベン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリスティンセン、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン
予約購入スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリスティンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン
●定期購読は、「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号／00100-6-41512）にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部配送センター・03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック

定価 年間予約／海外予約2,400円（送料共）
半年予約1,200円（送料共）

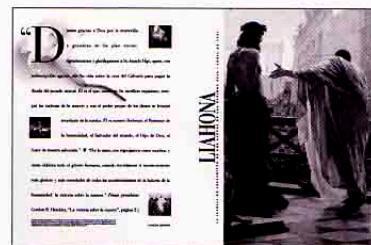
普通号／大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines May. 1998.
Japanese. 98985 300

May 1998 no. 5 SEITO NO MICHI (ISSN 0385-7670) is published by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



証を述べる

1997年3月号に掲載された、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の大管長会メッセージ、「証を述べることの大切さ」に感動しました。『リアホナ』(英語版)の3月号が届く前から、この3月はもっと勇気をもって証を述べようと心に決めていたのです。家族で教会員はわたし一人なので、いつも容易に証を分かち合えるわけではありません。しかし、ファウスト副管長の提案を実践するならば、祝福され強められると知っています。

フィリピン・セブシティステーク、
セブシティ第1ワード
クリスティ・リー・オリベロス

伝道に備える

初めて『リアホナ』(ポルトガル語版)を手にしたところです。教会でこのような形で会員同士の交流が図られてとてもうれしく思います。将来、専任宣教師として奉仕する計画をしていますが、『リアホナ』に記されている情報は、ほかの人々に教える備えをするうえでほんとうに助けになります。真実の教会の会員であることに、また真実であると教えてくれた宣教師に感謝しています。

ブラジル・コンタガムステーク、
ディビノボリス支部
マーシレニ・ロドリゲス・アルビス

美しさと一致

『リアホナ』(スペイン語版)はとてもすばらしい機関誌です。毎月非常に優れた美術作品が掲載されています。中でも1997年4月号の表紙、安东尼オ・シセリ画の「見よ、この人だ」には特に感銘を受けました。この機関誌を手にしてバスや地下鉄に乗ることもしばしばですが、人々から機関誌について尋ねられると、その美しさや精神を分かち合えます。

また、教会員が創作した作品を鑑賞するのも大好きです。作品すべてに目を注ぎ、作者が靈的なテーマを題材に作品を生み出していく過程にただ感心する思いです。わたしたちのように教会本部から遠く離れて住む人々は、『リアホナ』からこのような絵画や写真を鑑賞する機会を得ています。

またこの機関誌のおかげで、世界中に発展する教会の偉大な御業にわたしも参加していると感じることができます。そして、ほかの国々の教会員による、また教会員に関する記事を読むと、一致するよう主が求められた次の訓戒を思い起こします。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約38:27)

ケベック州モントリオールステーク、
モンテレーワード
サイモン・ゴンザレス



逆境から生まれる祝福

第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

何 年も前のことになりますが、わたしがまだ弁護士をしていたころ、同じ地域に住むある新車ディーラーの会社設立に携わったことがあります。わたしは長年にわたって、その会社の法律顧問として、また、会社役員として働きました。やがて、わたしの息子の一人がその責任を引き継いで、法律顧問になりました。その後、わたしたちは親子で、その自動車販売店を訪ねたことがあります。目の前には、見事なまでに美しく輝く高価な新車が列を成していました。わたしは、心配になって、その経営者に、もし車が売れなかったら、財政上の負担もばく大で、蓄えてきた利益も食いつぶしてしまうのではないか、と尋ねたのです。すると、息子がこう言いました。「お父さん、そんなふうに考えちゃだめだよ。あの車が全部売れたとき、どれほどの利益になるかを考えるべきだよ。」

わたしは、息子の方が物事を正確に見ていると考える一方で、突然、そういえば、息子は経済恐慌というものを経験していないな、という思いにとらわれました。わたしたちは同じ新車の列を見ながら、実はまったく違った目で見ていたのです。それは、わたしが子供のころに、世界大恐慌の時代を経験したからかもしれません。借金を負うことがどれほど大変なことか、わたしは今でもよく覚えています。

わたしたちの家の近くに、何年間か、非常に熟練した機械工が住んでいたことがあります。この機械工の夫婦は、決して借金はしないと決心していました。しかし、その決意は、困難な時代の苦い経験から生まれたものなのです。二人が結婚して間もなく、まだ子供たちが幼かったころ、世界中が大恐慌に見舞われました。その結果、あれほどの熟練した技術を持ちながら、彼は職に就くことがで



わたしたちの人生には、皆、試練や成長の時があります。そうした試練は必要です。それは、成長のための経験でもあるからです。深い悩みや苦しみの時があったとしても、それはまた、神に近づくための時でもあります。ゲツセマネにおける救い主の苦しみは、間違いなく、人類が経験した苦しみの中でも、最大のものでした。しかし、その苦しみの中から、永遠の命の約束という、最大の賜物がもたらされたのです。

きなかったのです。抵当に入っていた家は取り上げられ、大恐慌の間中、鶴舎で生活したのです。とは言うものの、彼の熟練した機械工としての技術のおかげで、この家もある程度は快適になりました。

現代に生きる人々の多くは、逆境によって精錬される祝福を、完全な意味で知ることもなく、また味わったこともありません。物がないゆえのひもじさを経験したことのない人が大半なのです。しかしながら、わたしは、逆境にはわたしたちに必要な精錬の過程が含まれており、それによって、わたしたちの理解力も増し、感受性も磨かれ、もっとキリストのようになると、確信しています。バイロン（訳注——ジョージ・ゴードン・バイロン。イギリスの詩人。1788-1824年）は、こう言っています。「逆境は真理に至る第一の道である。」（*Don Juan*『ドンファン』第12編50節）救い主の生涯を見ても、その預言者たちの生涯を見ても、一定のレベルの偉大さに到達するためには、逆境がどれほど必要か、はっきりと、素直に理解ができます。

イギリスの雄弁家であり政治家でもあったエドマンド・パークは、逆境の役割について、実にうまく定義して、次のように言っています。「困難とは厳しい教師である。わたしたち以上にわたしたちのことを知り、わたしたちを愛しておられる御方が、わたしたちのために用意されたものである。……わたしたちと苦闘を共にされるその御方は、わたしたちの勇気を高め技量を磨いてくださる。わたしたちに刃向かうこの困難こそ、わたしたちを助けてくれるのだ。……困難と闘うことにより、わたしたちの目標も〔明確になり、〕その目標とそのほかのものとの関連も深く考えるようになる。困難な問題に立ち向かうとき、わたしたちはうわついていられなくなるのである。」（エドマンド・パーク “Reflections on the Revolution in France” *Edmund Burk, Harvard Classics* 「フランスの革命を顧みて」『ハーバードクラシックス——「エドマンド・パーク」』24: 299-300）

世界中の聖徒の中には、生活必需品を買うだけでも大変な思いをしている人々が数多くいます。実際、それは心の痛むことかもしれないのです。そうした人たちの立場に立てば、そのような経験はよいことかもしれないとか、いつか豊かになったとき温かい思い出として、時には懐かしく思い起こすかもしれない、などと言うのは、不遜のそしりを免れないでしょう。わたしそり活躍しているいとこの一人に、ろうそくの明かりで勉強して、法律学校を卒業したという人物がいます。新婚当初は、部屋の照明の電気代を払う余裕すらなかったのです。

何年も前に、粗末な環境から身を起こしてゼネラル・モーターズ社の筆頭顧問弁護士になったアフリカ系アメリカ人の記事を読んだ覚えがあります。世界中の弁護士

にとって、間違いなく、名誉と収入に最も恵まれた地位の一つです。子供のころ貧しかったこの弁護士は、教育を受けるために、極端に貧困な境遇の中から、死に物狂いで努力をしなければなりませんでした。人の嫌がる、汚れる仕事を毎日一つか、二つ、あるいはわたしの記憶に間違いがなければ、時には、3つもしなければならないような状態でした。彼は、世界で最も高給を取る幹部職員の一人になるときに、居心地は悪くないですか、と尋ねられました。それに対する答えは「そんなことはありません」でした。そうした幹部職員の大半が、彼のように、貧しい少年時代を経験して、試練を受け、困難に直面し、危険に遭遇し、失意を味わいながら、一歩一歩、上り詰めていった人々だから、と言うのです。まさに逆境は精錬する者の火であって、鉄を曲げ、鋼に焼きを入れる役目を果たしてくれます。

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように言っています。「およそ完全な挫折と思えるような災難に遭った人々がいます。そういう人々は生き方にも何らかの敗北感を漂わせます。しかし、そうした考え方をやめ、自分の身を襲った逆境でさえも、自分を靈的に高める手段となり得ると考えたらどうでしょうか。逆境自体は、神のおられる方向に向かって人を導き、靈的な目覚めを経験させてくれるものであって、決して神から遠ざけるものではありません。物がないのは、もしわたしたちが心と靈を健全に保つことができれば、強さの源となるかもしれないのです。」（*Treasures of Life*『人生の宝』クレア・ミドルミス編、107-108）

わたしたちが豊かであろうとなからうと、幸福になるにはどうしたらよいのか少し提案してみたいと思います。

1. 目に見えるもの、あるいは物質的なものに完全に依存するのを避ける。つまり、購入に当たっては、自動車よりも自転車の方を考え、自転車よりも歩くことを考えるということです。わたしの時代では、クリームではなく、スキムミルクを買うということです。

2. ある物で済ませる習慣を身に付け、万一のときに少しでも蓄える。

3. 自然界に見られる神の偉大な賜物に感謝の念を抱く。——地球の美しさ、すなわち、日の出や日没、木の葉、花、鳥、動物をはじめとする万物は、神の存在を雄弁に物語る証です。

4. もっと肉体的な運動を取り入れる。例えば、散歩、ジョギング、水泳、サイクリングなど。

5. 家庭ででき、また夢中になれるような趣味を持つ。

6. 什分の一や断食献金を納める。この戒めを守ったからといって、経済的に豊かになるというわけではありません。実際、経済的な問題を抱えずに済むという保証はまったくありません。しかし、守っていれば、困難な時



「リバティーの監獄のジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画

期を容易に乗り越えられ、状況を理解して受け入れようという決意と信仰がもたらされ、救い主と交わる機会が生み出されます。それによって、内なる力と安定性とが高められるのです。

7. 歌を歌う習慣を身に付ける。それがだめなら、口笛を吹く習慣を身に付ける。自分一人で歌っていても、一人でつぶやいているときほどには、人から変人扱いされたり、首をかしげられたりしないでしょう。あるとき、わたしの父がしか狩りに出かけて行って、何も収穫がないまま帰宅したことがあります。でも、父の気持ちは一新し、気力に満ちていました。父が大いに感謝の気持ちを込めて語ったことによれば、その理由はこうでした。一緒にしか狩りに行った仲間の一人が、松とポプラの森を歩いている間中、ラッパのような大声で歌って、しかを怖がらせてしまい、しかは近づいて来ませんでした。父は、しかの肉以上に、陽気な歌の魅力に心を奪われ、心豊かに帰宅したのです。

人生には、皆、試練や成長の時があります。そうした試練は必要です。それは、成長のための経験でもあるからです。深い悩みや苦しみの時があったとしても、それはまた、神に近づくための時でもあるのです。ゲツセマネでの救い主の苦しみは、間違いなく、人類が経験した苦しみの中でも、最大のものでした。しかし、その苦しみの中から、永遠の命の約束という、最大の賜物がもたらされたのです。

イザヤは、救い主が外見的にはどのように見られていたかについて、次のように描写しています。「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また

1839年の春、リバティーの監獄にいた預言者ジョセフ・スミスは次のような言葉を書き留めました。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。」

顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。」(イザヤ53:3)

恐らく、あらゆる文学作品の中で、それが宗教的なものであるなしにかかわらず、教義と聖約第121章、第122章そして第123章ほど見事な文章はほかにないと思われます。この一連の啓示は、1839年の春に、リバティーの監獄にいた預言者ジョセフ・スミスが受け、書き留めたものです。

まず神への嘆願で始まります。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。

あなたの御手はいつまでとどめられ、あなたの目、まことにあなたの清い目はいつまで永遠の天からあなたの民とあなたの僕たちへの不当な扱いを眺め、またあなたの耳はいつまで彼らの叫び声で貫かれるのですか。

まことに、おお、主よ、彼らがどれほど長くこれらの不当な扱いと不法な虐げを受ければ、あなたの心は彼らに和らぎ、あなたの胸は彼らに対する哀れみの情に動かされるのですか。」(教義と聖約121:1-3)

やがて、約束された救いの言葉が告げられます。「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に



スペンサー・W・キンボール
大管長は、苦痛を伴う経験を数多くしました。精錬する者の火で鍛えられた結果は明らかです。靈性が研ぎ澄まれ、感受性が豊かになり、人を思いやる心や温かい心、そして謙遜な心が養われたのです。

打ち勝つであろう。

あなたの友人たちはまことにあなたの傍らに立っている。そして、彼らは温かい心と親しみのある手をもって、再びあなたを歓呼して迎えるであろう。

あなたはまだヨブのようではない。あなたの友人たちは、ヨブにその友人たちが行ったようにはあなたに対して言い争わず、戒めに背いたとしてあなたを責めることもない。」(教義と聖約121:7-10)

このような状況の中で、次のような偉大な約束ももたらされました。「神はその聖なる御靈によって、すなわち聖靈の言い尽くせない賜物によって、世界が存在するようになって以来現在まで示されたことのない知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」(教義と聖約121:26)

また、預言者ジョセフ・スミスは次のような警告を与えられました。「地の果ての人々があなたの名を尋ね、愚かな者はあなたをあざ笑い、地獄はあなたに激怒するであろう。

一方、心の清い者と、知恵のある者と、高潔な者と、德高い者は、絶えずあなたの手から助言と権能と祝福を求めるであろう。

あなたの民が、裏切り者の証によってあなたに背くことは決してない。」(教義と聖約122:1-3)

逆境がしばしば良い教師となるのはなぜでしょうか。そこから学ぶことが非常に多いからでしょうか。困難な状況に陥ると、自己訓練とともに困難にどう対処するのかを、学ばざるを得ない状態になるのが普通です。しばしば、そのようなつらい状況の中で、わたしたちはまた、打たれ、研がれ、磨かれることがあるのかもしれません。そういう経験は、逆境に出遭って初めて積むことができるのです。

中央幹部の多くも、逆境を味わっています。彼らは幹部になる前も、幹部になった現在も、逆境と無縁というわけではありません。わたしは、これから3人の幹部の方の例を挙げて話を進めたいと思います。この3人を選んだのは、彼らが実に頻繁に困難に直面した人々だからです。

スペンサー・W・キンボール大管長は、若くして、働くことの必要性を知りました。また、偉大な教導の業に携わる準備として、大管長は若いころに、苦痛を伴う経験を数多くしました。少年時代、おぼれかかったことがあります。顔面神経まひも経験しました。母親が亡くなったのは、まだ彼が青少年のころでした。そして、若くして、最愛の姉のルースを亡くしています。さらに、結婚直後に天然痘にかかり、キンボール姉妹の話では、顔だけでも膿疱が100個以上できたとのことです。

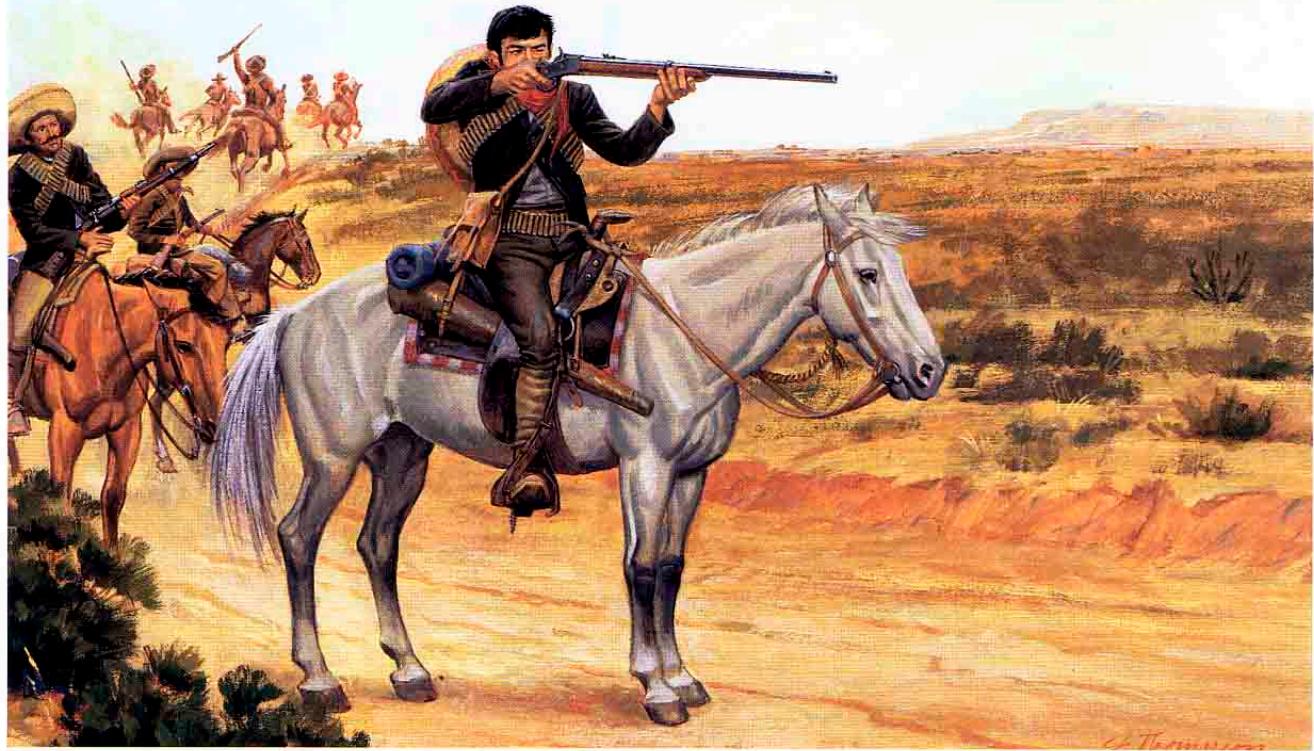
また、経済的な苦境についても早くから学ぶ機会があり、投資で損を出したこともあります。ヨブのように、はれもので苦しんだこともあります。それは何年も続き、あるときには、鼻や唇にまではれものができました。一度に24か所ものはれもので苦しみ、程なく、心機能不全で耐え難い痛みにも悩まされ始めました。この痛みも何年間も続き、最終的には心臓切開手術を受けることになったのです。声のかれにも苦しみ始めました。これは、一時、使徒職にある兄弟たちの祝福によって癒されたのですが、その後再発し、さらにはれものにもまた悩まされ始めました。声帯の悪性腫瘍のために手術を受けた後、发声訓練を受けたり、放射線療法を受けたりしました。顔面神経まひも再発し、皮膚癌の除去手術も受けました。

精錬する者の火で鍛えられた結果は明らかです。靈性が研ぎ澄まれ、感受性が豊かになり、人を思いやる心や温かい心、そして謙遜な心が養われたのです。

わたしは、ネイサン・エルドン・タナー副管長の生い立ちに、いつも強い関心がありました。何年も前、わたしは、タナー副管長が、自分は質素で経済的に恵まれていない家庭で育ったと話すのをきました。副管長は、両親について、こう語りました。「家族が〔カナダの〕南アルバータへ到着したときには、父にはお金がまったくありませんでした。そのため、家計を助けるために、家畜を売らなければなりません。でも、わたしが今でもうれしく思っていることは、父が決して政府の援助に頼ろうとしなかったことです。父は出かけて行って、隣のために働きました。農耕用に利用できるよう、隣のために、馬を調教するためです。父は農場に壕を掘ってそこで生活しました。わたしも幼いころは、そこで生活しました。父はいつもこう言っていました。『わたしは10ドル出資して、政府からわずかの土地を借り、ようやくそこから抜け出しができたのさ。今は、ほぼ成功したと言えるな。』そしてこう言ったのです。『おまえも分かるだろう。わたしが



様々な困難を抱えた状態の中から、ネイサン・エルドン・タナー副管長という名の偉大な巨人が生まれ出たのです。



絵／ジェリー・トンプソン



マリオン・G・ロムニー副管長は、まだ少年のころ、マデロ革命のさなかに、コロニア・ファレスを脱出しました。幌馬車に乗っているとき、メキシコ革命軍から銃身を向けられました。副管長はこのときのことを振り返って、「わたしが大人になれたのも、そんな経験があったからです」と言っています。

この国へやって来たとき、ぼろ服一つ持っていないかった。でも今では、ぼろ服ばかり着込んでいるからね。』

その後、わたしたちは小さな村へ引っ越しました。皆さんにとっては、それほど興味を引く話ではないとは思いますが、その小さな村には、電話もなく、新聞も日刊紙もありませんでした。週間紙もきちんと配達されるることはまれでした。水道設備もありませんでしたから、お湯はおろか、水も出ません。ここまで聞けば、わたしたちの時代に存在した物とそうでない物を、いろいろと容易に想像できるでしょう。皆さんの想像どおり、セントラルヒーティングの設備もませんでした。実際、わたしは、我が家に暖を取るものがあればと度々願ったのです。」(“My Experiences and Observations” Brigham Young University Speeches of the Year「わたしの経験と観察」『ブリガム・ヤング大学年度講話』[1966年5月17日付] 6)

このように様々な問題を抱えた状態の中から、ネイサン・エルドン・タナーという名の偉大な巨人が生まれ出了たのです。この巨人は、アルバータ州上院議長となり、

アルバータ州政府の鉱山・国土庁長官となり、ランス・カナディアン・パイプライン社の社長となり、また、支部長、監督、ステーク会長となり、さらに、十二使徒評議会補助、使徒、そして、副管長として4人の大管長に仕えるまでになったのです。

マリオン・G・ロムニー副管長の若いときの出来事から、少し紹介してみたいと思います。副管長自身の言葉で語ってもらうのがいちばんいいでしょう。

「わたしは出生から言えば、メキシコ人です。メキシコのチワワ州コロニア・ファレスという所で生まれたからです。わたしの両親は、わたしの出生時、たまたまメキシコに住んでいました。わたしは15歳になるまで、そこで育てられました。最後の2、3年間は、マデロ革命が進行している最中でした。革命軍と政府軍は、互いに國中で追跡を繰り返し、わたしたち入植者の持っている物をすべて持ち去りました。武器を使って脅し取ったり、軍事徵用という形で没収したり、供出という形で、持ち去って行ったりしたのです。やがて、わたしたちは強制的に国外退去になりました。わたしは、1912年にモルモンの避難民と一緒にメキシコから脱出したのです。

わたしは、非常にスリルに富んだ経験をしたことを今でもよく覚えています。わたしたちの住んでいた所から、コロニア・ファレスの約[13キロ]ほど南にある鉄道の駅へ向かっているときのことでした。わたしたちは幌馬車に乗っていました。……一緒にいたのは、母と7人の子供たち、それにおじ（母の弟）とその5、6人の子供たちでした。……わたしたちにはトランクが一つあるだけでした。それだけしか持ち出すことができなかつたからで

す。わたしは幌馬車の後ろの方で、そのトランクの上に座っていました。……そのとき、メキシコの反政府軍が、谷を越えて鉄道の駅からわたしたちのいた町の方へ向かっていました。隊列は組んでおらず、馬に乗っていました。さやには銃が差してあります。そのうちの二人が、わたしたちの幌馬車を止めて、中を捜索し始めました。銃を探していると言っていますが、わたしたちには銃はおろか武器のたぐいは何もありません。しかし、二人は、おじが〔20ペソ〕を持っているのを見つけると、……それを取り上げて、手でわたしたちに『行け』という合図を送ってきました。二人は、ちょうどこの部屋の奥行きくらいの距離を、町の方に向かって進んで行くと、馬を止め、振り返って、さやから銃を取り出しました。そして、銃口をわたしの方に向けたのです。わたしはその銃身を見詰めました。わたしにはそれがまるで大砲のように見えたものです。しかし、二人が引き金を引くことはありませんでした。その証拠に、わたしは今ここにいて、皆さんにこのお話をしているわけです。あれはほんとうにスリルに富んだ経験でした。わたしが大人になれたのも、そんなする必要のない経験があったからです。

反政府軍は、わたしたちの乗った列車が通過した直後に、鉄道を爆破しました。その後しばらくして、父と残りの男性たちは、馬で、テキサス州のエルパソまで脱出しました。父がまだメキシコにいる間も、わたしたちはそこへ戻りませんでした。また財産は、まったく返還されませんでした。

父とわたしは、大家族の生活を支えるために働きに出かけました。当時は福祉プログラムなどはありません。生きていいくだけ精いっぱいの時期でした。」(To Him That Asketh in the Spirit)^{みたま}「御靈によって求める者には」ソルトレーカ・インスティチュートにおける礼拝集会、1974年10月18日付、2-3)

ロムニー副管長は、結婚して、子供ができ始めると、自分が法律学校で勉強しているときにも、家族をきちんと養えるように、郵便局で常勤として働きました。そのような大変な状況下でも、学校での成績は上位で、学問的にも優れた業績を残しました。後日、ロムニー副管長は「コイフ会」(訳注——上級法廷弁護士の会。コイフとは昔、イギリスの上級弁護士が着用した白の職帽のこと)への入会を許可されています。この組織には最も卓越した弁護士しか入会が認められていません。副管長は、弁護士をしながら、監督を務め、ステーク会長となり、最初の十二使徒補助の一人となり、十二使徒定員会の会員となり、さらに、大管長会で副管長も務めました。副管長は、長年にわたって、教会の福祉プログラムの指導に当たり、人々に偉大な愛と思いやりを示しました。

これまで紹介した3人の幹部の、困難な逆境を乗り越え

「苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」

た経験は、教会のほかの多くの指導者や会員の生活でも、起こり得ることでしょう。

アメリカの政治家であったトマス・ペインはこう書いています。「わたしは、難局にあってほえむことのできる人を、苦境から強さをつかむことのできる人を、そして、決意によって勇気を育てることのできる人を愛する。」(“The Works of Thomas Paine”『トマス・ペイン著作集』392)

時々、わたしたちの歩む道が苦しくてチャレンジに満ちているからといって、天の御父がわたしたちを心にかけておられないなどと思わないようにしようではありませんか。天の御父はわたしたちの未完成の人格に磨きをかけて、将来の偉大な責任のために、わたしたちの感受性を高めてくださっているのです。天の御父の祝福が、靈的に豊かにわたしたちのうえに注がれ、わたしたちが聖靈を常に優しい伴侶とすることができますように、また、わたしたちが真理と正義の道に導かれ、その道に沿って歩み続けられるように、心から祈っています。さらに、わたしたち一人一人が、次のような励みになる主の勧告に従っていきますように。「苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」(教義と聖約24:8) □

ホームティーチャーへの提案

1. 豊かな社会で生きる人々の中には、逆境によって精錬される祝福を、完全な意味で知ることもなく、また味わったこともない人が大勢います。
2. 逆境にはわたしたちに必要な精錬の過程が含まれており、それによって、わたしたちの理解力は増し、感受性が磨かれ、もっとキリストのようになります。
3. 困難な状況に陥ると、自己訓練を学ばざるを得ない状態になるのが普通です。わたしたちは、打たれ、研がれ、磨かれることもあるかもしれません。そういう経験は、逆境に出遭って始めて積むことができるのです。
4. わたしたちの歩む道が、時に苦しいからといって、天の御父がわたしたちを心にかけておられないなどと思わないようにしようではありませんか。天の御父はわたしたちの未完成の人格に磨きをかけて、将来の偉大な責任のために、わたしたちの感受性を高めてくださっているのです。



リーサル 高校

へようこそ

ローリー・リブズィー

リーサル高校を訪問して最初に気づくのは、その規模の大きさです。単に平均的な高校よりも大きいというだけではありません。もしリーサル高校が普通サイズの高校だとしたら、太平洋は湖ということになってしまうでしょう。

リーサル高校は、小さいものとはまったく縁がありません。その構内は、敷地面積が6.7ヘクタール、フィリピンのマニラ郊外にあるパシグのかなりの地域を覆い、どこまでも際限なく広がっています。

さて、ここまで読めば、皆さんはこう思うことでしょう。「リーサル高校の登録生徒数は、一体何人なのだろう。」膨大な数の生徒がこの高校に通学しています。皆さんの学校には生徒が何人いますか。2,000人ですか。3,000人ですか。それとも4,000人ですか。

リーサル高校にはもっとたくさんの生徒がいます。実際、ほかの

リーサル高校の生徒たちはほかの高校生とは違っています。何と言っても、世界で最大規模の高校の生徒であることには、特別な意味があります。しかしリーサル高校に通う教会員にとって、それはもっと特別な意味があるのです。

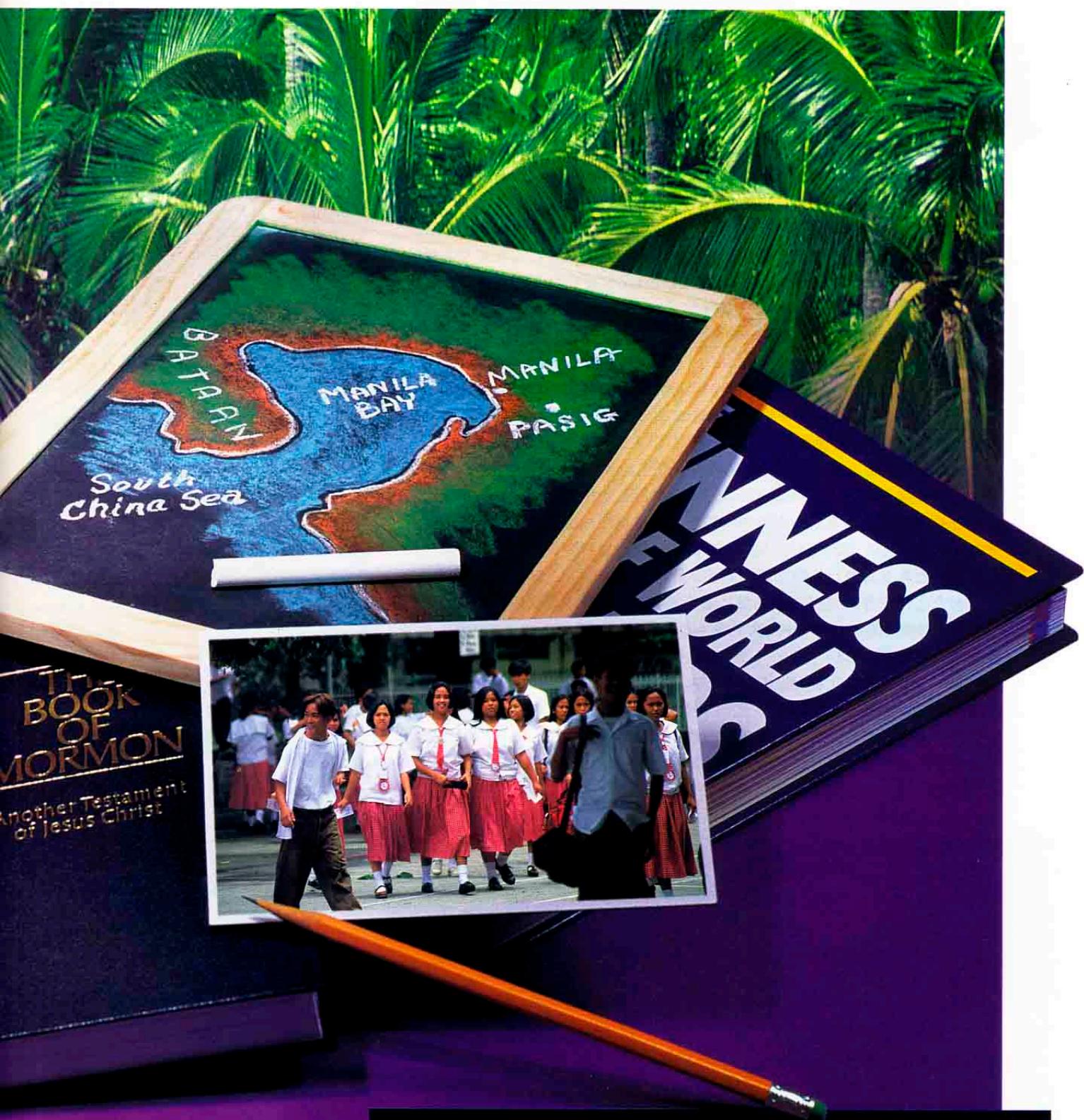
どの高校よりも大勢の生徒がいるのです。『ギネスブック』には、リーサル高校のことを簡潔に「最大規模の学校」と記載しています。前回の調査によると、この高校の登録生徒数は1万9,738人で世界記録となっていますが、校長先生の話では、現在2万1,139人の生徒がリーサル高校に通っている、とのことです。

「とにかくほんとうに大きいんですよ」と17歳になるジュリー・アン・ヌドーは語ります。「でも、わたしは大きな学校の方が好きです。生徒が多いので友達を作ることは比較的簡単です。」

ジュリー・アンはほかの生徒と同様、学校で指定された制服を着て通学します。男子生徒は白シャツに茶色のズボン、女子生徒は白シャツに赤いネクタイ、そして赤いチェックのスカートを着ます。それから、リーサル高校の1日の授業が始まります。この高校は1896



写真／ローリー・リブズィー、ジョン・ルーカ



全員が制服着用のリーサル高校（上）で、特に際立った何人かの若い男女がいます。マリテス・サルディバー（左）はこう語っています。「わたしは自分が特別な存在だと感じます。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だからです。」

活気に満ちたマニラの中心部（背景）から遠く離れてはいますが、パシグ郊外に隣接するリーサル高校も活気に満ちています。この高校では、生徒はバスで構内を移動します（左）。放課後、ワードの建物で友達と球技を楽しむレノン・パカード（中央）。

年に殺害されたフィリピンの愛国主義者、ホゼ・リーサルにちなんで名付けられました。ホゼ・リーサルが亡くなつてから6年後に設立されたのがリーサル高校なのです。

特別な存在

幾つもある中庭の一つには、生徒が書いた次のような手製の掲示物があります。「わたしは、世界でいちばん大きなこの高校の生徒であることを誇りに思う。」すべての生徒が同じように感じています。しかし、実はもっと大きな喜びを別のこと見いだしている特別な生徒が何人かいります。

リーサル高校の中で教会の会員はごく一握りしかいません。生徒が皆同じような制服を着ているため、その特別な生徒を見つけるのはたやすいことではありません。それでも、リーサル高校に通う末日聖徒の若人は、何とかして自分たちを周囲から際立たせようと最善を尽くしています。

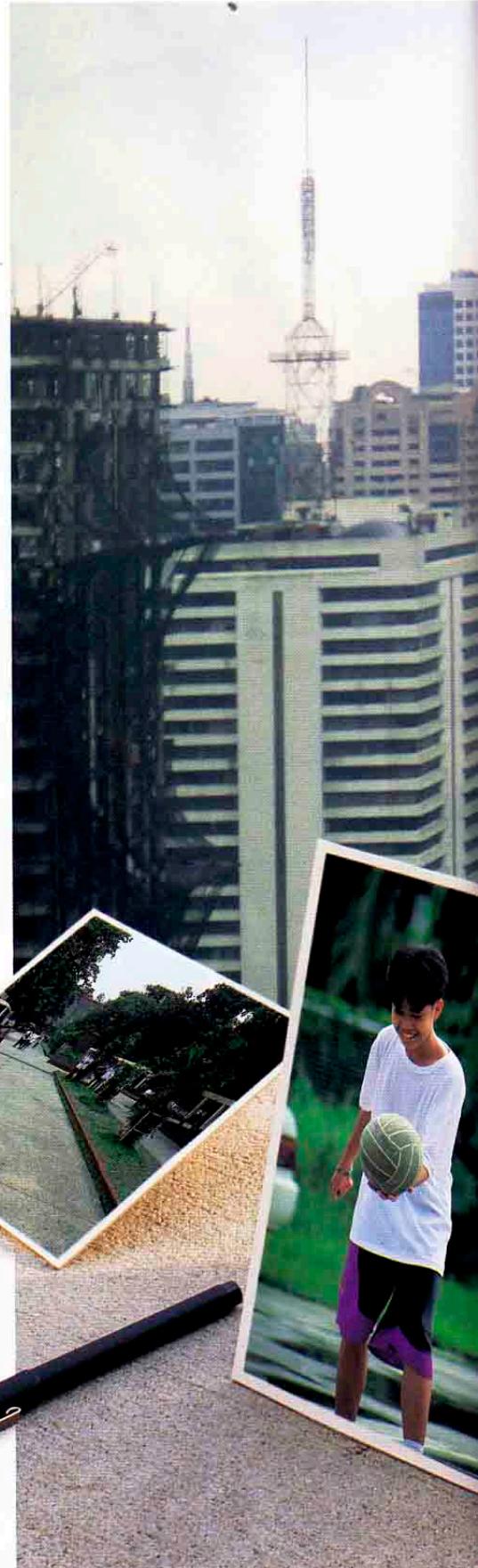
「わたしは自分が特別な存在だと感じます。リーサル高校の生徒だからではなく、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だからです。」こうマリテス・サルディバーは話します。

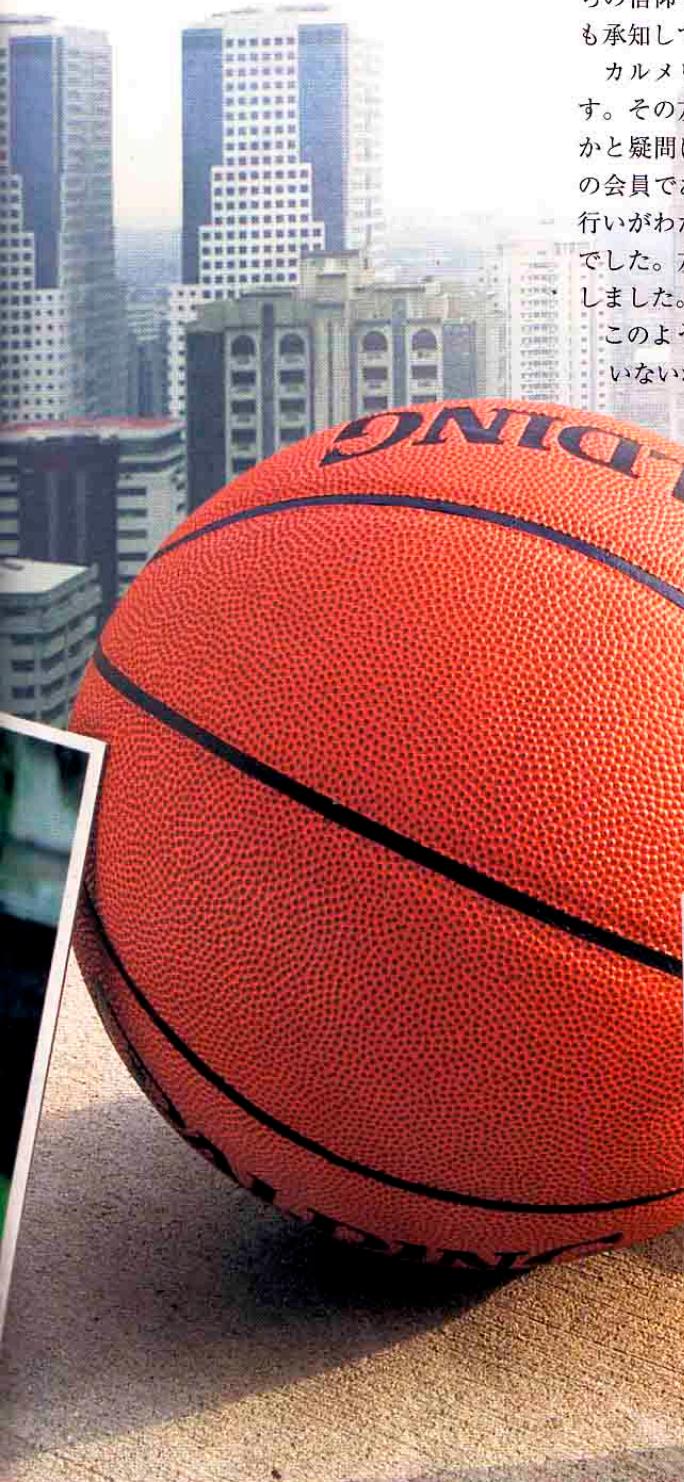
「リーサル高校の生徒は、そのほとんどが会員ではないので残念です」と15歳になるエドナー・パカードは語っています。「クラスの中で会員はぼく一人だけです。でも、神権、つまり神様の権能を授かっているのでとても幸せです。学校の友人にはない力が自分には備わっていると感じます。ぼくはこれからも正しいことを行い、級友にも正しいことは何なのかを教えていくつもりです。」

マリテスは模範となることの大切さをよく理解しています。「わたしは自分がほかの人たちとは違うことを知っています。友人からいつもそう言われるからです。ただ、彼らはあるがままのわたしを気に入ってくれています。友人にとって、この教会の会員だということは、すなわち立派な人間だということなんです。いつも彼らの間で話題になるのは、モルモンがどんなふうに善いことを行い、どのような模範を示しているかということなんです。ですからわたしは、みんなの模範となれるよう最善を尽くそうと、いつも努めているんです。」

際立った存在

教会は、1961年以来、フィリピンで公的にその存在を知られるようになりました。現在では、東南アジア沖にあるこのフィリピン諸島にステークが47、伝道部が14、そして神殿が1つあります。ただフィリピン人の多く、特に10代の若人は、この教会とその教えについてほとんど何も知りません。少しだけ知っているような人も、福音についてた





くさんの疑問を持っています。

リーサル高校の末日聖徒は常々、教員よりも教員でない生徒の数が圧倒的に多いという状況がこれからも続くのを承知しています。また、自分たちの信仰や価値観が試されるような質問を級友から毎日のように受けたことも承知しています。

カルメリタ・ゴンサレスは、友人の一人から声をかけられたことがあります。その友人は、どうしてもっと自分たち仲間と一緒に時間を過ごさないのかと疑問に思ったのです。「わたしは自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると彼女に告げました」とカルメリタは語っています。「友人の行いがわたしたちの信条と相いれないことがあると告げなければなりませんでした。友人になれても、教員としての標準は守らなければならないと話しました。」

このようなことを言ったからといって、末日聖徒が学校で楽しいことをしていないわけではありません。リーサル高校の規模は、ほかに類を見ない大きさですが、学校生活はほかの高校と変わらないのです。もちろん、宿題や厳しい授業、大学入学のための準備もあります。

末日聖徒とほかの生徒との違いは、校外での時間の使い方です。このときこそ、末日聖徒がお互いにもつと親しく交わるときなのです。

ヘルムのニックネームの方がよく知られている、16歳になるヘルーサレム・サントス、それにエドナーの二人は、パシグステーク、パシグ第2支部の会員です。二人は、暇な時間を見つけては、ワードの建物に集まり、バレーボールやバスケットボールをするのが大好きです。日曜日には、二人が聖餐を準



備したり、聖餐を配ったりする姿を目にしてことでしょう。教会は彼ら二人にとつていつまでもいたい場所、また安らぎを与えてくれる場所なのです。

「リーサル高校の生徒は、そのほとんどが酒を飲んだり、たばこを吸ったりしているようです。でもぼくはどちらもやりません」とヘルムは語っています。「自分には、立ちふさがる誘惑に対抗する力があると感じています。友人はそのようなしこう品を取らないのはなぜかといつも知りたがります。いろいろなことを言われますよ。例えば、もし同じことを一緒にしないのならほんとうの友人ではないと言われたこともあります。」

マリテスは、友達が福音に対する理解を深められるよう助けることで、教会員でない人とも仲良くなれるよう、これまで最善を尽してきました。「中には、モルモンの教えとは一体どういうものなのか、非常に興味を持っている人もいます。末日聖徒はどういう標準に従って生活しているのか聞かれます」とマリテスは述べています。「これまで『モルモン書』をあげたり、ジョセフ・スミスのことを話したり、知恵の言葉や純潔の律法といった戒めについて話したりしました。友人たちのことをよく理解しようと努めています。ただ、わたしたちがどうしてモルモンなのか、何を信じているのか彼らに分かってもらうのは難しいと思います。」

自分はどちらかと言えば内気だと認めるマリカル・メンドーサも、クラスの中でカトリック教徒でない者はだれかと教師に尋ねられたとき、躊躇することなく手を挙げました。マリカルはそのとき口を開けなければならぬと感じたのです。「わたしはこう答えました。『先生、わたし、モルモンなんです。』わたしは自分の教会がどんな教会なのか先生に説明しました。末日の預言者、ジョセフ・スミス、救いの計画など、たくさんのことについて話しました。」

マリカルは今でも自分のことを内気だと思っていますが、そのとき口を開いてよかったです。

彼らは違う

フィリピンのある土曜日の朝。授業はありません。そのうちの多くはリーサル高校の生徒ですが、パシグステークの若人が、地元のワードの建物に集まってある活動を行いました。その活動の締めくくりとして、全員で近くのコンビニエンスストアへ食べ物を買いに出かけました。パシグの繁華街を歩く彼らの姿を見ていると、ジュースやキャンデーを買っている同世代の若者たちと何ら変わりありませんし、そのことに異論を挟む人はいないでしょう。しかし、彼らのことを知ると、また彼らが何を信じ、どのような教えに導かれて毎日の生活を送っているかが分かると、その違いは明らかになってきます。

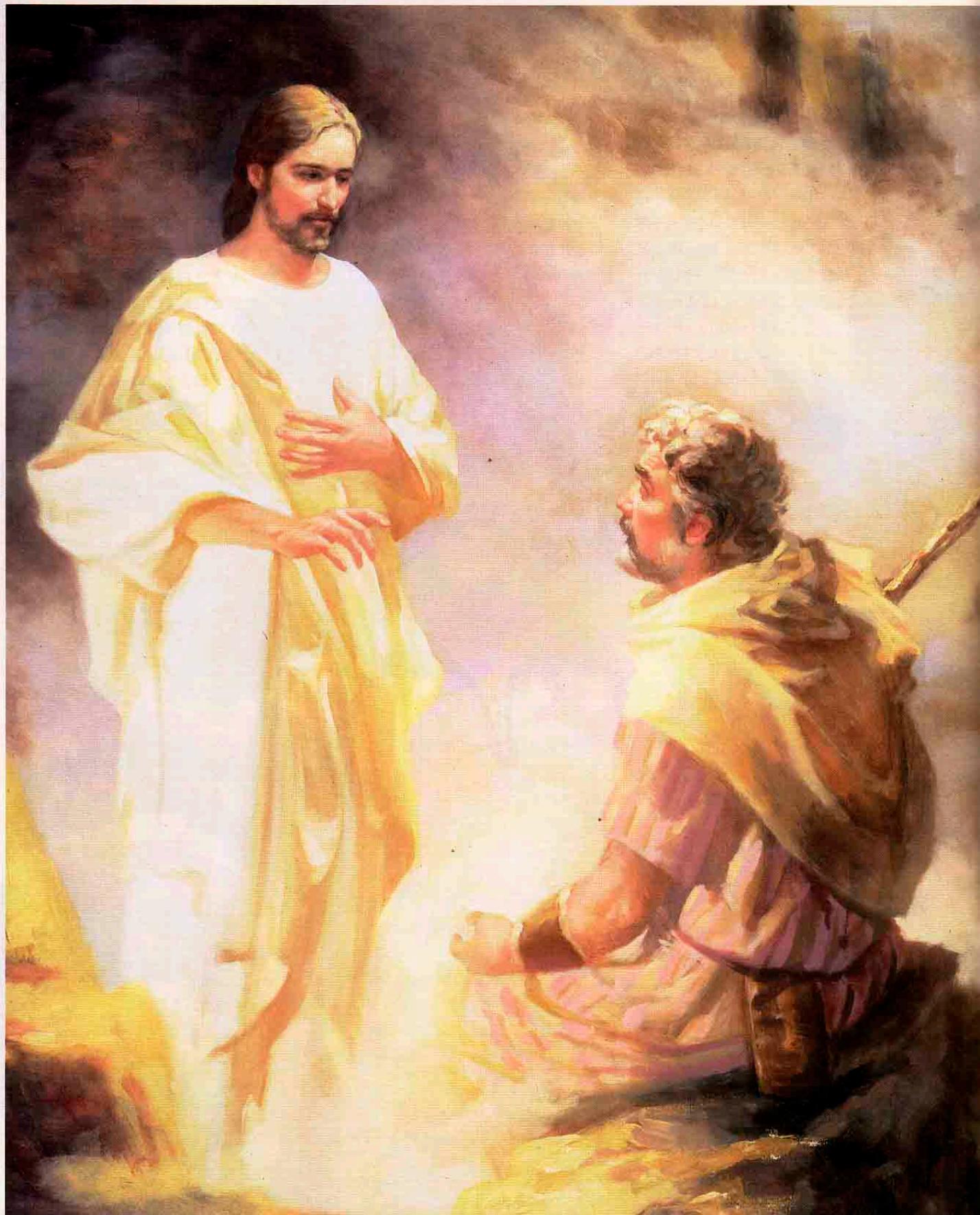
マニラのような大都市近郊にあり、『ギネスブック』に紹介されるこの学校では、人込みにもまれて、道に迷ってしまいがちです。

でもリーサル高校の末日聖徒のように、自分がどこに行こうとしているか分かっていれば大丈夫です。□

熱帯の果物が豊富にとれるこの国で、
教会員は温かい友情というご
ちそうにあずかっています。
右ページ、左から——ル
ネイ・キンバリー・レモリ
ア、ポーラ・ミランダ、シ
ヤーリー・ホーブ・M・セバ
スチャン。下——エ
ドナー・パカードはこ
う語っています。
「神權、つまり神
様の権能を授
かっている
のでとても
幸せです。」







安息日

を覚えよ

聖書

安息日を守ることによって自由を制限されるのではなく、むしろそれは守りとなり、力の源となります。

D・ケリー・オグデン

写真／スティーブ・パンダーソン

「なぜ安息日にはほかの日にしていることができないのですか？」

「安息日を聖なる日とすることによって、何か良いことがあるのでしょうか」。これらは時代を超えて繰り返し問い合わせられてきた質問です。

またこれらの質問は、天の御父の戒めに従う人々に与えられる報いをまだ理解できない幼い子供たちだけが心に抱いているものではありません。ある大学生は次のように述べています。「わたしは、安息日が何のためにあるのか、ずっと理解に苦しんできました。1週間のうちで、友達といろいろなことができない1日という意味にしか取れないような気がします。わたしは安息日に家族が何をするのも許されない家庭で育てられてきました。このような家庭は子供たちの心に憎しみを募らせるだけではないでしょうか。」

ある帰還宣教師はこのように述懐しています。「わたしは伝道を終えてから、靈的な進歩を遂げていないことで悩んでいます。安息日を正しく守っていなかったことがその原因の一部にあったと思います。安息日は単に、3時間の集会に出席し、買い物に行かず、仕事を休み、断食日曜日には朝食を抜くことでしかないと考えている教員がほかにもいると思います。安息日を正しく過ご

主はシナイ山でモーセに対して休息の日の大切さについて繰り返し説かれました。そして、イスラエルの民に「安息日を覚えて、これを聖とせよ」と言われました。



す方法について会員たちは混乱していると思います。」

主は安息日と呼ばれる1日を造られました。主はどのような理由で安息日を造られたのでしょうか。安息日にはどのような目的があるのでしょうか。安息日にふさわしい活動にはどのようなことが含まれるのでしょうか。主御自身の言葉からこれらの質問の答えを導き出してみましょう。

聖文に記されている教え

神は地球を創造された後に、御自身の働きを休む日として第7日目を祝福し、聖別されました（創世2：2-3参照）。主はシナイ山でモーセに対してこの日の大切さを改めて説いたときに、イスラエルの民に向かってこう言われました。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」（出エジプト20：8、下線付加）この「覚える」という言葉が大切です。ほとんどの人は主と主の業を心にとどめておくために、それを毎日思い起こさせてくれるものが需要です。祈りや聖文の研究などがその役割を果たしてくれます。わたしたちは7日間のうちの1日を、すべての時間を費やして、主に対して注意と関心を向ける日とする必要があります。わたしたちはともすれば俗世に関する事柄をあらゆることに優先させがちな生活をしていますが、このようにしてそうした生活から離れるのです。

ヘブライ語で“Sabbath”（サバス）とは労働を「休む」あるいは「中断する」という意味です。わたしたちは単に労働を中断して休息を取るだけでなく、この日を聖別して、聖なるものとしなければなりません。わたしたちは安息日を聖なる日とするために、神に近づくよう努力し、神を礼拝し、また人々に奉仕するのです。

「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。」



左一「ナザレの会堂で教えを説かれるイエス」グレッグ・K・オルセン画；右一「わたしの御靈の力によって人の子らに教えなさい」グレッグ・K・オルセン画

あらゆる時代に与えられてきた一つの律法

古代のイスラエル人は7日間のうちの1日を取って、休息と礼拝のために当てる民として知られていました。主は、安息日を守ることは「永遠の契約……永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである」と言われました（出エジプト31：16-17）。安息日の律法を破った者に宣告される罰は死でした（出エジプト31：14-15；35：2；民数15：32-36参照）。

現代では、安息日を汚しても死刑を宣告されることはありません。けれども、古代イスラエル人がこの律法を破るとイスラエル人の軍勢から追放されたのと同じように、現代の神の子らは故意にこの戒めを破ると御靈を受けられなくなつて、靈的な死を招くことになります。

『新約聖書』の時代のユダヤ人は安息日の律法を厳格に守ることで有名でした。イエスは安息日を汚しているのではないかとユダヤ人からとがめられたとき、自らお与えになつたにしえの律法にこまごまとした事柄を過剰に付け加えている彼らを厳しく非難しておられます。「人の子は安息日の主である」と主は言われました（マタイ12：8）。さらに、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない」とも言っておられます（マルコ2：27）。

救い主は自らの模範によって、わたしたちがどのようにすれば安息日を聖なる日にできるかを示されました。主が行われたように、安息日に人々を助けること（マタイ12：10-13参照）、助けを必要としている人に手を差し伸べ、悲しんでいる人に慰めを与えること（ルカ13：11-16参照）、危険な状態に置かれている生き物を救い出すこと（ルカ14：5参照）は律法にかなう行いです。安息日を正しく過ごすための鍵は、福音のほかの原則に従うための鍵と同じように、わたしたちの心の中にある

ことを主は明らかにされました。主を愛していれば、どのような方法であっても安息日を破りたいとは思わないはずです。

使徒の時代の聖徒たちは主を愛するがゆえに、天地創造以来最大の出来事である創造主御自身の復活を記念するため、「週の初めの日」（使徒20：7）を「主の日」（黙示1：10）として、安息日を守るようになりました。

ところで末日聖徒は、安息日を守ることによって主に對する愛を示すようにと、幾度となく勧告を受けてきました。例えば、大管長会は1993年に次のような勧告を与えています。

「わたしたちは多くの末日聖徒が安息日を守ることについて無関心であることを憂慮しています。安息日に買い物をしたり、商業活動を行ったり、スポーツに参加したりするのをやめなければなりません。これらは皆、神聖な安息日を汚しています。

「わたしたちはすべての末日聖徒に対して、この聖なる日を世の活動から切り離し、礼拝と感謝、奉仕、安息日にふさわしい家族中心の活動に専心する日とするよう強く勧告します。教員が安息日に主の御心と主の御靈に添った活動を行うならば、彼らの生活は喜びと平安に満たされることでしょう」（Ensign『エンサイン』1993年1月号、80）。

安息日に関する指針

古代と現代の預言者たちは安息日に行うべきことと行うべきでないことをすべて挙げているわけではありません。けれども一般的な指針としての役割を果たす聖句を示してくれています。その幾つかを検討してみましょう。

預言者イザヤは安息日を聖く保つことについて、次のように最も分かりやすくまた麗しい表現を使って指針を

与えています。「わが聖日にあるあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日ととなえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなし言葉を語らない……。」(イザヤ58:13)。

紀元前5世紀にユダヤのパシャン区域の総督であったネヘミヤは靈的^{けんそん}で謙遜な管理者でした。ネヘミヤはイスラエルのために大胆にまた熱心に改革を推進しました。流刑の地から故国に戻ったユダヤ人はネヘミヤの指導の下で、神に従うことを聖約しました。その聖約には次の二項が含まれていました。「またこの地の民らがたとい品物または穀物を安息日に携えて来て売ろうとしても、われわれは安息日または聖日にはそれを買わない。」(ネヘミヤ10:31)

一部の商人が安息日に商売を続けていたとき、ネヘミヤは次のように言って、自分が主の日を真剣に尊んでいることを明らかにしました。

「そこでわたしはユダの尊い人々を責めて言った、『あなたがたはなぜこの悪事を行って、安息日を汚すのか。』

あなたがたの先祖も、このように行ったので、われわれの神はこのすべての災を、われわれとこの町に下されたではないか。ところがあなたがたは安息日を汚して、さらに大いなる怒りをイスラエルの上に招くのである。』

そこで安息日の前に、エルサレムのもうもろの門が暗くなり始めた時、わたしは命じてそのとびらを閉じさせ、安息日が終るまでこれを開いてはならないと命じ、わたしのしもべ数人を門に置いて、安息日に荷を携え入れさせないようにした。」(ネヘミヤ13:17-19)

わたしは最近、『旧約聖書』に記されているこの状況と同じような状況に遭遇した人の話を耳にしました。

末日聖徒のある夫婦が、以前はあまり繁盛ていなかったレストランを買いました。けれどもこの夫婦はそれまでとは違う方法を探り入れて仕事



を展開しようと計画していました。以前のこのレストランでは、日曜日が最も客の入る日でした。このため、レストランの購入資金を貸してくれた親しい友人をはじめとする周囲の人々は、これからも日曜日に営業を続けるよう強く勧めていました。二人は日曜日にレストランを閉めるかどうかで悩みました。事業を成功させたいと思うならば、客の多い日曜日にレストランを閉めるなど一般論からすれば愚かなことでした。けれども二人は店を閉め、自分たちの信条を優先させて、あとは主に頼ることにしました。こうして始められたレストランはたちまちのうちに売り上げが伸びていきました。その後も経営は安定し、成長を続けたのです。

この夫婦の体験やそのほか大勢の教会員の体験から、主は主の戒めを守る人々に報いをお与えになるのを学ぶことができます。主がモーセの時代のイスラエル人に安息日の前日に2倍のマナを与えると約束されたように(出エジプト16:29参照)、また7年目と8年目のために6年目には豊かな収穫を約束されたように(レビ25:3-7, 20-22参照)、現代のレストランでも主は、安息日に売り上げることができたであろう金額に見合う、時にはそれを上回る売り上げを金曜日と土曜日に上げられるよう

「いと高き方に礼拝をささげ、……〔また、〕この日には、あなたはほかに何事もしないようしなければならない。ただ、あなたの食物を真心を込めて準備して……あなたの喜びが満たされるようにするだけである。」



「マリヤとマルタと語り合われるキリスト」デル・バーソン画

にすることがおできになります。

もちろん、安息日を大切にすれば、必ず金銭的な報いを受けられると考えるべきではありません。福音に従うために経済的困難を堪え忍ぶよう求められることもあります。けれども、わたしたちが安息日に律法に従うならば、主はわたしたちにとって最も良いとお考えになる祝福を与えてくださいます。



邪悪から身を守る

主は現代に、わたしたちが安息日を聖なる日とするならば、靈性を低下させる世の問題から守られると言われました。主はジョセフ・スミスに与えた啓示の中で十戒の第4の戒めを改めて述べておられます。「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。」(教義と聖約59:9、下線付加)

不道徳、反抗、家族構造と家族の安定の崩壊、そのほかわたしたちを脅かしている靈的な危機から身を守るために主が示された方法はこれです。すなわち、毎週の安息日に聖餐を受けることです。これには、定期的に悔い改めを行い、自らを清く保ち、「世の汚れに染まらない」ようにすることが含まれます。

主は続けてこう言われました。「まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」(教義と聖約59:10) 安息日を心からの礼拝をささげる日とするならば、つまり神と人々に仕えるために自分のすべてと勢

力をささげるならば、わたしたちを取り巻く邪悪に対して防護壁を築くことができます。

「この主の日に、あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげ、また兄弟たちと主の前にあなたの罪を告白しなければならないことを覚えておきなさい。」(教義と聖約59:12) 供え物とは、神と隣人に仕えるために時間、才能、財産などをささげるという意味です。この聖句は、主の業のためにわたしたちが持っているすべてを差し出すだけでなく、犯した罪について主と被害を受けた人、さらに該当する場合に主から任じられた僕に告白することによって自分を守るように勧めています。

主はさらに続けて、主の聖日にはどのような事柄が受け入れられるかを明確にしておられます。「また、この日には、あなたはほかに何事もしないようにしなければならない。ただ、あなたの食物を真心を込めて準備して……あなたの喜びが満たされるようにするだけである。」(教義と聖約59:13) ここに、この1日を聖なる日とするための具体例が記されています。わたしたちの献身する気持ちがこの世的な満足ではなく、神に向けられるように、食事の準備は簡単にすべきです。

けれども、考えなければならないことはまだあります。十二使徒定員会のマーク・E・ピーターセン長老は「この日には、あなたはほかに何事もしないようにしなければならない」という戒めの意義について、次のように説明しています。

「日曜日には聖なる目的にだけ心を向け、それ以外のことはすべきでないというなら、そのことを承知しながら安息日に商売をしたり、日曜日の仕事を奨励したり、あるいはまた日曜日に行楽地に出かけたりすることに対してどのような見方をすればよいのだろうか。

もちろん病院やその他24時間勤務の職場で働く、社会にとって必要不可欠の労働者もいる。彼らには勤務状況を選択することなど許されないかもしれない。わたしたちはこういった人々のことを述べているのではない。

しかしそのような条件下で働いている人はそう多くない。自分で時間を調整できるはずであるから、彼らは日曜日に教会に行くよりは、スキーや水泳に行ったり、映画を見たり、あるいは商売をしたりする方がよいと考えているのだろうか。もしそうだとすれば、彼らはそれだけ福



音の道から離れ、ほかの福音すなわち日曜日に楽しんだり、仕事をしたりしてもよしとする違った福音を受け入れているのではないだろうか。……

安息日をいかに過ごすか〔は、神〕に対する心の表れである。……

安息日の遵守がわたしたちの改宗の度合いを示している……。〔Conference Report『大会報告1973-1975』337-338、下線付加〕

スペンサー・W・キンポール大管長は十二使徒定員会の会員であった時代に、安息日を正しく過ごすについて次のような提案をしています。

「安息日は聖なるふさわしい事柄を行う聖日である。労働とレクリエーションを慎むことは大切なことではあるが、それだけでは十分とは言えない。安息日は建設的な考え方と行動を要求される日である。したがって、もし何もせずにぶらぶらしているとしたら、それは安息日を破っていることになるのである。安息日を守るために、ひざまずいて祈り、レッスンの準備をし、福音を学び、瞑想し、病人や苦しんでいる人を訪問し、睡眠を取り、健全な書物を読み、出席することが期待されているその日のすべての集会に出席するはずである。このような正しい事柄をしないことは不作為の罪である。」〔『赦しの奇跡』103〕

十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は、主の日に対するわたしたちの態度と気持ちは服装によっても影響を受けると述べています。「あの意味のある懐かしい『日曜日の晴れ着』という言葉はどうなったことかとよく考えます。普段着に着替えてしまうと、わたしたちの行いまで自分の着ている服装に左右されるようです。

もちろん、教会へ着ていくような服装を子供たちに一日中身に着けているよう期待することはしませんが、かと言って安息日にふさわしくない服装でもよい、というわけでもありません。」〔「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」『聖徒の道』1985年1月号、19〕

祝福の源

安息日を心から喜びの日と呼び、聖なる日とする人々には大きな祝福が約束されています。「あなたがたが、感謝して、楽しげな心と表情をもって、……これらのことを行うならば、……地に満ちているもの、……地から

「安息日は聖なるふさわしい事柄を行う聖日である。」



「ヤイロの娘を生き返せられるキリスト」グレッグ・K・オルセン画

生じる良いものも、あなたがたのものとなる。」（教義と聖約59：15-17）

祝福がすぐにはもたらされないことが時にはあります。信仰に従って生活するために、大きな犠牲を求められることもあります。けれども、安息日の精神にふさわしい活動のみを行ってこの日を過ごすならば、わたしたちは喜びと平安を与えられ、すべてのことは最終的にわたしたちの益となると約束されています（教義と聖約98：3参照）。

数年前に、ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターで勉強していた一人の学生がアメリカ合衆国に戻って間もなく、わたしに手紙を書いてきました。彼女は安息日に働くことに関して大きな試練を受けたと報告してきました。「わたしにとっていちばん大変だったのは、もうこれ以上日曜日に働けないと上司に話すことでした。それまでの2年間、わたしは日曜日に働くことを大して気に留めていませんでした。けれどもその後どうするのが正しいかを知ってから、わたしは日曜日に働くのを正当化できなくなりました。」

彼女は上司を尊敬していたため、口に出せなかったのです。「とてもよくしてくださったので、言い出せなかったのだと思います。その会社にいるかぎり、職を失う心配はありませんでした。」

彼女が勇気を奮い起こすためには、断食した1日を含めて3日かかりました。「安息日をどのように考えているかを、何とか上司に理解してほしかったのです。わたしは念のため、友好的な雰囲気の下で話し合いたいことを表すために、平和のささげ物としてオリーブの木の彫り物を持って行きました。当然のように、話はエルサレムとわたしがイスラエルでてきた事柄を中心に展開しました。このような話題を採り上げたのは、わたしはなぜ

日曜日に働けないかを理解できるように上司に気持ちの準備をしてもらうためでした。

そして、とうとうわたしの仕事が話題になりました。気持ちとは裏腹に、動搖したわたしは声を少し震わせていました。けれども、最終的には自分の気持ちをすべて伝えることができました。御靈がその場にあったのは明らかでした。上司は目を潤ませていました。そして、上司も言葉を詰まらせながら、わたしの決意を尊重すること、そして自分の信じていることのために勇気を奮って立ち上がったのを喜んでいると言ってくれました。

上司はまた、自分の信念はわたしの信仰とは少し違うこと、そしてすべての従業員を公平に扱わなければならないことについて説明しました。彼は、わたしがもう仕事を続けることができないとはっきり言ったわけではありませんでしたが、二人ともそのことを感じていました。わたしは肩の荷を降ろしたような気持ちがしました。わたしは失業しましたが、大丈夫です。何とかなると思います。」

わたしたちの未来の安息日は今日から始まる

大いなる福千年に備えるために、末日聖徒は心が清く、神の御心に従順な民となるために努力する機会が与えられています。そのような努力を続ける民はほんとうの意味で「安息日を守ってこれを聖なる日として保つことでしょう（教義と聖約68：29）。福千年のシオンにおいて、安息日はどのような日となるのでしょうか。

これまでに記されたすべての資料から判断すると、主の日には、肉体を使って働いたり、買い物をしたり、店を開けたり、スポーツや娯楽のイベントが行われたりすることはありません。シオンの民は前日の夜遅くまで働いて、疲れた体で安息日を迎えるようなことはないと思われます。

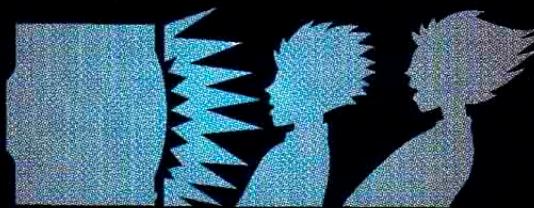
これらの聖徒は教会の集会に出席し、個人としてまた家族とともに聖文を研究し、深く考え、そのほか靈性を高める資料を読んで一日を過ごすことでしょう。恐らく彼らは個人と家族の歴史を書き、人々の気持ちを高揚させるために力を尽くし、病人を見舞い、家族の歴史を調べ、伝道活動を行い、靈感あふれる音楽を歌い、その調べに耳を傾け、そのほか主の御靈により促される活動に従事していることでしょう。安息日を聖なる日として保ち、安息日の主をたたえる聖徒たちは、主が約束してお

られる平安と喜びを味わうでしょう。

このような光景が繰り広げられる安息日は人々の目に美しく映ることでしょう。大切なのは、このような光景は福千年の未来まで待たなくても実現するということです。わたしたちがこのような状態を実現したいと思うならば、来週の日曜日から実現させることができます。そしてすぐにも従順がもたらす祝福を刈り取ることができます。□



暴力に対する警戒



ハロルド・オーカス

争い、特に暴力は、問題を解決するために取るべき方法ではありません（3ニーファイ11：29-30参照）。残念ながら、テレビやビデオ、映画やテレビゲームは、その反対のことを教えています。アニメ漫画や多くの子供向けの番組でさえ、暴力をおもしろおかしく描き、だれもほんとうにはけがはしないし、どんな意見の不一致も空手キックや武器を使えば解決できるかのように思わせています。

過去40年にわたる何千という研究結果は、画面で起こる出来事と暴力番組を見る人々の生活に実際に起こる出来事とが直接関係していることを表しています。特に子供たちは、問題を解決するために自分の怒りをぶつけるように教えられ、より攻撃的になります。一般の人々は暴力によるほんとうの痛みに鈍感になります。暴力の持つ中毒的な性質によって、残忍な行動を見たい、また、実際に行いたいという気持ちが引き起こされるのです。

ますます暴力的になりつつある世の中にあって、わたしたちは自分自身や愛する者たちを、退廃したメディアによる暴力の影響から守らなければなりません。

わたしたちにできること

① 暴力は苦しみをもたらすことを理解する。笑って見ていられるようなものではない。

② 暴力行為のもたらす結果をよく考える。被害者だけでなく、加害者にとっても害となる。

③ 自制心、忍耐、寛容、成熟した判断力を身に付けた人々を模範とする（箴言15：1、18；1コリント13：4-5参照）。

④ 家庭におけるメディアを監視する。例えば、両親は子供たちの見ているものを見て、暴力的な場面が出てきたらそれについて話し合う。ニュースの中で報道される暴力も含む。

⑤ 問題を解決するために、ほかにどんな方法があるかを考える。例えば、子供と一緒にテレビを見ながら、「この人はこの問題を解決するために、ほかにどんな方法が取れただろう」と尋ねる。

⑥ 預言者の勧告に従い、R指定の映画（訳注——アメリカの映画観客指定格付け制度により指定された、暴力、または性的描写を含む映画）をはじめ、不適切なものを避ける。

聖約を交わし儀式を受けることによって シオンを築く

ジェームズ・E・ファウスト副管長は、神殿の儀式を受けようとして神殿に詰めかけた教会員について語っています。それは、西部へ向かう危険な旅に出発するためにノーブーを去る前日のことでした。彼らの要望にこたえて、ブリガム・ヤング大管長は、儀式を執行するために夜遅くまで神殿を開けていました（「永遠、わたしたちの行く末」『聖徒の道』1997年7月号、21参照）。

末日聖徒に与えられる聖約と儀式には、従順、犠牲、貞潔、奉獻という福音の原則があります。これらの聖約を交わすことは、シオンへ向かう旅に耐えるための靈的な備えとなりました。

シオンへ向かってともに旅する

初期の開拓者たちのように、聖約を交わし福音の儀式を受けるとき、わたしたちもシオンへ向かう旅を始めるのです。シオンは単に場所を表すだけではなく、キリストのような心の清さを表しています（教義と聖約97:21参照）。ヤング大管長は、「聖徒の完成に欠かすことのできない神の御子の聖なる神権の儀式を受け」ることによって、自らの旅の備えをするのだと教えていました（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』124）。これらの儀式はバプテスマに始まり、神殿の儀式で極みに達します。

儀式は個人としてわたしたちが清められるのを助けるだけでなく、民としてわたしたちを一つにしてくれます。聖文には、エノクの時代のことが次のように記されています。「主はその民

をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」（モーセ7:18）

まさしくこのような一致の精神をもって、開拓者の多くがアメリカ西部へやってきました。聖徒たちは幾つかの隊に組織され、主の戒めを守るという聖約を交わしました。旅人は皆、幌馬車に載せた物資を平等に分け合い、「貧しい者、やもめ、父のいない子供」がつらい思いをしないように配慮しました（教義と聖約136:6-8参照）。

旅は犠牲を伴う

13歳のメアリー・ゴーブル・ペイの家族は牛と牛に引かせる幌馬車を持っていましたが、二つの手車隊と一緒に旅をすることを約束しました。普通、手車は牛の引く幌馬車より早く進むこ

とができました。しかし、例年より早く訪れた吹雪に行く手を遮られ、開拓者たちの力が弱まり始めたため、メアリーの家族は彼らよりも先に進むこともできました。それでも、「手車隊を追い越してはならないという指示を受けていました」とメアリーは書いています。「わたしたちはいつでも彼らを助けられるように、彼らのそばを離れずにいる必要がありました。」福音の聖約を交わした人々は「互いに重荷を負い合うことを望」んだのです（モーサヤ18:8-10参照）。

メアリーの家族は大きな犠牲を払って聖約を守り、手車隊と一緒に進みました。メアリーの妹、弟、母親は寒さと病気と栄養失調のために亡くなりました（“Autobiography of Mary Goble Pay” A Believing People: Literature of the Latter-day Saints「メアリー・ゴーブル・ペイの自伝」『信仰ある人々——末日聖徒の文学』143-145）。

人生の旅路にあっては、幌馬車隊の先頭を行く人も、いちばん最後からついて行く人もいるでしょう。旅を共にする人や状況を自分で選ぶことができない場合もあるでしょう。しかし、聖約を交わして守り、福音の儀式を受けることによって、旅を共にする人々を助けるための備えができます。シオンの姉妹として、わたしたちはシオンを築くためにともに働くことができるのです。

●儀式を受け、聖約を交わすことは、自分を清めるうえでどのような助けになりますか。

●シオンを築くためにともに働くことは、なぜ大切なのでしょうか。□



生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告



若人の教育

「教育は機会への扉を開く鍵です。^{かぎ}若い友人の皆さんに申し上げます。教育を受ける機会を軽はずみに途中で終わらせることのないようにしてください。それは皆さんにとってきわめて重要なことであり、教会にとっても重要なことです。なぜなら、皆さんは自分の技能や力によって社会に貢献していくからです。教会に対する誉れと敬意は、心と手を訓練し、世の仕事に従事するのにふさわしくなるよう自分自身を備えることによって、さらに増し加えられていくのです。」¹

教会が会員に対して望むこと

「さて、主は皆さんにすばらしい事柄を期待しておられます。〔まず〕わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての会員に対して、神が生きておられ、イエスがキリストであられるという証^{あが}を持つように望んでいます。まだその証を持つていない人でも、これから、それを得られます。第2に、〔教会は〕皆さん一人一人に対して、神権者に忠実であるように望んでいます。大管長会、十二使徒定員会、七十人など、この教会の役員は、だれ一人それらの役職を自ら望んで得たではありません。第3に、わたしたちは知恵の言葉に従い、アルコール性飲料、たばこ、茶、コーヒーを口にしないように望まれています。第4に、教会はわたしたちに什分の一を納めるように望んでいます。この律法に従う人に

は神のすばらしい約束がなされています。第5に、すべての男性は妻を神の娘、自分と対等の神の娘、力を合わせてともに歩んでいく存在として尊ばなければなりません。女性を軽視することのないこの教えはすばらしいものです。ある立派な男性は、父親にできる最もすばらしいことは、妻を愛しているのを子供たちに見せることであると言いました。兄弟の皆さん、愛と敬意と優しさをもって妻に接してください。姉妹たちも、愛と敬意と優しさをもって夫に接してください。第6に、教会は皆さんに、聖餐式に出席することを望んでいます。聖餐会の雰囲気をよくするために積極的な気持ちで参加してください。聖餐を受け、主と交わした聖約を更新してください。」²

社会の世俗化

「わたしには、大いに関心を寄せている事柄があります。それは、わたしたちの社会のすばらしい数々の要素と生活習慣を次代を担う人々に伝えていくことです。それは彼らにわたしたちがこれまで享受してきた力と徳をもたらすことでしょう。ただし、これまで幾つかの社会的病弊の兆候について語

ってきましたが、それらを目にするとにつけ、憂慮の念を覚えます。わたしたちの周囲に見受けられる腐敗した現象の大きな要因は、わたしたちの先祖が信じ、愛し、礼拝し、力のよりどころとした神を忘れたことに起因していると思います。はっきりと認識できる、世俗化を示す現象があります。それは現実に起きているものです。その結果は、家庭生活の崩壊や自制心の低下であり、全能者への釈明の責任という考えをあざける風潮、また惜しみない神の慈悲によって豊かな祝福を受けてきた人に似つかわしくない傲慢さです。」³

親の責任

「この小さな子供たちは神の息子、娘であり、皆さんには彼らを養う責任があること、また、皆さんのが親である以前に、神も彼らの親であり、御自身の小さな子供たちに対する権利や関心を保ち続けておられることを、決して忘れないようにしてください。子供たちを愛し、その世話をあげてください。父親の皆さんは、今も、そしてこれから先常に、自分の感情を制してください。母親の皆さんも、声を荒げることなく、穏やかに話すようにしてください。愛をもって、また主の薫陶と訓戒をもって子供たちを育ててください。小さな子供たちを大切にしてください。家庭の中に温かく受け入れ、心を尽くして彼らを愛し育ててください。子供たちは将来、皆さんのが望まないようなことをするかもしれません。

しかし、そのときはひたすら忍耐してください。これまで努力を続けていかざり、失敗することはありませんでした。そのことを決して忘れないでください。』⁴

伝道活動

「わたしはすべての若い男性が、自分の目標のリストに伝道に出ることを入れるように望んでいます。皆さん、ほかの何ものをも伝道に出すことより優先しないよう願っています。主は皆さんを必要としておられます。主は皆さんの助けを必要とし、皆さんの力、皆さんの声を必要としていらっしゃるのです。わたしたちは、主がその業を

押し進められるうえで、重要な存在なのです。そしてわたしたちは、その業に取り組み、神の聖なる御心の達成のために協力し合う必要があるのです。』⁵

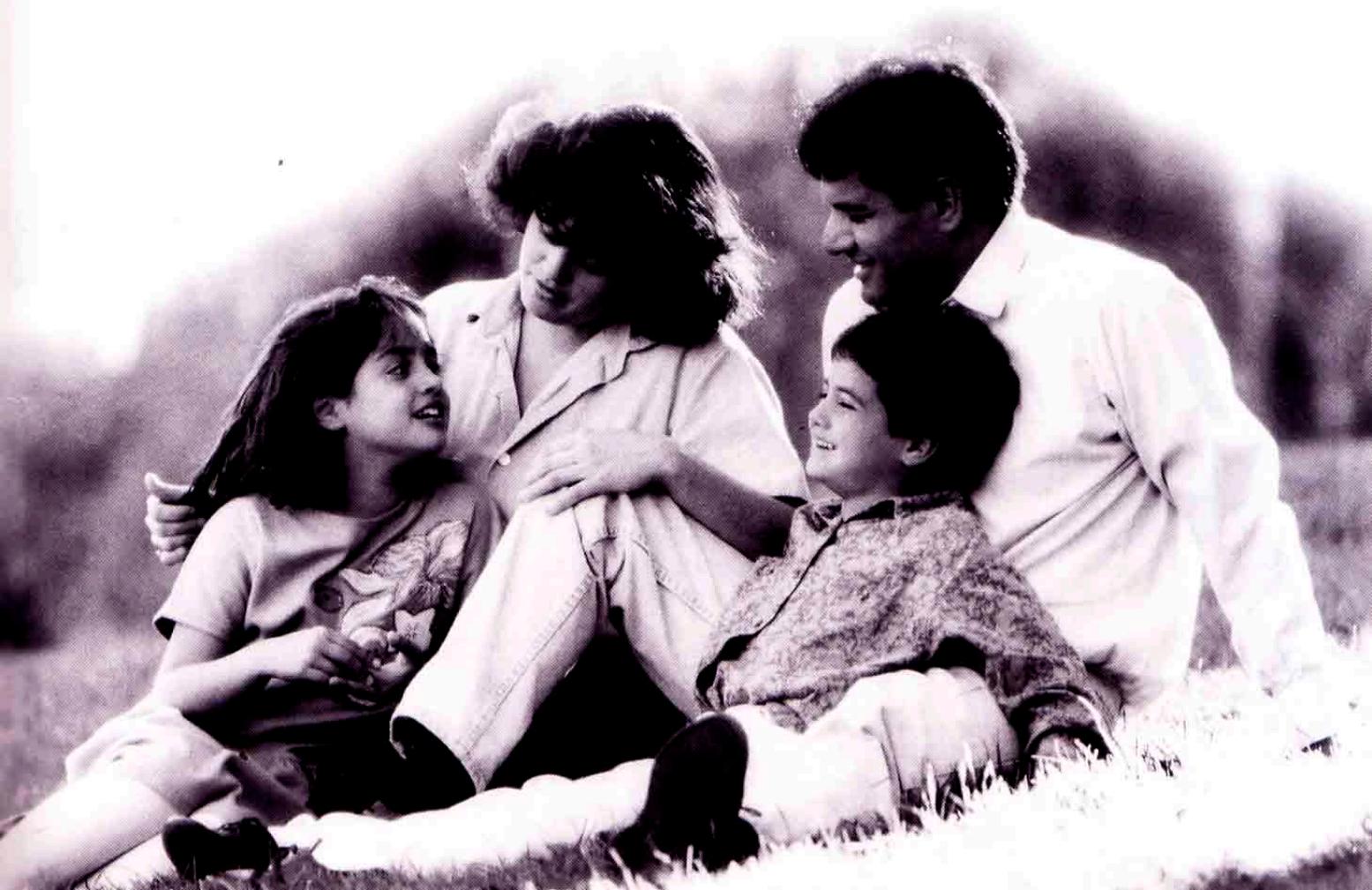
御業は前進する

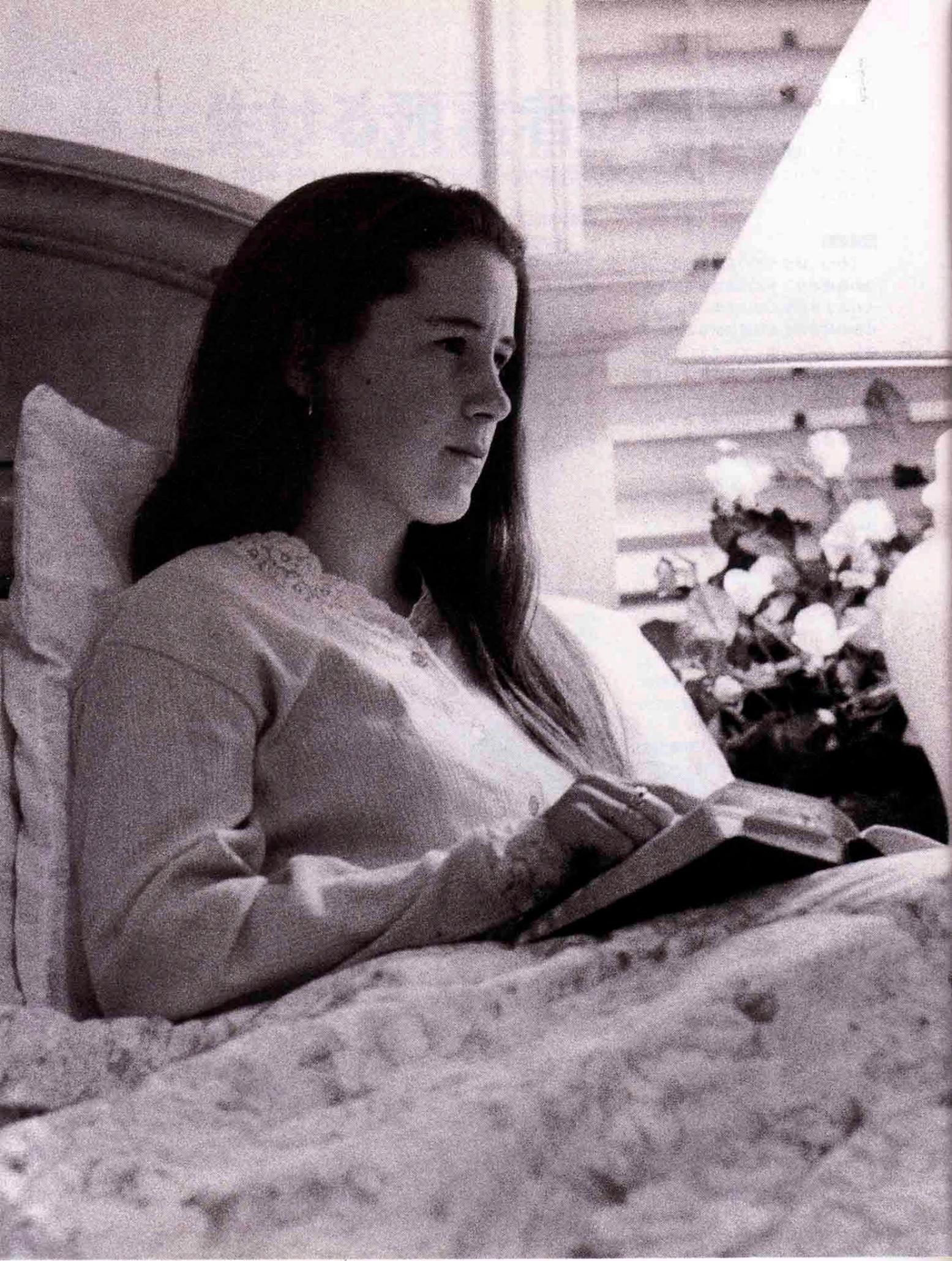
「主の業は前進し続けています。人々の信仰によって押し進められています。救い主はわたしたちに、すべての国民、血族、民族、人々に福音を説き教えるようにとの戒めを与えておられます。わたしたちは今や150以上の国々に教会を組織しています。わたしたちが行く所には必ず、神権を持つ善良で優れた指導者がいます。またすばらしい信仰と能力を持つ女性、そ

して聖歌隊で天使のような歌声で歌う若人、祈り、知恵の言葉に従い、自分の一を納め、この業の神聖さに対して心からの証を持つ人々がいるのです。』⁶□

注

1. 青少年のための集会、ミズーリ州カンザスシティ、1996年7月14日
2. ファイイヤサイド、ブラジル・サンパウロ、1996年11月14日
3. ユタ州連邦編入100周年記念行事、ユタ州プロボ、1996年8月4日
4. ソルトレーク・大学第3ステーク大会、1996年11月3日
5. 青少年のための集会、ミズーリ州カンザスシティ、1996年7月14日
6. 大阪地区大会、1996年5月19日





聖文から 何を調べたらよいのでしょうか

聖文には、聖文を熱心に調べなければならないと書かれていますが、それはどういう意味なのでしょうか。わたしは毎晩聖文を読んでいますが、何をどのように調べたらよいのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

聖文について述べた言葉の中で、主はこう宣言しておられます。「これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである。……これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わたしの声である。これらの言葉は、わたしの御靈みたまによってあなたがたに与えられているからである。……そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。」(教義と聖約18:34-36)

主の御靈、すなわち主の声に耳を傾けるにつれ、皆さんは福音の原則とそれを自分の人生に応用する方法を、心と想いで理解するようになります。事実、皆さんに聖文が与えられている理由の一つは、「キリストの言葉をよく味わ〔うことができ、〕見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるから」なのです(2ニーファイ32:3)。皆さんはバプテスマを受け、聖靈の賜物たまものを受けられた者として、聖文を学び、靈感を祈り求めるときに、個人的な導きを得られます(2ニーファイ32:4-5参照)。

聖文から調べられるものは数多くあります。そして調べること自体にも、様々な理由があります。時には特定の

福音の主題について知識を求めることもできます。聖文の言葉によって御靈を感じ、確信を受けたいと望む場合もあるでしょう。あるいは単に、主が皆さんにその都度明らかにしようと望まれている事柄を知りたいと求める場合もあるでしょう。もちろん、救い主イエス・キリストについて理解を深めるために、常に聖文に目を向けることもできます。

聖文の学習をより効果的にするための提案を幾つか次に挙げてみましょう。

聖文の言葉を自分自身に応用する。わたしたちはニーファイと同じように「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにする」ことができます(1ニーファイ19:23)。例えば、第三ニーファイ第18章15節のように「あなたがた」という代名詞が出てくる箇所では、そこに自分の名前を当てはめてみるのです。「まことに、まことに、わたしは〔自分の名前を入れる〕に言う。あなたがたは悪魔に誘惑されないように、また悪魔に捕らえられないように、常に目を覚ましていて祈らなくてはならない。」

聖文を定期的に学ぶ。定期的に聖文を学ぶ習慣を身に付ければ、必要なときに、もっとよく聖文から導きを受け

られるようになります。求める情報を得るために、項目リスト、脚注、地図など、聖典中の情報源をすべて活用してください。

総大会での説教を研究する。理解を深めるために、預言者やほかの中央幹部がどのように聖文を活用し、聖句を解釈しているか参考にしてください。

教会の機関誌を読む。教会の機関誌には、皆さんの福音の学習を充実させる様々な洞察が含まれています。機関誌を定期的に読み、心に感動を覚え、精神を啓発される事柄があれば、聖典を開き、さらに情報を得るようにするといいでしょう。

ほかの人々から学ぶ。親、教会の指導者、セミナリーの教師、ホームティーチャー、日曜学校の教師、そのほかワードの会員で、聖文に対して何か特別な洞察を得ている人がいるかもしれません。恐らくその人々は、聖文が説く原則を生活で実践しようとする過程で、価値ある教訓を得てきたことと思います。その洞察や教訓を分かち合ってもらうよう頼んでみましょう。

聖文は、神の靈感によって書かれたものです。聖文の学習は、靈感を受け、自分自身の様々な疑問や問題について答えや導きを見いだす一つの方法です。靈感を受けることについて強い関心を持つそのときこそが、聖文が皆さんに個人的に語りかけてくれる最高の機会になり得るのです。

読者からの提案

わたしたちは、聖文を熱心に調べるなら、神の奥義を明らかにされると約

束されています（1ニーファイ10：19参照）。ですから、聖文を調べる目的は、真理を知ることであると理解する必要があります。ただ読むだけでなく、それが真実であるとの証^{あかし}を得られるように、読んだ内容について深く考え、祈ることが求められます。



トンガ・ヌクアロファ伝道部
デビッド・H・キオア長老

わたしたちの日曜学校の12歳から14歳のクラスでは、聖文を調べることを、家を捜索する警察官にたとえていました。警察官が証拠を求めて家の中に入ると同じように、わたしたちもイエスがキリストであられるという証拠を求めて、聖文の中に「入る」のです。わたしたちは、信仰と証を強めてくれる知識を求めているのです。わたしたちは聖文の中で、成長を促してくれる興味深い人物や出来事について読みます。わたしたちは福音と人生に関する様々な問題を解決する方法、数々の疑問に対する答えを見いだすことができます。

わたしたちは聖文を読むとき、天の御父と救い主への理解を深め、御二方にさらに似た者となるためになすべきことを学びます。わたしたちは、聖文の言葉がすべて、それぞれの箇所に位置しているのには理由があり、また自分に応用できる事柄をいつでも学べると分かってきました。

スウェーデン・イエーテボリイスティーク、ブロースワード、日曜学校青少年クラス

日々の生活で問題が起る度に、わたしは解決策と心の安らぎを求めて、聖典を開きます。聖文に書かれている言葉は、そこから学んだ教訓を実践に移すとき、非常に大きな助けとなります。そのようにしてわたしは毎日、靈的に成長していくことができます。



ニューカレドニア地方部、
ヌーメア第1支部
アレクシア・ウシャール、
20歳

わたしたちは聖文を熱心に調べることにより、信仰を真理への確かな知識にしていくことができます。そして、この知識はイエス・キリストに対するわたしたちの証をさらに強めてくれます。トゥバイ・オーストラレズ地方部、マタウラ支部
ステラ・テホイリ

わたしは宣教師から福音を学んでいるときに、『モルモン書』についてたくさんの疑問がありました。しかし、モロナイ書第10章3節から5節に記されている約束を心に留めながら、長い間熱心に調べ、瞑想した後に、自分の靈が目覚めるのを感じ、『モルモン書』が真実であると知りました。

今は専任宣教師としてこの真理を証できるのを、とても幸せに思っています。



アイボリーコースト・アビ
ジョン伝道部
ムボンゴンバシ長老

わたしたちは、聖文を学ぶことによって、福音の知識と証が得られることを知っています。しかし、その知識を思いと心の中にしっかりとどめるには、自分が学んでいる事柄を理解できるように祈る必要があることも分かりました。またほかの人にも応用できる技術も幾つか身に付けてきました。

第1は、自分が読んでいる聖文の箇所に登場する人物がだれであるかを明らかにすることです。だれがだれに向かって話しているのか、またそのテーマは何であるのかを確認するのです。

第2は、聖文の中で使われている言葉の意味を明らかにすることです。『聖書』の翻訳の中で用いられた数々の言葉はその当時と現代においては、完全に同じ意味で用いられていない場合があります。そこで大いに役立つのが辞典です。

第3は、聖文に書かれている事柄を、それが起きた順にたどっていくことです。例を挙げると、アルマ書の第32章では、福音への証の得ることが、種をまき、育てることにたとえられています。アルマが述べている事柄を、順を追って認識していくと、そこに説かれている教えを理解する助けになります。

第4は、わたしが好んで用いる方法ですが、聖文を自分独自のものにするやり方です。聖文の中で呼びかけられている人物の名前を、自分の名前に置き換えるのです。

回復されたイエス・キリストの福音に対するわたしの証は祈り、熱心に聖文を調べるときに強められていきます。わたしが得る知識は、すばらしい

数々の祝福の源なのです。

ブラジル・フォルタレザステーク、メッセワナワードノイマ・セレン・サライバ・リマ、28歳



聖文を熱心に調べるとは、神の言葉をよく「味わい」、その教えについて瞑想し、深く考えることを意味します。さらに正確に言うと、それを読み、深く学び、学んだ教訓と原則を実践する必要があります。また、聖文に対する証、自分が探している答えを求めて祈ることも必要です。

その点において少年ジョセフ・スマスほどすばらしい手本はほかにないと思います。彼は聖文の中に真理を求め、深く考え、ヤコブの手紙第1章5節の教えに従って行動したのです。

マダガスカル・アンタナナリボ地方部、アンタナナリボ第1支部
チャールズ・ランボラーソン

聖文を調べ、救い主と救いの計画に関する預言者の証を読むにつれ、わたしたちの信仰は強められていきます。さらに主に近づきたいという心からの願いをもって毎日聖文を読むならば、わたしたちは約束されたすばらしい祝福にあずかることができます。『モルモン書』のヤコブ書第4章6節には、聖文を調べる人について、次のように書かれています。「わたしたちには多くの啓示があり、また預言の靈がある。このように証するものが数々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は揺るぎないものに

なっている。」聖文を調べ、その原則を実生活の中に応用することによって、わたしたちはサタンの支配を免れることができます。要するに、聖文を調べることは、真の心の変化を経験するため、最も効果的な方法の一つなのです。



グアテマラ・ケサルテナンゴ・エルボスケステーク、サンクリストバル・トトニカバーン支部
デニス・オマル・バルガス・カナフィ

わたしは聖文を調べて得た知識を、日々の問題の解決に用いています。そういうことによって、天の御父と救い主をさらに近く感じることができ、より善い人になるため役立てることができます。



フィリピン・サンティアゴ地方部、ディファン支部
フレデリック・C・ブサニア

聖文はわたしに与えられている最も貴い賜物に数えられます。なぜなら、聖文は真実の書物であり、読む度に、イエス・キリストの福音に対する証が増していくからです。それはあたかも羅針盤のような存在です。また、人生において今自分がどこに向かっているのか、また成長するには何ができるか理解させてくれます。主の言葉には力があります。また、知恵と愛があり、真理があるのです。これらの賜物をさらによく理解するには、御靈の導きを

求めなければなりません。

イタリア・ベル切尔リ地方部、ノバーラ支部
フランチエスカ・レイモンド、23歳



天の御父とお話をする必要があるとき、わたしは祈りの中で、気持ちや考えを伝えます。しかし、主の声を聞きたいときには、『モルモン書』やほかの標準聖典を読むようにしています。わたしは自分自身を、読んでいる箇所に出て来る人物の立場に置いて考えるように努力しています。そしてその人々の体験を共有するように努めています。主の声を聞くことに、注意のすべてを傾けています。



アルゼンチン・ベルビル地方部、ベルビル支部
ハビエル・アレハンドロ・コロナティ

聖文の本質的な目的は、わたしたちの生活に、真理と靈的な平安、幸福をもたらすことにあります。聖文の字面だけを追う読み方は、混乱と誤りに陥る危険性があります。しかし、祈つてから聖文を読むなら、聖靈が導いてくださることが分かります。



マダガスカル・アンタナナリボ地方部、アンタナナリボ第1支部
リンダ・アンドリアミサマラーラ、24歳

宣教師として、わたしはいつもほかの人々に『モルモン書』を読み、その教えについて深く考え、そのメッセージが真実かどうかを主に尋ねるように話しています。ある日、アルマ書第17章2節から3節を読んでいたときに、モーサヤの息子たちが「聖文を熱心に調べ」た後に、神の力と権能をもって行動できたと知りました。それからわたしの生活は変わりました。わたしは以前にも増して熱心に聖文を調べるようになり、イエス・キリストの福音に対する証が強められました。



エクアドル・キト伝道部
レオニダス・マシアス・イスキエルド

わたしは高校を卒業した記念に母から標準聖典を贈られました。もらったときはそれほどうれしくありませんでしたが、熱心に聖文を調べるようになってからは、聖文が自分の人生にとても重要なものであると理解できるようになりました。わたしは、詩篇、箴言、伝道の書などの韻文が好きになり、アブラハムの信仰に強く心を引かれるようになりました。そして、メシヤの降臨を預言するイザヤの雄弁さに目を見張りました。

聖文には、生活を改善するために求めるべき事柄が実際に多くあると分かりました。



フィリピン・カラペ地方部、
カラペ支部
アビゲール・S・ディエソン

わたしたちは、一つ一つの聖句を読みながら、書かれた理由を深く考える必要があります。それによって、さらに知識が深まります。

聖文学習の前後に祈ることは、適切な補助資料を用いるのと同様に重要なことです。句読点を考えながら聖文を読むのも大切なことです。



ブラジル・ブラジリア・タグアティンガステーク、タグアティンガ第2ワード
ジョバンニ・ジーリオット

天の御父はわたしたちに、毎日聖文から学ぶように望んでおられます。それによって、わたしたちはイエス・キリストの福音がもたらす喜びを味わうことができるのです。



オランダ・ロッテルダムステーク、ロッテルダム第2ワード
アンソニー・L・シルベリエ

わたしたちが聖文の中に求めているのは、イエス・キリストの福音を実践に移すための力だと思います。教義と聖約第98章12節には、忠実な人は「教訓に教訓、規則に規則を加え」られると書かれていますが、わたしたちも自分のなすべき責任を果たす必要があります。まず「心の中でそれをよく思い計り」次に、「それが正しいかどうか」を尋ねなければなりません。その後に、その真理が明らかにされるのです（教義と聖約9:8）。



イタリア・ローマ伝道部
アンジェラ・バルガス姉妹、
21歳

下記の質問に答えて、「質疑応答」のページをさらに有意義なものにしてください。締め切りは1998年7月1日、あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS,
International Magazines,
50 East North Temple Street,
Salt Lake City, Utah 84150-3223 USA.

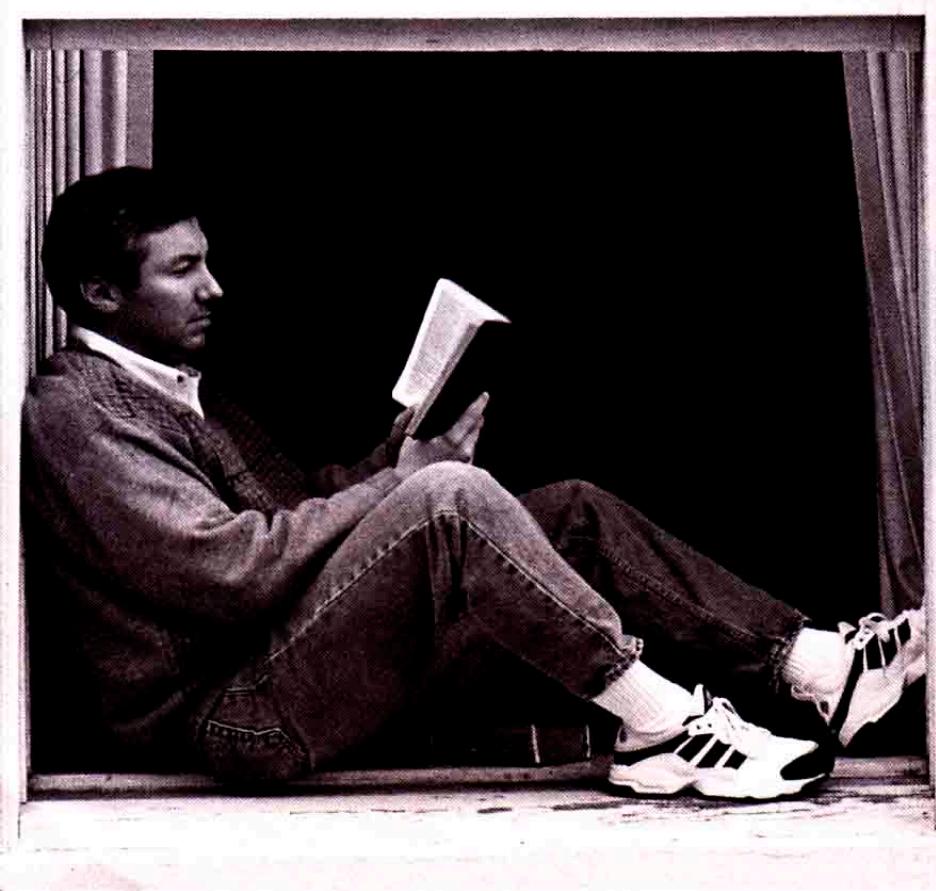
住所、氏名、年齢、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書で読みやすい文字でお書きください。できれば写真を同封してください。ただし写真の返却はできませんので、あらかじめご了承ください。類似した答えの場合は、代表的なもの1通を採用させていただきます。

質問——わたしは、頂いているすべての祝福に感謝しています。しかし、祝福を逐一数え上げていたら、毎日の祈りは同じ内容の繰り返しになるような気がします。同じ祈りを避けるにはどうしたらよいでしょうか。□

わたしの家族

神は、様々な人種を
造られましたが、人
種的偏見はお作りに
なりませんでした。
わたしたちは皆、同
じ御父の子供です。
神の家族の中では、
暴力も憎しみもあり
ません（使徒10：
34参照）。





多くの活発な末日聖徒は、あまり活発でない友人や家族が福音のすべての祝福にあずかれるように、彼らを助けたいと心から願っています。実際に活発化に携わった人々の経験から言えるのは、あまり活発でない兄弟姉妹と彼らが何を必要としているのかについてもっとよく理解していれば、もっと効果的に彼らに手を差し伸べられるということです。

わたしたちがあまり活発でない会員に与えるものが、彼らの望んでいるものや必要としているものと掛け離れていることがしばしばあります。例えば、わたしたちの仲間であると感じてもらうべきときに、完璧な改心を遂げてもらおうとしてしまいます。福音の原則に従って生

多くの人は、教会は真実であり、生ける預言者によって導かれていると信じています。しかし、組織された一宗教に自分たちの生活を改善する力があるのか、疑問を抱いているのかもしれません。また、福音に従って生活する自分自身の能力に自信が持てなかったり、目に見える短所を持っているほかの会員とうまくやっていく自信がなかったり、また神に見捨てられたと感じて神に心を向ける自信を欠いてしまったりする、あまり活発でない会員もいます。またある人は、自尊心を失っていたり、ほかの人々から見下されていると感じたりしています。例えば、ある女性はこう語っています。「わたしはたばこを吸っていました。わたしは、たばこを吸っている

戻る

なぜ教会に戻らないのか、
また手を差し伸べるためにわたしたちにできることは何かについて、
活発でない会員たちが語る。

活することへの自信を持ってもらうべきときに、福音について彼らを再度教えようとしています。

これから紹介する結論は、あまり活発でない会員と、彼らが戻るのを助けたいと心から思っている人々の双方の経験から導き出されたものです。

なぜあまり活発でなくなるのか

多くの教会員は生涯のある期間、あまり活発でない時期を経験するかもしれません。しかしその中の大多数の人は福音への確信を持ち続けており、ついには完全に活発な状態に戻るのです。若いときに福音の教えから離れてしまったある人は、このように回想しています。「わたしは、自分の行っていることが間違っており、教会が正しいと、いつも心の奥底では理解していました。どのようなことがあっても主がわたしを愛し、わたしを心にかけてくださっているのを知っていました。それが大事なんだと思います。」この兄弟のように、あまり活発でない会員の多くが、福音の真理について基本的な知識を持ち続けており、心の中に自分は末日聖徒であるという気持ちを抱いているのです。

では、なぜ完全に活発ではないのでしょうか。

人々について会員たちが悪く言うのをよく耳にします。つまり、会員の目から見て、わたしは善い人間ではないので、教会には行けないです。」

あまり活発でない末日聖徒は、生活を変えると家族や友人から拒まれるのではないかと恐れることができます。あるいは、個人的な願望に心を奪われすぎていたり、教会の活動にほとんど時間を割かなかったりするかもしれません。例えば、家庭を離れて仕事に多くの時間を費やさなければならぬ一人の男性は、家族が大切だから、自分の限りある日曜日の時間を、教会の集会よりも家族とのレクリエーションに費やしたいと語ります。

友人の役割

あまり活発でない会員の中には、わたしたちが愛をもって連れ戻せる人、事実、自分で戻りたいと思っている人が大勢います。しかし活発な会員は、こうしたあまり活発でない会員たちのことをあまりよく知らないので、そのことに気づきません。活発な会員は教会の集会や活動でよく交わる人々の中から自分の親友を見つけるのが常ですから、その結果あまり活発でない会員の中には、閉め出されていると感じる人が出てくるのです。

愛情に満ちたフレンドシッピングは、人々を連れ戻すうえで不可欠です。かつて自分自身があまり活発でない会員であった一人のホームティーチャーは、ホームティーチングを割り当てられた人々を知るために、意識的に時間を使うようにしています。「この人はわたしに関心があるのだろうか」と考えた日々のことを思い出すからです。別のホームティーチャーはこう述べています。「わたしたちは時々、自分は福音に従って生活している、だから行って、福音に従って生活していない人を助けよう、と考えます。そのような態度はほとんど必ずと言つていいほどうまくいきません。そうではなく、『彼らは生活に祝福をもたらしてくれる力強い、有能な、価値ある、すばらしい人々なのだ』と気づいたときに、突如、彼らと対等に交われるようになります。」

真実の友は、あまり活発でない会員を連れ戻すのに必要な3つのものを提供します。第1は、あまり活発でない人々との間に信頼と信任を築き上げるだけの決意です。たとえあまり活発でない人がすぐには反応を示さなくても、あきらめて友情を捨てるようなことはしません。第2に、愛から生まれる温かな心です。第3に、自分自身の苦しみや経験から教訓を得、それを分かち合おうとする気持ちです。

つまずきの石

あまり活発でない会員は、愛に満ちた友人の助けを得て、幾つかのよく見られるつまずきの石に打ち勝つことができます。

恐れ。あまり活発でない会員の多くは、自分が「受け入れ」られないのではないかと考えて、教会に戻るのを恐れています。また、ほかの会員から自分の過去について知られるのを恐れ、彼らとの交わりを断とうとします。また、福音について話すうちに自分の無知があらわになるのを恐れます。だれでも分かるような質問をして自分の無知をさらしたくないと思うのです。また彼らは、自分の抱えている知恵の言葉の問題がさらけ出されるのを恐れます。ある女性は、教会の集会で人の目が気になったと言います。彼女は、自分の服にたばこの臭いがついていたためにほかの人がそばに座るのを避けていたと感じたのです。また、教会のレッスンや話の中には彼らが抱える問題を扱ったものがどうしても出てきますが、彼らにとってそれは恐れであり、苦痛です。離婚した女性

が長い間教会を休んだ後で教会に戻ると、その日の聖餐会は、「永遠の家族」というテーマで進められていました。それは、そのときの自分の困難な状況とは悲しくなるほど対照的だったのです。

「教会に活発になるのはいいけれど、今度は召しに押しつぶされてしまうのでは」と恐れる会員たちもいます。中には、そのような可能性を避けるために活発になることに故意に抵抗している人もいます。また、末日聖徒の標準に従って生活するのに再び失敗することを恐れる人々もいます。ある人はこう語ります。「今のところ、^{あかし}わたしの証は恐らく本来の45パーセントです。ほどほどに保っておきたいと思います。もう一度完全に活発な会員になりたいとは思いません。準備ができていないのに無理をしたくはありませんからね。」

信仰の欠如。あまり活発でない会員は時々、神を信じる信仰とクリスチヤン共通の考え方への信仰は表明するものの、末日聖徒の具体的な教義と原則への信仰を欠いていることがあります。また、教会とその教義の真実性は理解し信じていても、自分自身の証はまだ弱いと感じている人もいます。ある人はこう語っています。「自分の証をどれほど持ちこたえられるか分かりません。いつか厳しい試練に遭ったらくじけてしまうのではないかと恐れています。」

ある人々は、悲劇や苦難によって神を信じる信仰が弱められています：一人の女性が、赤ちゃんを亡くして長い苦闘の期間を過ごしたことを思い出してこう語ります。「なぜ神は貴い子供を自分に与えてくださったのに、その子を取り去ってしまわれたのでしょうか。」

あまり活発でない会員が、活発な末日聖徒に対する不信感を表明することもしばしばです。「わたしは教会の基本的な教義を疑ったことがありません。でも、教会の人々は信じられません。」ある人はそう語ります。

あまり活発でない末日聖徒の中には、活発会員は偽善的だと思っている人もいます。彼らはこのように理由づけします。「わたしは本来あるべき状態ではありませんが、ほかの人と同じくらいには善良です。教会に行っても善い人になれるとは思いませんし、毎週日曜日通っている人々でも、わたしより善良だとは思いません。彼らはそのように装っているだけです。わたしの方がもっと正直です。わたしはほかの人よりも善良であるように装



写真／スティーブ・パンダーソン

自己改善のための能力に自信を持ってもらうことは、活発化に欠かせません。

うことはしません。」自分は閉め出されている、孤独だと感じているあまり活発でない会員たちは、しばしばそのような気持ちを抱きます。人を愛しなさいという救い主の勧告の中の「人」とは、自分にとって気の置けない人だけでなく、あらゆる人を指したものだと、彼らは指摘します（マタイ5：46-47参照）。

まず完全になることなのだろうか

活発な会員は時折、あまり活発でない会員たちの問題は再び教会に来るようになればすぐに解決すると考えます。しかし、それは必ずしも真実ではありません。また、あまり活発でない会員たちは、教会活動に活発になる前

に、完全に近くなっているなければならない、とよく誤解します。あまり活発でない会員の中で、神殿準備クラスに参加しているながら神殿に行かない人がいるのは、この考え方があるのかもしれません。まだ準備ができるいないと感じているのです。再び活発になった後に、監督に召されたある人は、妻と一緒に神殿準備クラスを7回も受けて初めて、自分たちには準備ができて神殿に参入するにふさわしくなったと感じました。

大切なのは、あまり活発でない会員たちが神聖な聖約を^{あがし}快く受け入れられると感じることです。彼らの自信と証と教会に出席したいという望みを強めることは、堅苦しい福音のレッスンを教えるよりもはるかに効果があります。

あまり活発でない会員は、求道者と違って、堅苦しい観念的な教えによって気持ちがそがれる傾向にあります。望ましいのは、形式ばらない福音の話し合いです。



写真／スティーブ・パンダーソン

人々を連れ戻すには愛のこもったフレンドシッピングが不可欠です。真実の友は愛から生まれる温かな心を持っています。

そうした話し合いの中で、彼らは友人たちから答えを得ることができ、自分たちの無知さかげんを見す知らずの人々に知られて当惑することはありません。友人との心と心の対話により思い違いは正され、理解の及ばなかつた教義についても思いをはせるようになります。定員会会長や訪問教師、友人、隣人など、彼らとかかわりのある人々が福音の原則に従いながら人生のチャレンジに取り組んでいるのをあまり活発でない会員が理解すれば、話し合いは特に有益となるでしょう。活発化を最も効果的に助けられるのは、かつてあまり活発でなかつた会員であり、福音に完全に従おうと懸命に努力している人々

に対して心から思いやってくれる人々なのです。

御靈が心に触れる

活発化は御靈のなす業です。主の御靈の大きな影響力で、あまり活発でない多くの会員が戻って来ています。活発化のプロセスを通して兄弟姉妹たちを導こうとする活発会員は、主の御靈が彼らの最も力強い味方であるのに気づきます。活発化に成功したある会員はこう述べています。「すべて御靈の力です。わたしはただ、御靈の勧めに従って話すだけです。」

あまり活発でない兄弟姉妹たちに手を差し伸べるとき、靈的な導きを受ける準備をしておかなければならぬと、活発化に成功している別の会員は語ります。会員が準備していれば、「わたしたちは御靈の助けにより必要な技術を伸ばすことができます。そして適切な事柄を

述べ、正しい決断を下せるようになるのです。」

活発化の援助をしてきた多くの人々は、自分が助けようとしている家族のために定期的に祈ります。しかし、彼らと一緒に祈ることの方がもっと大切かもしれません。祈りは天の力を呼び出すだけでなく、その家族を教え、御靈の力を招くのです。

あまり活発でない会員全員を活発にすることはできませんし、そのようにはならないでしょう。しかし多くの

人が、戻るよう声をかけられるのをただ待っているのです。活発化の結果はどうあろうと、もう一度ほかの人々に御靈の力を受けてもらおうと愛をもって助ける人々は、得るべきものをすべて享受できます。彼らはほとんどと言っていいほど友人を得ます。多くの場合これらの友人は、永遠の福音の祝福を見いだすように助けてくれた人々との思い出を大切にする、永遠の友となることでしょう。□



活発化に導くものは何か

あまり活発でない末日聖徒福音の儀式と機会に存分にあずかれるようにするには、8つの大切な要素があります。これは経験から明らかになったものです。

1. 活発な会員との建設的な経験が肝心です。真の友情は、教会やそこに集う会員に対する否定的な感情をしばしば消し去ります。

2. 人は自分が信頼を寄せている人々に最も心を開きます。最近活発になった会員たちは、自分のために喜んで犠牲を払い、裁くのではなく受け入れてくれる会員たちに最も心を開くと語っています。活発な会員の努力が心からのものであって、単に義務を果たすためのものではないと感じることが大切なのです。

3. 会員の活発化に向けて努力す

るときに求めなければならない3つの最も大切なことは、分かち合いと親しみと決意です。ここで言う分かち合いは、自分自身の経験について心から語り合うという意味です。親しみとは、友人としての信頼に値する態度を意味します。決意とは、定期的に訪問して約束を果たすという意味です。

4. 活発化の援助をする会員は、相手に責任を持ちます。そして、彼らの靈的な生活に心を配ります。

5. 再活発化には4つの明確な側面があります。(a)なぜ教会に活発に集わないのかその理由を判断すること、(b)あまり活発でない人が福音の原則に従うことによって問題を克服できるように助けること、(c)末日聖徒の社会に受け入れられ融け込むように助けること、(d)主

が受け入れてくださり、悔い改めた罪を赦してくださいを、あまり活発でない会員に感じてもらうこと。この(d)については、神権指導者が関与しなければならないことがよくあります。

6. あまり活発でない会員は、自分の経験を福音を通して理解するために、活発会員から助けを得なければならないことがあります。

7. 活発化にはよく、あまり活発でない会員に靈的な経験を得てもらうことが含まれます。これらの会員を主の御靈を感じられる状況に置き、御靈が真理にどのように導くかを理解してもらう必要があります。

8. 自己改善のための能力に自信を持ってもらうことは、活発化に欠かせません。□

生活を変える

ファン・アントニオ・フローレス

特記以外の写真／ダニエル・バーマー・C

メキシコのある支部で、わたしは教会員の子供として育ちました。でも10代のころは、息子アルマのように教会に背いていました。友人の多くが19歳になると伝道に出ましたが、わたしは支部長に、一度も伝道の面接

を頼んだりしませんでした。母は夫に先立たれており、我が家は経済的に苦しいからという理由で、いつも自分を正当化していました。やがてわたしは、教会にあまり活発でなくなりました。それからの2年間というもの、わたしの心は憤りに満ちていました。まさに、人生最悪の時期でした。

そのころ、わたしは支部のある若い女性とデートをしました。わたしは彼女がどれほど神に近くいるかを知り、驚きました。わたしの中で、何かが変わ

り始めました。教会に戻りたいとは思いましたが、プライドが邪魔していました。その日から、主に対する鬱いが始まりました。わたしは時々、友人と教会へ行きましたが、その度に集会の靈的な雰囲気を崩そうとして、教会の教えに逆らうようなことを言いました。時がたち、婚約者となっていたガールフレンドは、わたしが決して変わらないだろうとあきらめ、ついにわたしのもとを去って行きました。そして、わたしは絶望的な孤独感に襲われ始めました。

2、3か月後、教会の機関誌を開いた





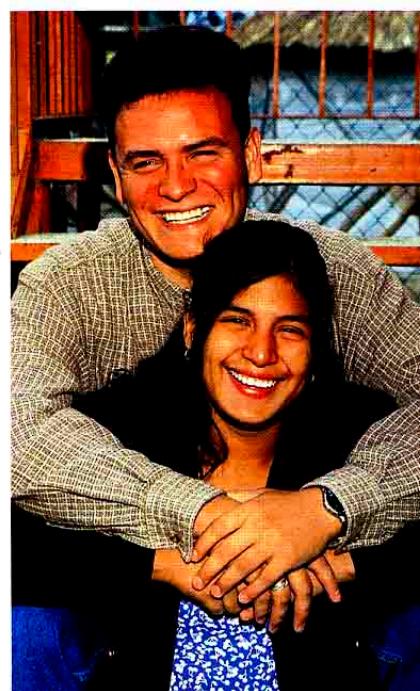
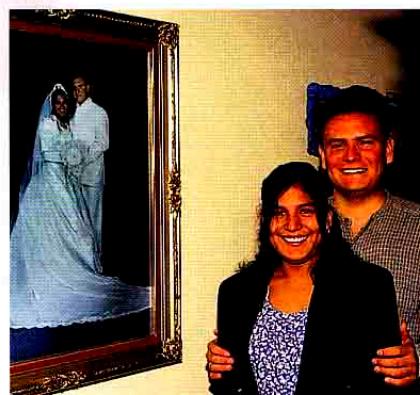
とき、「いかなる過去があろうとも、あなたは汚れのない将来を築くことができる」というモルモンメッセージを見つけて(『聖徒の道』1989年9月号、47)、わたしは勇気づけられました。でもまだ、ふさぎ込んだ気分と、腹立たしい気持ちのままでした。そこである日、この世的な生き方をすることで幸福になろう、と決意しました。ところが、まさにちょうどその日、自分の人生を変える経験をしたのです。それはまるで、だれか、あるいは何かがわたしの肩に触れたような感じでした。振り返ってみてもだれもいません。わたしは、少し怖くなりました。しばらくして、また同じことが起こりました。でも今度は、肩にかかる力があまりにも強くて、ひざまずいてしまいました。わたしはとうとう泣きだしました。何年も祈ったことなどありませんでしたが、初めて祈りました。どのくらいひざまずいていたかは覚えていませんが、最後には眠り込んでしまいました。目覚めると、母は何が起ったのかと尋ねました。わたしはこれまでの人生をずっと眠っていて、今やっと目を覚ましたようだと母に話しました。

わたしは『モルモン書』を探して来て、読み始めました。全部読み終えるとすぐ、心から祈りました。わたしは、心に温かい気持ちを感じ、胸が熱く燃えるのを感じました。

わたしの生活は一変しました。祈り、断食し、^{あがし}証を述べ、仕事の同僚に福音を伝え、^{じゅうぶん}自分の一を収め、聖文を読み、研究し始めました。幸せを感じ、天の御父を身近に感じられるようになりました。ある日、伝道に出ることについて支部長と話しました。最終的に支部長は、わたしの宣教師推薦書を提



写真／ファン・アントニオ・フローレスの厚意により掲載



出してくれました。

わたしがメキシコのチワワ伝道部へ召されたことを聞くと、わたしの所属する地方部の会員たちは喜んでくれました。驚いた人もいました。

伝道に出る前の最後の日曜日には、証を述べました。だれでも変わることができると話しました。息子アルマも変わりました。モーサヤ王の息子たちも変わりました。ゼーズロムも変わりました。パウロも変わりました。そして、わたしも変わったのです。

伝道中、わたしは愛の力強さを目の当たりにし、靈の子供たちを天の御父のもとへ連れ帰る特権にあざかりました。

伝道から帰ると、わたしはテキサス州のダラス神殿でエリカ・メンドーサと結婚しました。わたしたちは二人とも、日曜学校と若い女性の召しに熱心に取り組んでいます。

ペテロが海を渡り、イエスに近づこうとして、深い海におぼれかける場面の絵を見る度に、わたしは自分をペテロに置き換えてみます(マタイ14:22-33参照)。時々、くじけそうになります。そんなときわたしは、主がペテロにされたように、わたしにも御手を伸ばしてくださり、みもとに向かってしっかりと歩いて行けるように、祈るのです。

主がわたしの靈を癒すためにしてくださったことを、わたしは決して忘れないでしょう。主は御自分のすべての子供たちを愛しておられます。そして、いかなる過去があろうとも、わたしたちは汚れのない将来を築けることを学べて、心から感謝しています。□

ファン・フローレス、エリカ・フローレス夫妻

信仰の女性



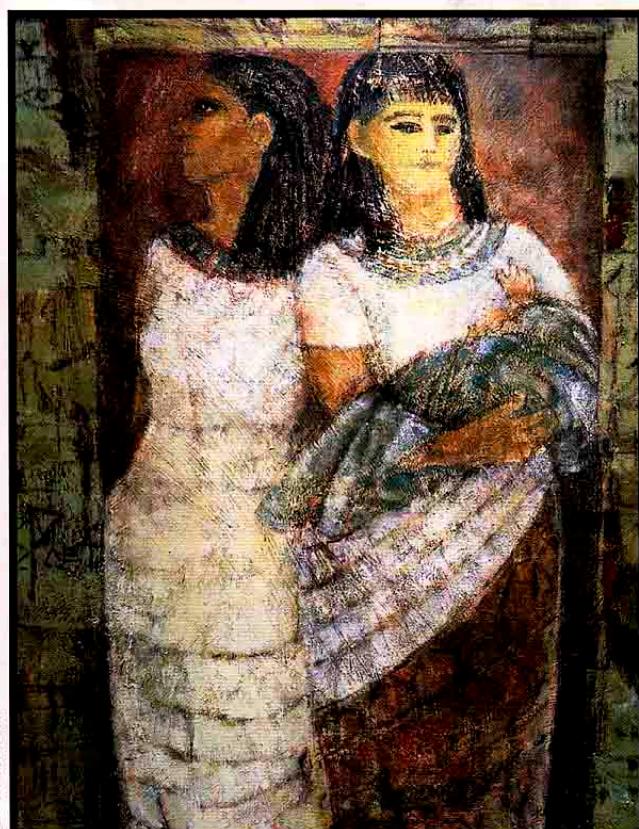
神に忠実な女性であるべきです。また、そのような女性は、家、土地、金銀、そのほかいかなるこの世の富に対しても、心を奪われたり、神から与えられた偉大な目的の追求をおろそかにしたりしません。」(Discourse of Wilford Woodruff『ウィルフォード・ウッドラフ説教集』G・ホーマー・ダラム編、130)

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は女性に関して次のように述べています。「偉大な末日の業に携わるよう召された女性は、信仰の女性、真理の擁護者……

ウッドラフ大管長が述べているような女性、すなわち誠実さにあふれ、勇敢に神の御心を求めた、信仰深い女性たちを表現した芸術作品を紹介しましょう。

これらの作品は、最近までソルトレーク・シティーにある教会歴史美術館に展示されていました。参照聖句以外の引用文はすべて、作者本人が展示作品に書き添えたものです。

「キリストの血縁者である女性」(左およびこの記事の背景画)
サリー・クリントン・ポエット画
画布・油彩 (121×91センチ)



「パロに屈しないプアとシフラ」

サリー・クリントン・ポエット画
画布・油彩 (121×89センチ)

「またエジプトの王は、ヘブルの女のために取上げをする助産婦でひとりの名をシフラといい、他のひとりは名をプアという者にさとして、言った、『ヘブルの女のために助産をするとき……もし男の子ならばそれを殺し……なさい。』しかし助産婦たちは神をおそれ、エジプトの王が彼らに命じたようにはせず、男の子を生かしておいた。……それで神は助産婦たちに恵みをほどこされた。そして民はふえ、非常に強くなった。」(出エジプト1：15-17, 20)

靈感を求める

「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。……それを、あなたの目から離さず、あなたの心のうちに守れ。」(箴言4:18, 21) わたしたちは聖典に登場する女性の模範から靈感を得られます。それがルツやエスティーナ

勇気の模範であろうと、マリヤやサラライアの揺るぎない信念の模範であろうと、彼女たちは皆、信仰を持つだけでは十分でないことを教えてくれます。わたしたちは絶えず神の導きを求める必要があるのです。



「助産婦——主の道は彼女の選んだ道」

クリスタル・ハウター画
画布・油彩 (61×56センチ)

「だれが彼女の死を忘れずにいるのだろうか。だれが彼女の永遠のささやきに従うのだろうか。」

「クリスティーナ」

デニス・スミス作
ブロンズ鋳造 (182×40×40センチ)

「夜もふけたころだった。ろうそくの灯のそばで言い争そった末、涙がこぼれ落ちた。気持ちは揺れている。それでもなお、シオンへと自分を呼ぶ内なる声は強く響いた。また、家族を離れて大海を渡り、シオンに行こうとしている両親とのきずなも強かった。孤独な暗闇の中、彼女は二つの世界の狭間に立っていた。」



作者の厚意により掲載

靈性を培う

「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たた

きなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約88:63)

研究と祈りによってのみ、わたしたちは福音を理解し、救いの計画についてより深い知識を得られるようになります。



「顕現」

マーカス・ビンセント画
パネル画・油彩 (130×51センチ)

「自分は何者であり、どこから来て、なぜ今ここにいて、これからどこへ行こうとしているのか」という自問は、何とも不思議で普遍的なものです。しかし心からその答えを求めている人には、静かな天使のささやきが心に届くときがあります。そして心を開く準備のできている人には、瞬く間に幕が開かれ、知識、すなわち自分の神聖な血統に関する確かな知識が心に注ぎ込まれるのを感じるでしょう。間もなく扉は閉ざされ、その人は深く思い巡らすのです。『顕現』は、この突如として得られる認識と洞察を表現した作品です。」



「敬虔」

ローラ・リー・ステー・ブラッドショー作
ブロンズ鋳造 (91×33×20センチ)

「女性には様々な側面があります。女性が自信に満ちているとき、何も語る必要はありません。その高貴さは、安らかで、穏やかで、敬虔な落ち着きとして、表情に表れるからです。」

光の方を向く(悔い改め)

リー・ベニオン画

画布・油彩 (112×81センチ)

「悔い改めを必要としない人はいません。わたしの台所に咲くゼラニウムはいつも光の方を向いていて、この神聖な原則をよく表しています。17歳になる娘のルイーザはこの原則について、次のように言いました。『植物を見習いたいわ。植物は光を吸収するけど、ただ生きるためにだけ光を取り入れるのではなくて、光によって自らをかぐわしいものにしているんだもの。』」



作者の厚きにみる絵画



「儀式」

キール・B・マイヤーズ画

画布・油彩 (158×114センチ)

「わたしは常に正義、知恵、そして真理の中を神とともに歩めるよう、神に導きを願い求め、わたし自身も最善を尽くすという聖約を交わしました。わたしは神を見られるように、清い心を持ち続けたいと願っています。」

信仰によって生きる

「忠実であって堪え忍ぶ者は……幸いである。彼らは永遠の命を受け継ぐからである。」(教義と聖約50:5)

人生は旅であり、試しでもあります。わたしたちはどれだけ正しい選択をして生きていくかを示すために、この現世にいます。信仰によって生きること、日常生活での試練に対して義にかなった態度で臨むことを選択するとき、真の喜びと昇栄に至る道を歩んでいることになるのです。



「メアリー・アン・サベジ」

ドロシア・ランジ作

シルバープリント（硝酸銀写真）（39×39センチ）

「メアリー・アン・サベジは生涯忠実な末日聖徒でした。そして開拓者でもありました。1856年、6歳のときに家族とともに西部へ移住しました。彼女の母親は、小さな子供たちを乗せた手車を押して大平原や砂漠を横断したのです。そしてその道中、妹が亡くなりました。『母は妹を毛布にくるんで、手車の片側に横たえました。』」



「地は主のいつくしみで満ちている」

ジーン・レートン・ランドバーグ画

画布・油彩（152×121センチ）

「主は正義と公平とを愛される。地は主のいつくしみで満ちている。もうもろの天は主のみことばによって造られ、天の万軍は主の口の息によって造られた。」(詩篇33:5-6)

「『聖書』を読む」

ジョン・ティ作

木彫り (58 × 28 × 46センチ)

「わたしたちは自分たちの救いを達成するため、天父からのささやきである静かな細い声を聞くことができます。……したがってぜひとも必要なのは、男性と同様に女性も、生涯を通して最も価値ある知識を得るために勤勉に研究することをやめないことです。」(バセシバ・W・スミス “Relief Society Annual Greeting” *Woman's Exponent* 「扶助協会年次講話」『ウーマンズ・エクスポーネント』1906年1月号、1)



ジョン・ティの原画による複製

「母と子」

ウォルター・レイン作

画布・油彩 (71 × 40センチ)

「わたしは自分の子供が皆、真理の知識を得て、神の王国で救いを得られるように祈っています。母親の祈りが主の玉座の前に幾らかでも有効だとすれば、わたしはそう祈ります。」(Heroines of the Restoration 『回復のヒロイン』キャロライン・ロジャーズ・スムート、バーバラ・B・スミス、ブライス・ダーリン・サッチャー共同編集、162) □

よい家庭に生まれて

ケイ・ハーゴ

わたしは、悪い特質を受け継いでいるんだわ。今日もまた、家族についてのレッスンが終わると、わたしはそう独り言を言いました。家族についてのレッスンを聞くといつもがっかりした気分になります。家族についてのレッスンではいつも、両親が信仰を保ち続ければ、子供たちはどんなに立派に成長するかという話があり、わたしたちが善い親になるよう励ましを与えることが意図されていました。けれどもし、それらのレッスンの内容が真実ならば、わたしには善い親になる可能性はないでしょう。わたしの家庭は、平均的な家庭と比べ、離婚やアルコール依存症、不信仰、そのほかの好ましくない問題と、はるかに深くかかわっていました。改宗者であるわたしは、末日聖徒の両親のもとに生まれた幸運な友人たちに對し、時折、引け目を感じてきました。

わたしは悩み始めました。わたしの周りは、何世代も前から教会員の家族を持つ人ばかりでしたし、そのような家族を持つことが、ある人々にとって重要な意味があるようでした。「結婚相手は、善良で信仰の強い家庭に育った人でなくてはいけないわ」と、一人の友人が打ち明けました。「子供たちには、良い特質を受け継いでもらいたいもの。」

もし、だれもがその友人と同じように考えているなら、わたしなどが努力してどうなるというのでしょうか。信仰を強めようとどんなに頑張っても、キリストについてどんなに多く学び、キリストのような人になろうと努めても、しょせんわたしは「二流の」教会員にすぎないのでしょうか。わたし自身の落ち度がなくとも、忠実な教会員を先祖に持つ人々には、劣るのでしょうか。

このような悩みに対する答えは、祝福と聖文を通して与えられました。「ルツ記を読んでごらんよ。」年上の友人からこう言われました。彼は新学期が始まるときにわたしに神権の祝福をしてくれた人でした。「君にとって、特別なメッセージが書かれているよ。」

わたし自身のためのメッセージを求めて、すぐに『旧約聖書』を読み始めました。読んでは祈り、そしてまた読み続けました。聖句の注解も研究しました。ルツについての理解が深まり、ルツが大好きになりました。ルツ



は自分の民の信じる偶像を否定し、夫の神であるイスラエルの神を信じたのです。夫が死んだ後も、彼女にとっては新しいものである、夫の宗教にとどまったくルツの信仰に対して、称賛の気持ちでいっぱいになりました。そして、友達や家族をはじめ、なじみのあるものすべて捨てて、義理の母であるナオミに従って、そのふるさとへと旅立ったのです。

「わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」(ルツ1:16)『旧約聖書』の中でも最も美しく、また最もよく知られたこの聖句の中で、ルツはナオミにそう言いました。ルツはナオミの助けによって、新しい地の慣習によく順応し、その後、善良な男性ボアズと結婚し、男の子を産みました。

ルツ記は、励ましを与えてくれるすばらしい話です。でも、一体わたしとどういうつながりがあるのでしょうか。やがて、聖霊を通してその訳を悟ることができました。わたしにとって鍵となる言葉はルツ記の最後の部分、特にダビデの血統とルツのつながりに触れた箇所だったのです。ダビデの血統は、キリストの血統でもあります。モアブの女であったルツは、異邦の地からの改宗者でしたが、このような立派な信仰を示したので、すべての中で最も祝福された家族にとって重要な役割を担いました。この偉大な女性は、先祖代々偶像礼拝の家庭に生まれましたが、世の救い主の祖先となったのです。

こうしてわたしは、信仰を保ち続ければ、たとえ末日聖徒の両親のもとに生まれなくともどんな祝福も惜しみなく与えられることを学びました。末日聖徒の両親のもとに生まれなかったからといって、わたしのことによく思わない人は、未熟で心の狭い人々かもしれません。このことで引け目を感じていたわたし自身も未熟で心が狭かったのだと思います。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしは、最もすばらしい家系の出身なのです。そして、信仰を保ち続ければ、兄や姉たちもわたしと一緒に、天の御父が子供たちに与えると約束してくださったものすべてを等しく分かち合えるのです。□



「ルツ」ヘンリー・ライランド画

「モアブの女ルツはナオミに言った、『どうぞ、わたしを畑に行かせてください。だれか親切な人が見当るならば、わたしはその方のあとについて落ち穂を拾います。』ナオミが彼女に『娘よ、行きなさい』と言ったので、ルツは行って、刈る人たちのあとに従い、畑で落ち穂を拾ったが、彼女は……エリメレクの一族であるボアズの畑の部分にきた。」(ルツ2：2-3)



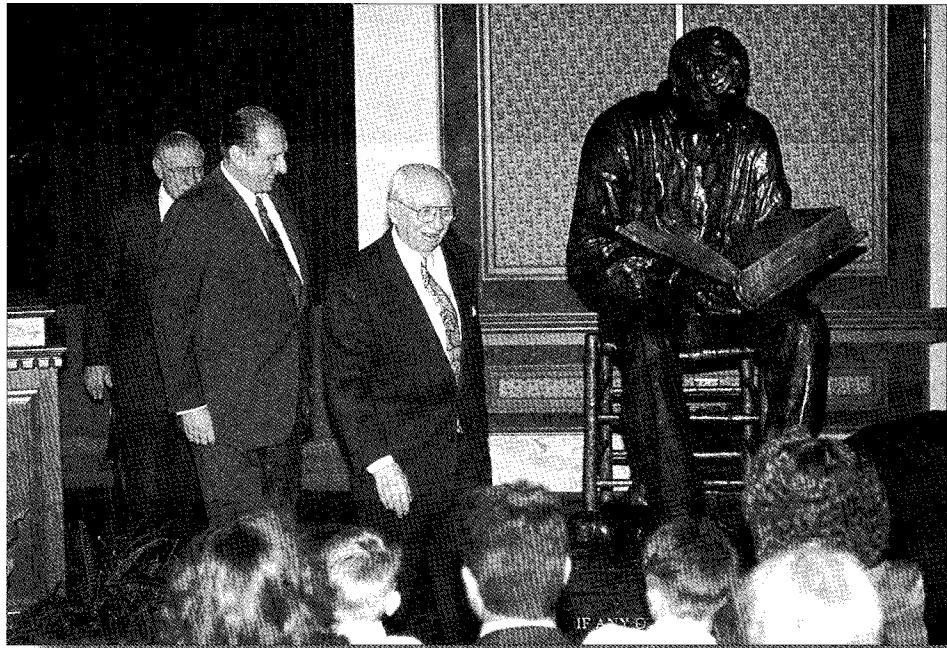


ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、こう述べている。「偉大な末日の業に携わるよう召された女性は、信仰の女性、真理の擁護者……神に忠実な女性であるべきです。」(本誌「信仰の女性」42ページ参照)



2902989853005

預言者ジョセフ・スミスを記念する銅像



預言者ジョセフ・スミスを記念した銅像の除幕式に出席する大管長会

写真／クレーグ・ダイモンド

サラ・ジェイン・ウィーバー

教 会の初代預言者を記念して作られた銅像の除幕式が1997年12月23日に行われ、その席でゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べた。「ジョセフ・スミスの生涯は短い期間でしたが、その業は永遠です。」

この銅像は預言者ジョセフの実寸の1.5倍あり、ジョセフ・スミス記念館内にあるレガシー映画館のロビーに設置されている。「光に身を任せ」と題されたこの銅像は、若いジョセフ・スミスが木製のいすに座って『聖書』を読んでいる姿が刻まれている。そして聖句は、ヤコブの手紙第1章15節のページが開かれている。どの教会に入るべきか知りたかった14歳の少年はこの聖句を読んで、導きを得るために祈ろうと決心した。

この除幕式にヒンクレー大管長のほか、トマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老、ジェフリー・R・ホランド長老、七十人会長会のジョー・J・クリステンセン長老、管理監督会のリチャード・C・エッジリー第一副監督、キース・B・マクマリン第二副監督がそれぞれ出席した。

預言者ジョセフ・スミスがニューヨーク州北部で生まれてちょうど192年目に当たる当日、ヒンクレー大管長は数人の子供たちの助けを得ながら、この銅像を覆っていた幕を取り去った。

ヒンクレー大管長は次のように述べた。「今日はジョセフ・スミスの誕生日です。ジョセフはこの神権時代で最も偉大な預言者となりました。わたしはジョセフ・スミスに驚嘆しています。預言者自身にも、短い生涯を通して成し遂げられた業に対しても、まさに驚嘆するばかりです。」

またジョン・テラー大管長の言葉を引用して、次のようにも述べた。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。……彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血をもって自

分の使命と業を証明したのである。」
(教義と聖約135:3)

ヒンクレー大管長の説明によるとこの銅像は、『聖書』を探求する預言者を表している。預言者は『聖書』を読んだ後に聖なる森に入り、そこで神とイエスの顕現を受けた。

ヒンクレー大管長はまた次のようにも述べた。「ジョセフ・スミスはわずか数分間で、神とその復活された御子の本質について学びました。その本質は、何世紀もの間神学者たちがこぞって考えあぐねていた以上のものでした。中にはキリストを信じていないと口にする人々もいますが、わたしたちは皆キリストを信じています。キリスト御自身から直接学んだ知識を得ています。」また「ジョセフ・スミスの名の付いた教会の建物にこの銅像が据えられたのは、まさにふさわしいことです」とヒンクレー大管長は述べた。

そして次のように言葉を続けた。「人々はジョセフ・スミスの話をあざ

けります。そしてかき消してしまおうとします。わたしは預言者ジョセフに会ったことはありません。しかし今日まで、『モルモン書』『教義と聖約』そして『高価な真珠』を読みました。また神権を受け、行使してきました。……そしてこの偉大な御業が真実だという証が胸に響いています。」

また、数年前のある朝に聖なる森を訪れた経験を次のように回想した。大管長と地元の教会指導者が聖なる森に立ち、頭を下げ、ともに祈った。「声が聞こえたわけではありません。しかし、預言者ジョセフが語ったことが、自分たちが立っている場所でほんとうに起こったという、確かな証が心に生まれてきたのです。それを皆さんに証したいと思います。」さらにヒンクレー大管長は、この銅像作成のために基金を寄付したユタ州開拓者子孫国立協会および6人の寄付者に、深い感謝の意を表した。また著名な彫刻家スタンリー・ジェームズ・ワツ兄弟の手に

より「非常に印象的で美しい作品」が生み出されたことを感謝した。

この除幕式ではワツ兄弟も話をした。ワツ兄弟はジョセフ・スミスとその「神に尋ねよう」という望みを記念した銅像を作ることは、「すばらしい経験」だったと語った。

ワツ兄弟はこのようにも語った。「ある偉人が次のような言葉を残しています。光をもたらせば、人は自らの行く道を見いだす。わたしたちにとっての光は聖文です。これはその記念碑です。」

ワツ兄弟はこの銅像を制作しながら靈感を受けたと語った。「今日、わたしは皆さんのに揺るぎない確信をもって立っています。ひざまずき、謙遜に祈り、知恵と導きを求めるのは、末日聖徒としてできる最も大切なことです。」□

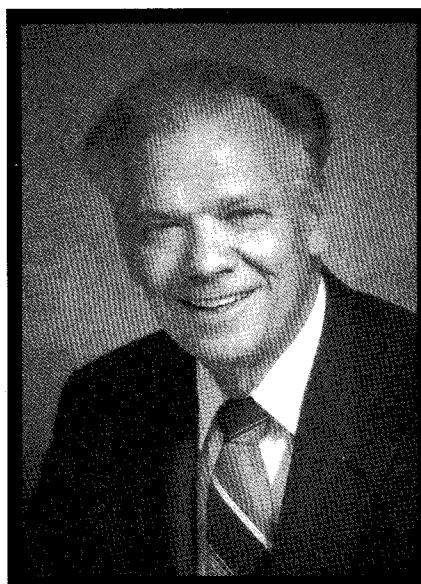
(『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1997年12月27日付けの記事より掲載)

ポール・H・ダン長老の葬儀、しめやかに行われる

名 誉中央幹部のポール・H・ダン長老は1月9日金曜日、ソルトレーク・シティーにおいて、背中の手術後、回復途中での心停止により死去した。享年73歳であった。葬儀は1月13日にしめやかに行われた。

ダン長老の死去に伴い、大管長会から以下の声明が発表された。「ダン長老は長年にわたる青少年の教師、擁護者でした。また伝道部長、中央幹部として34年間働かれました。ジャンヌ夫人とご家族に深い哀悼の意を表します。」

ダン長老は1924年4月24日、ユタ州プロボで生まれ、1953年にチャップマンカレッジで学士号を取得した。その後、南カリフォルニア大学で教育管理



ポール・H・ダン長老

の修士および博士号を取得した。1952年からロサンゼルスで教会教育部のセミナリー教師を務めた。その後、南カリフォルニアでインスティテュート・コーディネーターとして数年働いた後、1964年4月に七十人第一評議会員に支持された。

1968年から1971年までニューイングランド伝道部の部長を務めた。1976年10月に七十人第一定員会に召され、1976年から1980年まで七十人会長会で働いた。そして1989年に名誉会員となった。

1946年2月27日にジャンヌ・アリス・シェバートンと結婚し、3人の娘に恵まれている。1972年には「ユタ州で最もすばらしい父親」に選ばれている。□

全世界に13の伝道部が新設される

大 管長会は今年7月1日から、新たに13の伝道部を組織することを発表した。このうち10の伝道部は北米および南米である。新設されるこれらの伝道部を加えると、全世界の伝道部は331となる。

アメリカ合衆国内に新設される伝道部は、次の4つである。カリフォルニ

ア州ロングビーチ、フロリダ州オーランド、オハイオ州シンシナティ、ユタ州ソルトレーク・シティー南。ブラジルには、ブラジル・ゴヤニヤ、ブラジル・ジョアンペソア、ブラジル・サンタマリアに伝道部が新設される。そのほか、カナダ・エドモントン、オーストラリア・メルボルン西、ボリビ

ア・サンタクルス、パラグアイ・アスンシオン北、台湾・高雄、マダガスカル・アンタナナリボに新設される。

これらの伝道部が組織されると、アメリカ合衆国の伝道部は合計100、そのうちカリフォルニア州内は従来より一つ増えて17、そしてブラジルは26の伝道部を持つことになる。□

ヒンクレー大管長の問いかけ―― 「わたしたちは本来あるべき姿に到達しているでしょうか」

1 月11日に開かれた地区大会の席でゴードン・B・ヒンクレー大管長は、この神権時代に人々が受けている祝福を数え上げた後、教員にこう尋ねた。「わたしたちは末日聖徒として本来あるべき姿に到達しているでしょうか。」

「主の聖なる教会の会員であるわたしたちに、主は何を期待しておられるでしょうか」と大管長は尋ねた。

大管長はユタ州ウッズクロスとソルトレーク・シティーの各ステークから集まった7,200人以上の会員に向かって、わたしたちが主から寄せられている期待と義務について述べた。

「主はわたしたちに、『末日聖徒』であるよう期待しておられます。これがわたしたちに対する主の期待です」と大管長は語った。「主はわたしたちが末日聖徒であることを望んでおられます。末日聖徒という言葉は、教会の名称の先頭（訳注——英語では『末日聖徒』[Latter-day Saints]）は教会の名称の最後に付いているため、原文は『最後』となっている）にただ付属的に付いた言葉ではありません。非常に大切な意味があります。

主はわたしたちが生活の中で神の愛を示すよう期待しておられます。このようにして神に対する愛を表現するのです」と大管長は続けた。

ヒンクレー大管長は、主は主の民が

「主の道を歩んで、……人々からしてほしいことを自ら行い、……2マイル^{はうとう}行き、……放蕩息子の教訓と『聖書』のすばらしいとえをすべて学び、教訓を得るよう」期待しておられると述べている。

「主の子供であるわたしたちは、教員のみならず、教員以外の人々も含めた周りの人々に手を差し伸べるよう主から期待されています。」ヒンクレー大管長は、一人の教員が憎しみを受け、ある地位を追われたことについて報道した新聞記事を読んで憂慮していることを明らかにした。

「末日聖徒であり主の偉大な教会の会員であるわたしたちは隣人愛と助ける精神をもって人々に手を差し伸べなければなりません。それは毎朝太陽が昇るのと同様に確かなことです。」

「わたしたちは周囲の人々に、彼らが教員か否かにかかわらず、励ましと希望と祝福をもたらすような生活を送らなければなりません。」

次いでヒンクレー大管長は若い男性に対し、伝道に出る義務について述べた。「皆さんには一つの義務があります。……そのために準備し、その目標に向けて生活しなければなりません。皆さんは清くななければなりません。……主の前に清くあって、主を代表して出て行って主のメッセージを全世界に宣言するにふさわしくならなければな

りません。

主は若い女性が清く、道徳的で、高潔で、善良かつ眞実であって、慎み深く、あらゆる点で徳高い生活を送るよう期待しておられます。あなたがたを滅ぼそうとしているものに近寄ってはなりません。」

大管長は次に成人に向かって、次のように語った。「皆さんがこの世にもたらしたこれらの子供たちほど大切なものは、ほかに得られないでしょう。主はあなたがた両親に対して、……光と真理のうちに子供たちを育てるよう期待しておられます。皆さんのが子供たちに対してなす事柄について、主は責任を問われることでしょう。」

そしてヒンクレー大管長は続けて言った。「子供を虐待してはなりません。」大管長は次いで、自分の少年時代の経験を振り返り、怒りに任せて手を振り上げるようなことが決してなかった父親について語った。

「父が子供をたたく姿は見たことがありません。わたしたちは何か間違ったことをすると、たたかれるのを覚悟しましたが、父はわたしたちと一緒に座って、問題をみんなで話し合いました。そこで得た教訓は、ずっと長くわたしたちの心に残りました。もし、体罰を受けていたら、教わったことなどしばらくすると忘れてしまったことでしょう。あまりにも多くの虐待が周囲に見ら

れます」と述べた大管長は、夫による妻の扱いについて警告を発した。

「兄弟の皆さん、虐待をやめなければなりません。奥さんに対し言葉や精神的、またいかなる手段による虐待もしてはなりません。子供たちに対しても同様です。わたしたちは家族なのです。」

ヒンクレー大管長は、什分の一を納めること、安息日を聖く保つこと、知

恵の言葉を守ることなど教員に対しても寄せておられる期待について述べてから、「家庭における自らの振る舞い、家庭内の雰囲気、隣人愛、親切、勤勉、信仰を築くに当たって」末日聖徒であるよう、会員たちに訴えて話を終えた。□

(『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年1月17日付けの記事より掲載)

天災により被害を受けた教員

力 ナダ東部およびアメリカ北東部の大半は、1月に着氷性の雨を伴う暴風雨に見舞われた。モントリオールとオタワでは、宣教師のアパート、会員の住宅、教会の建物など数棟が数日間にわたって停電の被害を受けた。インディアナポリスにある中央・監督の倉庫より緊急用発電機が送られ、教会内に電気と暖を供給した。教会の指導者、ホームティーチャー、訪問教師らが、被害を受けた教員の援助に携わった。

中部太平洋に浮かぶクック諸島では昨年の後半、マーティン台風に見舞われた。風速毎時144キロの嵐が、海拔が海面とほぼ同位置の小さな島々を一掃してしまった。特にブカブカ島、マニヒキ島は最も大きな被害を受けた。七十人で太平洋地域会長会会長のボーン・J・フェザーストーン長老の報告では、宣教師は全員無事であり、教会の所有地も何ら被害を受けなかった。しかし、会員の一家族が家と一切の家財を失い、数年前からクック諸島に在住の会員一人が、海に出ていたところを嵐に襲われ、行方不明となっている。地元の末日聖徒社会奉仕機関の人々が、この惨事で心的被害を被った人々を対象にカウンセリングを行っている。また教会から人道的援助の基金が、復興再建のために寄付された。

中部太平洋のフランス領ポリネシアに属するソシエテ諸島では1997年11月にサイクロン・オセアが猛威を振るった。

マウピティ島では、会員が所有する家屋80棟のうち77棟が、またボラボラ島では会員の住宅4棟がそれぞれ倒壊した。マウピティ島内の教会堂はさほ

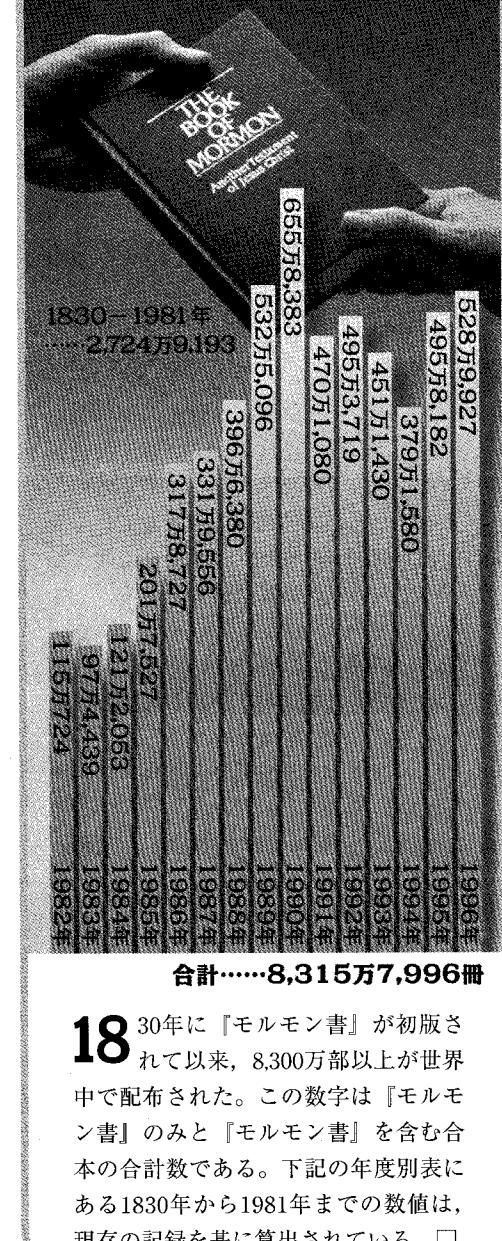
どの被害ではなく、教会内外の人々の避難所に使用された。宣教師と教員全員の無事が、フェザーストーン長老からの報告で確認された。

エルニーニョ現象に関連した干ばつにより、パプアニューギニアでは深刻な水と食料不足が生じた。フェザーストーン長老からの報告によると、会員と宣教師は全員無事であるが、多くの会員の家族が危機に直面している。パプアニューギニアでは数か月間まったく雨が降らず、高地では、普段雲に覆われて保護されていた作物が、霜による被害で全滅した。地域会長会は必要に応じて、会員援助のための食料供給を手配した。また地元の指導者は救世軍(訳注——「キリスト教プロテス'タントの一派。1878年イギリス人ブースが創始し、軍隊的組織のもとに民衆伝道と社会事業を行う。」)〔『広辞苑』第4版、新村出編、岩波書店、「救世軍」の項、655〕と密接に連携してこの事態を取り扱っている。

トンガ王国では1月にサイクロン・ロンがニウアファウ島を襲った。フェザーストーン長老によると、宣教師と会員は皆無事である一方、教会の集会が行われていた家と同様、彼らの住宅は倒壊した。

グアムは1997年の12月、風速毎時370キロを超す突風を伴なったパカ台風による被害を受けた。島全体が停電し、ほとんどの地域で断水となった。そしてほぼすべての道路が一時閉鎖された。七十人でフィリピン・ミクロネシア地域会長会会長のシェルドン・F・チャイルド長老は、全教員と宣教師

『モルモン書』が地を洪水のように満たす



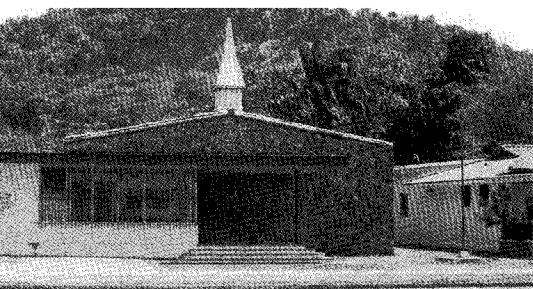
18 30年に『モルモン書』が初版されて以来、8,300万部以上が世界中で配布された。この数字は『モルモン書』のみと『モルモン書』を含む合本の合計数である。下記の年度別表にある1830年から1981年までの数値は、現存の記録を基に算出されている。□

の無事を伝えた。宣教師のアパート1棟が深刻な被害を受けた。また会員の住宅はすべて水害による被害を受け、2棟が倒壊した。また被害を受けた人々の避難所確保のため、赤十字と連邦政府機関によって、未使用のアメリカ軍の居住施設1,500棟が開放された。□

パナマ——傘によって守りを受ける

ロメリア・デ・ガルシア

美しい海岸と透き通るようにきれいな海に囲まれた国、パナマは二つの大陸だけでなく二つの大洋をつないでいる。大西洋岸から太平洋岸まで2時間半もあれば横断できるこの中央アメリカの国には2万7,000人以上の末日聖徒がいる。パナマ運河で有名なこの国では多くの人種が融合しており、陽気で愛にあふれた人々が至る所に見られる。



1859年に奉獻されたバルボアの教会堂はパナマで教会が最初に建築した建物である。
写真／ジョバーニ・サマニーゴ

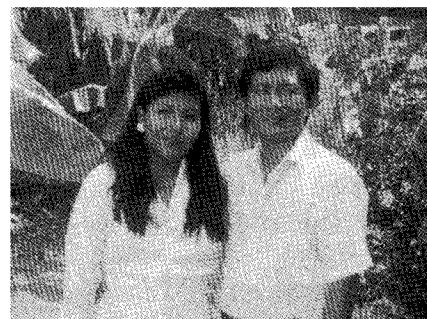
記録によれば、パナマを最初に訪れた教員は、1941年にパナマ運河付近に駐留していた兵士たちで、彼らはフォートクレートンで集会を開いている。同地は最初の支部が設立された場所でもある。教会が正式な認可を受けるために教員の懸命な努力が開始されたのは、当時十二使徒定員会会員であったマリオン・G・ロムニー長老がパナマ共和国大統領ロバート・F・チアリ氏に『モルモン書』を贈呈した1961年以降のことである。1965年、教会はパナマにおいて福音を宣べ伝える許可を正式に受けた。今日、パナマには5つのステーク、5つの地方部、25のワード、38の支部が組織されている。

近年パナマを訪れた使徒たちが残していく祝福は教員に多くの好ましい変化をもたらしている。青少年はセミナリーやインスティテュートをはじめとする教会のプログラムに活発に参加することによって、王国の拡大発展に貢献している。また青少年と成人会

員はグアテマラ神殿で儀式の執行に携わることによって靈的な力を増し加えている。彼らが陸路で神殿まで行くには、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、エルサルバドルの国境を越えて行かなければならない。

1979年11月に最初のステークが組織されたとき、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老はこのように述べた。「このステークはパナマにとって傘となるでしょう。……そしてパナマの守りとなるでしょう。」当時、パナマの教員はわずか3,500人だった。パナマの人々がいつの日か同国の人々に福音を携えて行くなど到底実現するとは思えないことであった。その後1989年にパナマ・パナマシティ伝道部が創設された。しかし同年、おもにアメリカ合衆国から赴任して来た宣教師の大部分が、政府の厳しい命令により、ほかの国へ再配属されることになった。このためにパナマ人の青年たちが伝道の召しを受け、働くことになった。伝道期間中、宣教師は伝道部の規則に従うことを要求される。このため、彼らにとって伝道期間は優れた自己修養の機会ともなったのである。宣教師の多くは自宅から数分以内で行ける地域で伝道活動を実施した。

パナマにおける初期の改宗者は多くが現在も活発で、主の業に熱心に携わっている。当時、二人の息子と一人の娘を独りで育てていたデリラ・サマニ



ラカレラステークのホセ・マルティネス会長と口サルバ夫人。



世界各地から多くの訪問者を迎えるパナマの首都パナマシティの全景。パナマには2万7,000人以上の末日聖徒がいる。
写真／ジョバーニ・サマニーゴ

エゴ・デ・トレロ姉妹は、二人の姉妹宣教師の訪問を受けて、教会を知った。「わたしが必要としていたまさにそのときに福音がもたらされました」と彼女は語っている。「わたしは改宗して得た力によって、この神権時代にシオンの若人を育てるというチャレンジに立ち向かうことができました。」

トレロ姉妹の夢は子供たち全員を伝道に出すことであった。やがて、子供たちは成長して、それぞれパナマ、コスタリカ、ホンジュラスで宣教師として働く召しを受けている。トレロ姉妹自身は1989年に、神殿でご主人との結び固めを受けた。長年にわたって、トレロ姉妹はセミナリー教師、インスティテュート教師、パナマの教会教育部コーディネーターを含む教会の数多くの召しを忠実に果たしてきた。

もう一つの忠実な家族は、ネルソン・アルタミラノとエステル夫人と4人の子供たちである。彼らは1972年にバプテスマを受け、1976年にロサンゼルス神殿で家族の結び固めを受けた。アルタミラノ兄弟姉妹はバプテスマを受け以来、ずっと教会の指導者として働いてきた。事実に、アルタミラノ兄弟はパナマ人として最初に地方部の部長に召された人である。後の1979年11月、最初のステークが組織されたときにも、アルタミラノ兄弟はステーク会長に召されている。さらに1992年まで地区代表を務めた。アルタミラノ兄弟の職業は、航空機の整備員である。エステル夫人は現在、教育学の修士号を取得するために勉学にいそしんでいる。

両大陸をつなぐこの国において、福音のメッセージはますます家族に一致と喜びをもたらしている。□

負債には利子が伴うことを理解する

スコット・ナッシュ

「借金するときに感じなくとも、
それはやがて
大変な重荷になり得る」

利子とは、金銭を利用する目的で借り手が貸し手に支払う金額を指す。金銭を借りた人は、他人の金を使う特権に対して使用料または利子を支払う。実際、借金によって将来発生する収入を今使うことができるが、この特権は高い利子を支払うという深刻な不利益を伴うことがしばしばある。

利子を課す制度は歴史的にもかなり古くから一般化している。『聖書』の時代に、利子は高利と呼ばれていた。現代の言葉でいうところの法外に高い利率である。列王紀下第4章7節には「負債を払い……その残りで暮らしなさい」という記録があり、また、箴言第22章7節には「借りる者は貸す人の奴隸となる」と記されている。使徒パウロはローマ人に対して「何人にも借りがあってはならない」と教えた（ローマ13:8）。救い主は今の時代に、マーティン・ハリスに対して「印刷業者との契約によって生じた負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい」と勧告しておられる（教義と聖約19:35）。

聖典は不必要的負債を負うことのないようにとの警告を明確に発している。現代の預言者と使徒たちは声をそろえて負債を避けるようにと呼びかけている。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べている。「返済可能な住宅購入のためや、ほかの幾つかの必需品のための妥当な負債は仕方ないでしょう。しかしわたしの目には、あまり必要でない物のために愚かな借金をする多くの人々の悲劇が非常にはっきりと見えるのです。」（「わたしは信じる」『聖徒の道』1993年3月号、7-8）。わたしたちの生活において負債と利子が与える影響を正しく理解するために、適度な負債とはどのようなものを

指すか、気軽にクレジットで買うことがなぜ落とし穴となり得るのか、負債を避けるためにはどのような計画を立てたらよいのかを検討することが大切である。

借金が適切とされる場合

一般に借金という手段を取るのは、欲求を満たすためでなく、必要を満たすためだけにすべきである。欲求を満たすために借金をするという行為は、「シオンの中では、すべてが良い」（2ニーファイ28:21）という主義を財政面に反映させた考えになる。彼らは将来必ず借金を返すことができるので、「そうすれば、わたしたちは幸せだ」と考えている（2ニーファイ28:7）。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は1938年に、次のように述べている。「分割払いによる購入とは、あなたの将来の収入を抵当として差し入れることを意味します。病気や死、失業によって収入が途絶えてしまったら、購入した資産はすでに支払ったものとともに失われてしまいます。

わたしは思い切って一つの提案をしてみたいと思います。……普通の家族は実際の生活に必要な物だけに限定するのであれば、分割払いでも十分に家計を管理することができます。ぜいたく品は、支払いが可能な状態になるまで購入を見合わせます。

わたしは必需品とぜいたく品との境を設けるつもりはありません。しかしこれだけは申し上げておきます。列車や電車で職場に通える職人や機械工は、分割払いだからといって通勤のために飛行機を買うようなことをするでしょうか。」（Conference Report『大会報告』1938年4月、105）。ほとんどの人にとって借金を必要とするのは、家屋や自動車を購入したり、状況によって教育費を貯ったりする場合がほとんどである。

安易なクレジットの利用 というわな

最初の支払期日が来るまでは、所持金がまったくなくともほとんど何でも買えるのが今日の世の中である。多くの会社では、借金してでも自社製品を購入するように、消費者の意識改革に躍起になっている。一部の企業ではそのためのファイナンス会社まで用意している。このような製品の広告には大胆にも、苦しみのない融資あるいは緩やかな信用条件などがうたわれている。あるファイナンス会社は借金をしてレジャーを楽しむことがストレスの解消になると宣伝している。メディアは「欲しい物がすぐに何でも手に入る」といったメッセージを武器に四六時中攻め立てているのである。

『ウォールストリートジャーナル』誌（Wall Street Journal）に掲載された記事によれば「1990年代半ばには、借金に対する誘惑がかつてないほど増大した」と報じている。「銀行間の貸し出し競争はしつこく、彼らは消費者に対してまるで洪水のようにクレジットカードを濫発している。」（バーナード・ワイゾキー・ジュニア “Binge Buyers: Many Baby Boomers Save Little, May Run into Trouble Later on”『浮かれた消費者——貯金に乏しく、後に苦難に遭うであろうベビーブーム後の世代』『ウォールストリートジャーナル』1995年6月5日、A6）。事実、ある組織の調査によると、1994年だけでもクレジットカード会社がクレジットカードの入会を勧誘するために送った手紙は200億通を超えると考えられている（ジョン・グリーンワルド “The Crunch that Stole Christmas”『タイム』1995年11月27日号、79参照）。「来年まで支払いの必要はありません」との宣伝文句すら飛び交っている。し

かし、支払いを遅らせればそれだけ高い金利を支払わなければならず、いずれにせよ最終的には全額を支払わなければならぬことを忘れてはならない。

クレジットによる安易な購入は一部の人々に大きな誘惑として襲いかかっており、彼らの多くは最終的に借金地獄というわなに陥った自分に気づくのである。クレジットカードの利用金額は一個人や家族では返済が不可能な金額にまで膨れ上がるのだが、その間利用者はそのような事態についてまったく知らされることもしばしばである。もう一つ問題となっているのは、自動車など融資によって購入した物品の融資金額を返済する速度が、品物の価値が下落する速度に追いつかないということである。

ヒンクレー大管長はこのように述べている。「負債は恐ろしい結果を招くことがあります。借りるのはいとも簡単ですが、返すのは非常に難しいものです。借金するときは別に感じないかもしれません、それはやがて大変な重荷になることがあります。」(「あなたはむさぼってはならない」『聖徒の道』1991年2月号, 6)

どうすべきか

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のような勧告を与えている。「[今は……負債を返済する時です。]……可能であれば早めに抵当の支払いを済ませ、教育のため、収入能力が衰えたときのため、将来起こり得る非常事態のために備えをしたいものです。」(「あなたの負債を払って暮らしなさい」『聖徒の道』1987年10月号, 3-4) 融資の残額を早く返済するだけで、利子の支払額を大幅に軽減することができる。負債を返済するようにとの教会指導者の勧告は財政上有益な言葉である。

教会指導者の忠告に従い、実際に負債を減らすことによって得る祝福は、わたしたちの心に平安を与え、経済的安定をもたらし、自立と安らぎを与える。わたしたちは財政の健全化を図る責任を果たし、収入の範囲内で生活するならば、「他のすべての造られたも

のの上で自立する」民となることができる（教義と聖約78:14）。

わたしたちの指導者はどのように述べているか

ゴードン・B・ヒンクレー大管長——「人々は自分の欲望を満たすために借金をしますが、高い利子の支払いにきゅうきゅうとし、それを完済するために働く奴隸のようになっています。……

わたしは皆さんに、儉約と勤勉の徳を養うようお勧めします。……家族を自立させるの〔は〕労働と儉約です。」(「あなたはむさぼってはならない」『聖徒の道』1991年2月号, 4, 6)

トマス・S・モンソン副管長——「わたしたちは末日聖徒の皆さんが慎重に計画を立て、支出を控えめにして、過度なあるいは不必要的負債を負わないように強くお勧めいたします」(「学び、行い、人格を築く」『聖徒の道』1992年7月号, 52)。

ジェームズ・E・ファウスト副管長——「欲しい物と必要な物とを区別できるようになることが大切です。それには『買い物は今、支払いは後で』の考えを避けて、『今は貯金、買い物は後で』の習慣を身に付ける訓練をする必要があります。……

……儉約して計画性のある生活をする大きな目標は、家を借金なしで持つことです。……家が抵当に入つておらず、しかも先取特権を有していれば、担保権を行使されることはありません。

自立とは、……個人的な借金がなく、〔利子〕を支払う必要もなく、借金に伴う義務から一切解放されることもあります。」(「福祉の責任は個人とその家族に」『聖徒の道』1986年7月号, 20-21)

エズラ・タフト・ベンソン大管長——「靈感された教会の指導者たちは、常々わたしたちに、借金を避け、収入の範囲内で生活するよう勧めてきました。」(「あなたの負債を払って暮らしなさい」『聖徒の道』1987年10月号, 2)

スペンサー・W・キンボール大管長——「わたしは子供のころからずっと、中央幹部から聞かされてきた言葉があります。それは、『借金を返済し、借金に近づかないようにしなさい』という勧告です。」(『大会報告』1975年4月, 166)

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長——「利子は眠ることも、病気になることも、死ぬこともありません。……一度借金をすれば、利子は昼夜を問わずあなたに付きまとつのです。あなたはそれを阻むことも、逃れることも、また忘れるかもしれません。利子は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、やり方に口を挟んだり、反したり、要求に応じなかつたりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」(『大会報告』1938年4月, 103)

ヒバー・J・グラント大管長——「人の心と家族に平安と満足を与えるものを一つ挙げるとすれば、それはわたしたちが収入の範囲内で生活することです。わたしたちを虐げ、落胆させ、希望を失わせるものを一つ挙げるとすれば、それは返済できない借金を負い、果たせない義務を負うことです。」(Gospel Standards『福音の標準』G・ホーマー・ダーラム編, 111)

L・トム・ペリー長老——「現在、……聞こえてくる声は、我先にこの世のものを手に入れるようわたしたちを誘惑します。……一方、支払いのためには、将来の必要を考えず、借金することがよくあります。……

わたしたちは、疫病を避けるように負債を避けなさいという賢明な勧告を受けてきました。

……財産管理のよくできた家族にとっては、利子は払うものではなく、稼ぐものです。」(「備えていれば恐れることはない」『聖徒の道』1996年1月号, 39, 41) □



高校新設へ向けて地域社会で奉仕、ついに行政を動かす

神戸ステーキ北六甲ワード
船島二巳男

わたしは、教会で青少年とのかかわりが多い中で、多くのすばらしい経験や証を聞く機会がありますが、その一方で青少年が幾つものハードルを越えなければならないと感じることがあります。特に高いハードルの一つは受験ではないかと思います。これは教会の問題ではなく社会の問題であり、日本の教育問題の一つです。

3年前、アメリカの高校を訪問する機会がありました。のびのびと学んでいるアメリカの学生の姿を目にして日本との教育の在り方の違いを強く感じました。日本の中学生、高校生の場合は、受験のためにあまり余裕のない生活を送っているように思えたからです。このような社会の現状の中で、わたしにも何かできることがないかと思いました。

わたしが住んでいる三田市は、4年前から人口増加率において10年連続日本一です。人口の増加に伴って、様々な面で対応の遅れが生じていましたが、こと高校に関してはそれが顕著でした。三田市には、公立高校が3校、私立高校が1校あります。3年前に高校の新設が予定されていましたが、用地を確保しながらも工事は見送られ結局その話は見送られました。

今年、公立高校では3クラス分の教室をプレハブで増設し、やっと合格者の人数に間に合わせました。年々増え続ける中学卒業予定者の人数を計算していくと6年後には12クラスが不足することになり、1校増やしてもまだ足りないという将来の予測はたちまち現実となります。わたし自身、あまりこの現状を知りませんでしたが、今年小学校のPTA会長に選ばれて、その責任を通して三田市の高校の現状を知り、現在の中学生はもちろん小学生にも大きな問題であると認識しました。このような受験のプレッシャーは思春期の

大切な時期の子供たちに大きな影響を与える。ただでさえ青少年の問題や犯罪がほかより多くなってきている今日、父兄の方々もそうした心配を抱いていることを知り、高校の新設を早く実現することがとても必要であると認識しました。また、ほかの学校のPTAの役員の方々とお会いしたときも同じ思いを持っている方が多くいることを知り、高校の新設を早く実現するという見解で一致しました。そのためにはまず高校が新設されるように会を設立して、多くの方々に現状を知らせ、市民の声をまとめることになりました。

そうして「高校新設を願う市民の会」が現役の小中学校のPTA役員と元役員などで結成され、発起人会が開かれました。それから1週間後の7月21日に市民センターで第1回目の会合を開きました。その会合には、予想を上回る80人の方々が出席してくださり、今後に向けての活発な意見が交わされました。そして、1か月後の8月22日には賛同者が2,580人になり、わたしは市の教育長に「高校新設を願う市民の会」を代表して高校新設の要請書を届けました。会の発足から新聞社の方々の関心も高く、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、神戸新聞などがその都度記事にしてくださったことも大きな助けになりました。

あなたがたが善に熱心であれば

署名活動を行った結果3万5,000人の署名が集まり、賛同者をさらに増やすことができました。しかし、良いことばかりではありませんでした。というのは、この会が大きくなっていくにつれて、会そのものに対してあるいはそれに賛同して活動する個人に対しての中傷や圧力があり、嫌な思いを経験することもあったのです。そんなとき、祈ることによって主から平安を頂きました。ある日、祈り終

えた後で聖典を開くと、ペテロの第一の手紙第3章13節から14節がわたしの目に留まりました。そこには、「そこで、もしあなたがたが善に熱心であれば、だれが、あなたがたに危害を加えようか。しかし、万一義のために苦しむようなことがあっても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない」と書かれてありました。

その後、市の議会も「高校新設を願う市民の会」の意見に同調し、高校を新設する要望書を県に提出する議案が可決されました。

署名は5万5,864人に上り、10月27日に県の教育長に提出に行くと、教育長も三田市の現状を強く認識して高校における対策を出してくださると明言されました。

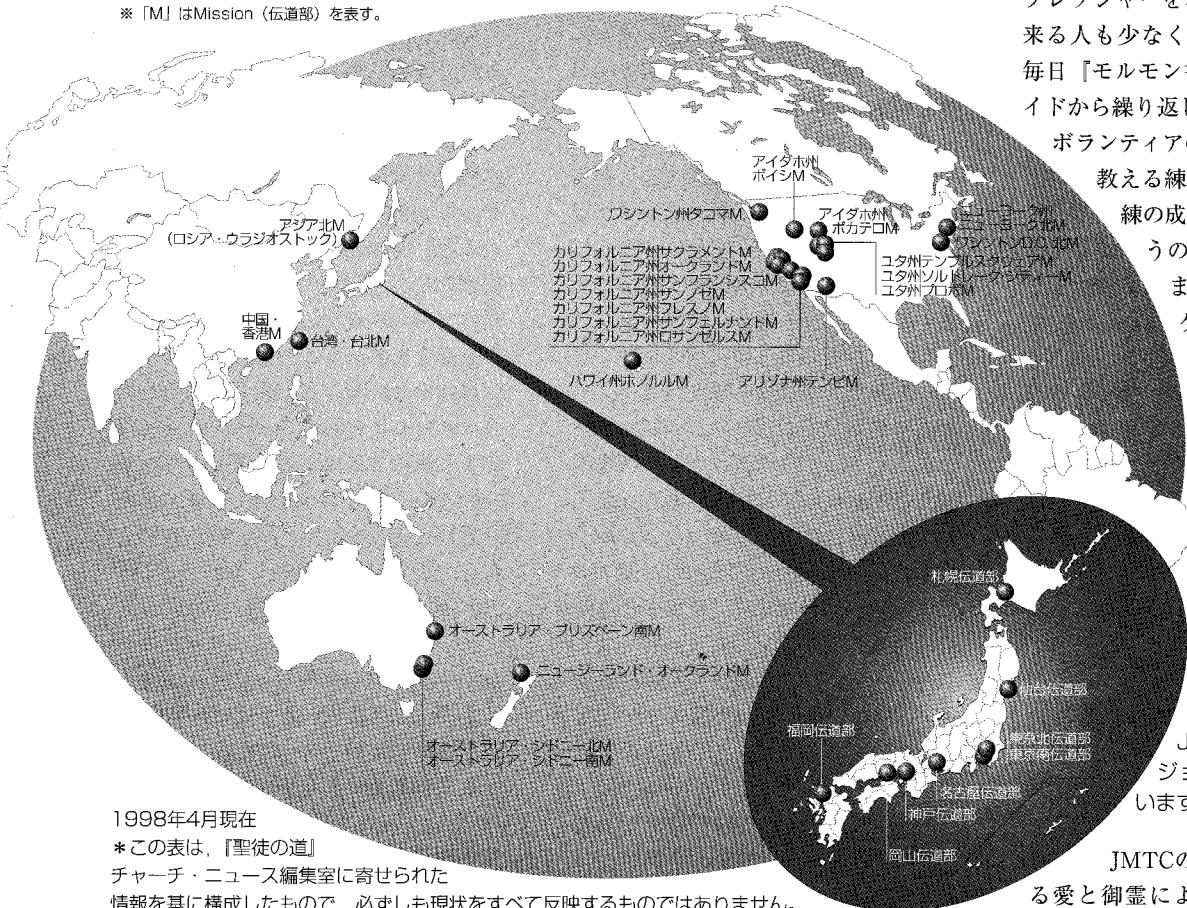
確かにわたしたちが教会の内でも外でも正しく必要な行いをするとき、主の助けと導きがあると証します。また、この会を通して多くのすばらしい方々との出会いがあり、ともに働く機会をもてたことに感謝します。(ふなじま・ふみお 神戸伝道部幹部書記)



特集 主の業に活躍する日本人宣教師たち

●現在、日本人宣教師が働いている伝道部

※「M」はMission（伝道部）を表す。



1998年4月現在

*この表は、『聖徒の道』
チャーチ・ニュース編集室に寄せられた

情報を基に構成したもので、必ずしも現状をすべて反映するものではありません。

こんにも
今日の宣教師について、日本宣教師訓練
センター(JMTC)所長の土田 勝兄弟に
お話をうかがいました。(編集室)

最近のJMTCの状況はいかがですか

わたしと妻は今年の2月に日本宣教
わ 師訓練センターに着任し、奉仕さ
せていただいていますが、2月、3月の2
か月間に訓練を受けて全国の伝道地へ
赴任した宣教師は36人です。そのうち
教員の子供すなわち2世が24人、改宗
者が10人、夫婦宣教師が1組でした。4月
は25人の予定で、2世は16人、改宗者9人
です。2世の宣教師が増えていることは
大変喜ばしいことです。それぞれ志した
大学を休学し、恵まれた会社を退職
し、そのほか多大な犠牲を払って奉仕
する彼らの信仰と熱意はすばらしいもの
です。IMTCでは同僚があるがまま受け

ゆる
入れ互いの弱点を赦し合う姿を目指します。そしてイエス・キリストの慈愛を実践しながら自分とは異なる人を愛し励ます力を強めていきます。また中には改宗して1年から1年半で伝道に出る決心をした人が大勢います。彼らも人生の目標を知った喜び、永遠の行く末を刈り取る方法を学んだ幸せを分かち合いたいと希望に燃えています。16日間の訓練は彼ら宣教師にとって自分の能力や可能性を知る最も良い機会となります。「わたしはヨセフ・スミスが預言者であり、神と御子とまみえた
あかしという証があるだろうか」「『モルモン書』が確かに神の御言葉であるという信仰があるだろうか」「自分だけが御靈を感じられないときどうしたらよいだろうか」「神様はほんとうに自分を必要とされているだろうか」。様々な不安や

プレッシャーを感じてJMTCに入って来る人も少なくありません。しかし、毎日『モルモン書』を読み、宣教師ガイドから繰り返し福音の原則を学習し、ボランティアの方々のご協力を得て教える練習を重ね、後半では訓練の成果を試すためにほんとうの求道者を相手に実習します。短期間のハードスケジュールの中で彼らはそれまでの不安を解消し心悩ませた問題を克服して自らの信仰と証を増し加えて出発して行きます。そうした姿を見るとき、主は彼らのうえに大いなる信頼と期待を寄せておられることが分かります。

JMTCではどのようなビジョンを持って指導されていますか

JMTCのビジョンは、「あふれる愛と御靈によって教え導くことのできる突出した宣教師を養い育てる」ことにあります。それによってイエス・キリストは「道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとへ行くことはできない」ことを一人でも多くの方々にお知らせしたいと思っています（ヨハネ14：6）。

そのような宣教師を育てるために具体的にどんな訓練をされていますか

第1に強調するのは、聖文を実生活に応用することです。ニーファイは兄たちに次のように言っています。「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにする」と。(1ニーファイ 19: 23) 宣教師たちが問題に直面したとき、自分にとって必要だと心に感じた聖文の原則に思いを集中し、実際の

行いに応用することによって解決するよう提案しています。その経験は福音のメッセージを分かち合うとき、証として人々に伝えることができます。

また、神様、イエス・キリスト、ヨセフ・スミスや『モルモン書』などへの証、すなわち真理への確信がまだない、という問題には、教義と聖約第9章8-9節に記されているとおり、祈りを通し聖霊の導きによってそれを知る方法が与えられています。この原則についてS・デルワース・ヤング長老の言葉をご紹介しましょう。「主から啓示を受けるためには、主の戒めを守ることにより、主のみこころを知る者となる必要がある。そうするときに、主の知恵により必要に応じて主のみ言葉が思いを通じて心の中に入り、胸の内に何かを感じるに違いない。それは表現しがたい感情であるが強いていえば、「燃える」という感じである。またこれに伴い、安らぎと、そ

のことが正しいというより確かな証を得ることができるのである。ひとたびこの燃える思い、この気持、この安らぎを覚えた者は、日々の生活において、あるいは導きを受けたときに、決して迷うことはないであろう。」(『静かな細い声』『聖徒の道』1976年8月号、333)

第2には、宣教師としての振る舞いです。礼儀正しい言葉と態度で人と接するように勧めています。そうすれば「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える」ように(2ニーファイ33:1)、御靈を感じ、ドアを開く人々に宣教師のメッセージを聞く備えをしていただくのに役立つからです。

第3は、一人でも多くの方々へ伝える備えです。わたしの息子と娘は伝道中、耳の聞こえない方々にお会いする機会が多々ありました。すべての人を招かれている主の計画を考え、あいさつと

自己紹介ができれば、わずかな時間ですが、手話を取り入れています。

例えば海外で伝道したいと思っていた人が日本に召されることもあると思います。どのように受け入れたらよいでしょうか?

確かに海外へ召される人も多くなりましたが、どこへ召されるかは、大管長が靈感を受けてお決めになります。したがって、召された場所には自分を待っている人がおり、重要な使命があるという信仰を持つことが大切です。彼らは伝道地で奉仕することによりそこに召された意味を実感することでしょう。大切なのはあなたが預言者を通して主によって召されたことを理解し、召しを心から喜んで受け入れることだと思います。悔いのない熱心な働きを通して主の御心を理解できます。人の考えより、主のお考えの方が高いと知ることができるのです(イザヤ55:8-9参照)。(談) □

活躍する日本人宣教師たち

主に備えられた出会い

東京南伝道部 専任宣教師
兒玉健一

わたしは1996年の12月、伝道に出て初めての転任で静岡県の袋井支部へ行き、川島姉妹という一人の求道者の方と出会いました。彼女はもうほとんどレッスンを終えバプテスマを受けたいと望んでいましたが、実はまだ、ご主人に教会のことや福音を学んでいることを詳しく話していませんでした。姉妹がいざ話してみると案の定、反対されました。わたしたちは「信仰をもってキリストの名によって求めれば、何でも与えられる」という聖句を分かち合って(エノス1:15)、心から信じて神様を求めれば許可をもらえますよ、と励ました。そのうち一応の許可をもらうことができ、1997年2月にバプテスマの予定を入れました。

ところが、バプテスマの面接の当日の朝になって、彼女から涙ぐみながら「やっぱりごめんなさい、バプテスマを受けることはできません」と電話がありました。わたしと同僚はすごくが

っかりしました。事情を聞くと、「主人はわたしの意見を尊重したいから、バプテスマを受けてもいいとは言ったけれども、日曜日に主人と子供を置いてわたしだけ一人で教会へ行くことはやっぱりうれしくない。その寂しい気持ちやほんとうは受けてほしくないと思っているのが分かったものだから、それを無視して自分だけ受けることはできません」ということでした。しかし家族の中にも愛があるのが分かりました。奥さんもご主人を愛されて、ご主人も奥さんのことを大切にされていました。

時々、宣教師が思っている以上に求道者の方の信仰が強いことがあります。わたしたちが、もしかしたらあきらめてしまったかな、と心配していくと、彼女はずっと信仰を持ち続けていました。宣教師は何か月かで転任がありますから、自分がいる間にバプテスマを見たい、とつい短い期間で物事を考え

ますが、彼女は粘り強く長い目で見て、決してあきらめませんでした。

教会のビデオに『愛の働き』という伝道をテーマにしたものがあります。その中に、宣教師が自分の求道者に問題があったときに両親に助けを求めてその求道者に手紙を書いてもらう、というくだりがありました。それを見てわたしは「すばらしいな」と思いました。それで思いついたのですが、わたしのホームワードに、北山姉妹という川島姉妹ととてもよく似た状況の方がおられたのです。同じように看護婦さんで、ご主人はあまり教会に関心がなく、性格もよく似ているので、ああこの御二人はすごくいい友達になるな、と思いました。そこで彼女へ手紙を出して、「こういう姉妹がいて、手紙をもらったらすごくうれしいんじゃないかな、反対があるけどとても励みになると思います」と書きました。すると北山姉妹は手紙や電話を下さって、ほんとうにとてもいい友達になったのです。これは川島姉妹にとって大きな助けになりました。ビデオのように、実際にこのような形で伝道の支援を頂く

ことができたのです。

またわたしたちはいろいろな聖句を分かち合いました。求めれば与えられるということ(エノス1:15),「すべてのわざには時がある」ということ(伝道3:1),川島姉妹はその二つの聖句をとても大切にしてくれて、日々『モルモン書』を読みお祈りをして頑張っていました。するとご主人の心も次第に和らぎ、レストランに行っても、これまでにはコーヒーを勧めたりされていたのが、「彼女には水を持ってきて」と言うようになり、だんだん変わってきました。

ちょうどそのころ、M・ラッセル・バラード長老の『わたしたちが探し求める幸福』という本がありました。伝道部長の勧めで、宣教師は一人1冊ずつ持っていたのです。実はわたしは最初に読んだとき、あまりおもしろくないなと思いました。自分としてはもっと深い教義を勉強したい気持ちがあったので、簡単すぎると感じたのです。

あるときゾーンリーダーと川島姉妹の伝道の状況について相談していて、「彼女は『わたしたちが探し求める幸福』を持っていますか」と聞かれました。持っていないと答えると「じゃあ彼女にその本を渡して、ご主人さんに読んでもらいましょう。そうしていただけですか」……わたしはあまり気が進みませんでしたが、指導者が言うのをやつてみるとしました。川島姉妹も、ご主人がほんとうに読んでくれるかどうか分からぬ様子でした。

しかしふたを開けてみると、ご主人は驚くほどあっさりと、その本を最初から最後まで全部読んでくれました。翻訳者の高木兄弟の在職する大学とご主人の出身校が同じだったという縁もあって、その本にとても好感を持ってくれたようでした。

結果的にはそれがとても良いきっかけとなつたのです。ご主人はその本を読んで、「教会に行ってもいいし、バプテスマを受けてもいいよ」と言わされました。彼女自身、「すごくいいときにいい本を貸してくださってありがとうございます」とおっしゃっていました。

川島姉妹は結局5月にバプテスマを受けました。姉妹は今はまだ一人で教会に行っていますが、いつかご主人が改宗する望みを持ち続けています。

すべてに時がある

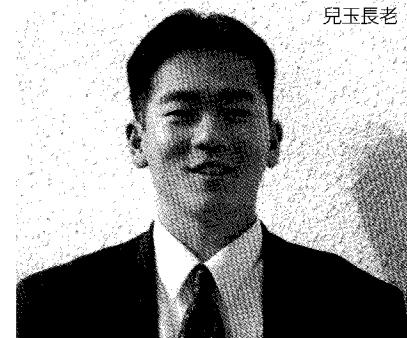
振り返ると、川島姉妹がとても大切にしてくれた二つの聖句は、わたし自身、以前から特別に大好きな聖句だったわけでもなく、その聖句を分かち合ったことも特別な経験というわけではありませんでした。しかし彼女にとってそれは大切な聖句となり、バプテスマを受けるためのエネルギー源となりました。彼女がその聖句に出会うべき時があったのだと感じます。

また、彼女の前の宣教師はアメリカ人でしたから、日本語がペラペラというわけにはいきませんでした。彼女は時々難しい日本語を使うので意志の疎通が十分でなく、レッスンで深い意味が知りたいときには少し満たされない気持ちがあったのかもしれません。彼女は、日本人宣教師のわたしが12月に袋井支部に来たことを「神様のクリスマスプレゼント」だと思ってくださったそうです。「神様がわたしのために送ってくださった宣教師です」と。それはわたしにとって、その一言で十分ここに召された価値があると思えるくらい、うれしいことでした。わたしにとっても彼女は特別に備えられた方だったのです。その出会いに、神様が選ばれた時があったと思います。

準備された出会い

その後わたしは1997年7月初めに東京の八王子へ転任し、ヤング長老という同僚をもらいました。彼はとても熱心な宣教師で、あと2か月しか伝道期間が残っていませんでしたが、その間に3人のバプテスマを見たいという目標を持っていました。しかしそのとき、彼にはバプテスマに近い求道者がほとんどいませんでした。改宗は簡単なものではありません。準備された方と突然ぱったり出会わなかぎり、2か月で目標を達成するのは無理だと思われました。それでも彼とわたしは毎日とて

兒玉長老



も熱心に働いて祈りましたが、日にちはどんどん過ぎて行きます。毎日が信仰の試しでした。

ヤング長老はほんとうにすばらしい宣教師でした。一日が終わり寝る前に同僚でともに祈ってから個人の祈りに入りますが、わたしが先に祈り終えて、もう寝ているかな、と思っても彼はずっと遅くまでひざまずいて祈っていました。

そして7月のうちに二人の求道者の方と出会ったのです。一人の方と最初に会ったのは7月の初めでしたが、彼は若いときに、もう宣教師からレッスンを何回も聞いていました。彼は「昔は家族の反対があってバプテスマを受けられなかったけど、今は受けたい」と言ってくれました。わたしたちは彼に、宣教師が教える基本的な福音を教える必要がほとんどありませんでした。もう一人の方は7月の末に出会って、3週間くらいでバプテスマを受けました。

神様が準備された人で、奇跡だったと思います。言ってみれば二人とも、わたしたちが街頭伝道や戸別訪問で見つけたのではなく、ほかの所で準備されて突然現れたのです。わたしたちができるることを全部やって、なつかつ願い求めるなら、神様が残りを果たしてくださいます。宣教師は自分の力では何もできません。求道者の方を見つけることも、バプテスマに導くことも。ヤング長老は「わたしの祈りの答えでした」と証してくれました。

伝道の2年間は特別な時間で、人生の何年分にも相当します。例えば友達が伝道地にたくさん手紙をくれます。「伝道はどうですか、経験を分かち合つ

てください」と。もちろん手紙で書いてもある程度は伝わりますが、やはり自分で経験しなければ、そのほんとうの価値は分かりません。自分の証は自分だけの証で、わたしの一つ一つの経験

ドアをノックするのは
神の使いだった

ニコル・ブラッディー

グレン長老は幸運な男性である。伝道を始めてわずか4か月しかたっていないのに、この若いモルモンは改宗者を得た。数週間前、グレン長老と同僚の藤村長老は、新しい信者が群れに加わる瞬間に目にしたのである。

「わたしたちはほんとうに一生懸命働きました。そして、スリランカから来たすばらしい青年に教えることができました。……わたしたちが伝えたメッセージは彼の心にしみ込んだのです。わたしはかつてこのようなことを経験したことがありませんでした」とグレン長老は語る。

規則に従って、髪はきれいにカットされ、洗濯したてのワイシャツを着込み、ダークスーツとネクタイで身を固めたグレン長老（20歳）と藤村長老（24歳）は宣教師である（「長老」という名称は彼らが教師であることと表している）。彼らは1日に12時間、週に6日間、明るい表情で自転車を駆って郊外を走り回り、イエス・キリストの言葉と、モルモン教会としても知られている末日聖徒イエス・キリスト教会の創立者ジョセフ・スミスの言葉を宣べ伝えている。

グレン長老と藤村長老は寝室が一部屋しかないコールフィールドのアパートで共同生活をしている（コールフィールドはユダヤ文化の影響が強い地域である。多くの人々から、トアをノックする前に、玄関の上のユダヤ人の宗教的象徴であるメズーザーに気づいたかどうかを尋ねられた、とグレン長老は語っている。）二人が同僚になったのは2か月前

オーストラリアで伝道された藤村淳一長老（東京ステーク三鷹ワード）について地元の新聞に掲載された記事が届けられました。抜粋して紹介します。（編集室）

新高江指揮官の決意を示す活用法

験は宝物です。自分の働いた伝道地や
出会った友達のことを思い出すと、い
つもいい経験ばかりではなく大変なこ
ともありました。すべてはいい思い
出で、とても平安な気持ちを感じます。

よく宣教師が働いた伝道地を「愛する
……」と言いますが、わたしにとって
もそこは、主が備えられた特別な人が
いる、特別な場所であったことを証し
ます。(こだま・けんいち)

からである。間もなく彼らは新しい地域へ転任し、新しい相手と同僚を組むことになる。宣教師は地元の教会指導者によって数か月ごとに転任の指令を受ける。ビクトリア州には約240人の宣教師がいる。

藤村長老は東京出身である。4年前に街頭で出会った二人のアメリカ人宣教師によって改宗した。「わたしは無神論者でしたが、宣教師が伝えてくれたイエス・キリストのメッセージに何か特別なものを感じました。教会について勉強し始めてから2か月後にバプテスマを受け、クリスチヤンになりました」と藤村長老は語る。

伝統的な仏教信者であった家族は彼の改宗に最初驚いた。しかし、勤務していたコンピューター会社を辞めて、オーストラリアへ仏道に行くと聞かされたときには驚くだけでは済まなかった。しかし後に家族の心は和んだようである。最近、藤村長老の父親は食糧と衣類の入った小包みを息子に送っている。

「人々はわたしたちが自分のお金で無駄遣いしていると思っているようです。というのもわたしたちは報酬を受けていませんし、伝道のために自分で貯金してきたお金を使っているからです。けれどもわたしたちは払った犠牲を上回るものを受けています。この2年間は、永遠の喜びと幸福を得るために努力するに費やす10年以上の価値があります。ですから、伝道はわたしにとって価値があるのです」と藤村長老は語る。

藤村長老は昨年着任して以来
ホバート、ダンデノン、モーラビ
ン、ウェーバリーを経て、現在
コールフィールドにやって来た
着任早々の藤村長老はついてい

なかった。自転車を買って3日後に盗まれた。仕方なく、中古の子供用自転車を買ったが、スピードを上げて走る同僚から置いてきぼりを食う毎日だった。「そこで神に祈りました。ある日アパートに帰ってみると、この自転車（藤村長老はレース用の古い自転車を指して）がアパートの前に置いてあって、「どうかわたしを使ってください」という看板が掛けられていたました。」

1996年に行われた調査によれば、オーストラリアにおける末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は4万5,112人である。1991年の調査以来、6,812人、15パーセントの増加を示している。

グレン長老はわたしに『モルモン書』について説明したいと言った。彼はわたしが興味を持っていないからといって気後れする様子はなかった。「気にしていませんよ」とにこやかに言う。「ふるさとの友達は説明する機会もくれませんでしたから。『モルモン書』を持っていると、1マイル先まで迷けて行ったものでした。」（オーストラリア・メルボルン新聞）

Door-knockers for God

「その実が、ほのかのどんな実よりも 好ましいことが分かったからである」

ユタ州ソルトレーク・シティー伝道部
専任宣教師
山新田優子

伝道7か月目の1997年8月にデビッド・A・クリステンセン伝道部長から、この伝道部内での日本人プログラムを担当するよう依頼されました。日本人プログラムとは、伝道部地域内に住む日本人に福音を伝えるというものです。わたしは自分の才能を使ってアメリカ人と日本人の両方に福音が伝えられる喜びとともに、アメリカ人に比べて日本人に教えることの難しさやそのための技術を身に付けなければならぬことへの不安を胸に、この責任を引き受けました。

初めに何人かの名前を紹介のリストからチェックしました。そこに、「松永須弥也、8月7日1:30pm」と約束があったので、会いに行きました。須弥也君は京都から来た20歳の青年で、快くレッスンを受けることを承諾してくれました。

レッスンを続けていくうちに、祈りや聖文を通して彼の中で何かが少しずつ変わっていくのが手に取るように分かりました。彼は聖文を愛読し、祈りも日本語と英語両方ですぐにできるようになりました。ただ彼のいちばんの問題はたばこでした。こればかりはやめるのにしばらく時間がかかりそうだなと思いました。しかし彼のルームメートの協力で驚くほど早くやめることができました。二回目のレッスンの終わりに、バプテスマについて話したときも、「どこでバプテスマを受けられるのですか」と聞いて、わたしを驚かせました。同僚と3人でともに祈り確信したうえで、須弥也くんは8月31日にバプテスマを受け、主と聖約を交わしました。

それから数日後、新会員レッスンのために須弥也君のアパートへ行くと、彼の友達で、久野智也君という青年が

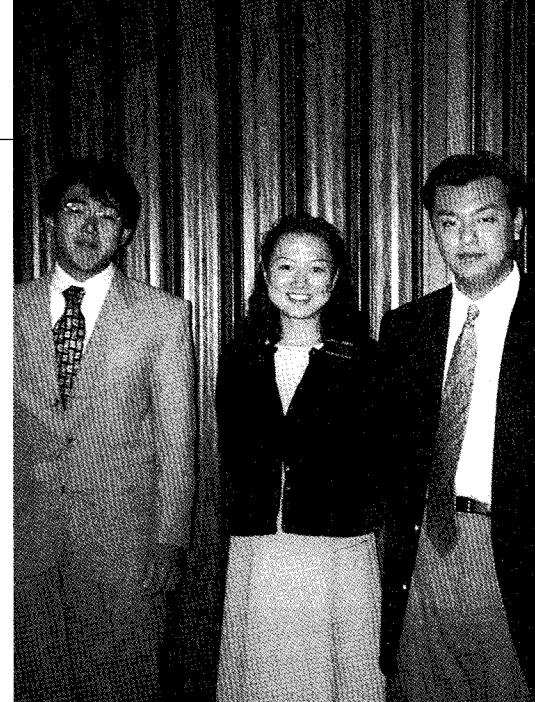
3週間ほどの予定で京都から遊びに来ていました。智也君は須弥也君のバプテスマについて何も聞かされていなかったので、訪ねて来たわたしたちを見て「一体何が始まるのだろう」といった面持ちでした。すぐに説明して、新会員のためのレッスンに同席してみるよう誘いました。すでに須弥也君は智也君にちやっかりと『モルモン書』を渡していました。智也君はレッスンが進むに従ってうんうんと聞き始め、そのうち須弥也君をまねて『モルモン書』に線を引き始めました。その日はほんとうによいレッスンになりました。

そのときわたしは、智也君個人のための福音を学ぶように誘いなさいとの御靈の促しを感じたのですが、これは彼の休暇で、たった3週間しか滞在しないし、レッスンを受ける暇もないだろうと自分の勝手な解釈でその気持ちをもみ消してしまいました。

次の日の朝、ステーク宣教師から電話がありました。何と智也君が福音を学びたいと言ってきたそうです。わたしは自分がためらったことに対してすぐに悔い改め、彼を誘ってくれた須弥也君の愛と勇気に心から感謝しました。

智也君のレッスンが始まりました。彼はもともと無神論者でした。でもこの地上の自然や赤ちゃんの誕生を探り上げて神様の存在を証するうちに、彼の心が柔らかくなっていくのを感じました。そしてついに「神様がいると思う」と言ってくれました。

2番目のレッスンではバプテスマについて話すのですが、普通、日本人にとっては早すぎて難しいケースが多く、またわたしたちが見たかぎりでは智也君にもそのチャレンジを受ける土台ができていないのが分かりました。しかし、たった3週間の滞在、そのうちの1週間はサンフランシスコへ旅行するということで時間はありません。旅行に出る前日にバプテスマチャレンジをして旅行の間に考えてもらうこと



にしました。やはりそのときまだユタ滞在5日目だった智也君からは「分かりません」という言葉を受けただけでしたが、旅行中、須弥也君と毎朝毎晩バプテスマについて祈ることと毎日『モルモン書』を読むこと、読んだことについて話し合うことを承諾してくれました。それらのことを紙に書き、冗談半分に押印まで押してもらって固く約束しました。彼らはその紙を車の中にはって出かけて行きました。彼らが旅立ってからの1週間はわたしにとってもチャレンジでした。できることといえばただ祈ることと、祈りと聖文を通して人の人生が変わることへの信仰を持つことだけでした。

ところが彼らが帰って来る予定の日になつても連絡がなく、とても心配しました。やつとのことで連絡が取れたのは、智也君が日本へ帰る3日前のことでした。不思議なことに須弥也君は何回も留守番電話にメッセージを残したそうですが、テープの中には何も残っていないかったです。

その晩早速会いに行くと、そこには智也君がかつてアイダホでホームステイしていたときのホストファミリーが来ていました。実は旅行から帰った後、彼はアイダホまで行って7年間音信不通だった彼らを捜していたのです。しかしすでに引っ越した後でした。何の手がかりもなくがっかりして帰つて来ると、今度は須弥也君のルームメート

が電話帳などで一生懸命捜してくれました。すると奇跡的にソルトレーク・シティから車で1時間ほどのバウンティフルに住んでいることが分かったそうです。彼らは早速会いに来てくれ、智也君は長年の思いが果たせてとてもうれしそうでした。

彼らが帰った後、智也君と話し始めるとすぐに、彼の中で靈的に何かが変わったことを直感しました。顔は輝いていて、体からまるで光を放つように御靈があふれています。以前の彼とはまったく違っていました。彼は神様がホストファミリーに会わせてくれたんだ、と感謝の気持ちを分かち合ってくれました。また旅行中の約束も守ってくれ、須弥也君と智也君が靈的に神様に近づいたことが分かりました。わ

たしたちはバプテスマについて祈りました。祈りの後、わたしたちの心はとても温かくなり、智也君は「聖靈を感じることができました」と言ってくれました。

しかしながら問題がありました。彼の最大の難関は知恵の言葉でした。お酒を飲むことが唯一の楽しみだったので。彼は泣き始めました。心の中でこの教会が真実であることをすでに知ったけれど、お酒をやめることはとてもつらかったです。わたしたちはお酒をやめられるかどうか主に尋ねました。すると主は、「大丈夫ですよ、わたしが彼を守ります」という静かで落ちついた気持ちを感じさせてくれました。御靈が再び促したので、「今日、バプテスマを受けていただけますか」

と聞くと、彼は泣きながら「はい」と答えてくれました。

1997年9月19日午後、須弥也君と元ホストファミリーの方々に見守られる中、智也君はバプテスマの水に沈みました。

今、須弥也君は神権者となり、智也君は日本からの手紙で「死者のバプテスマを受けるため東京神殿へ行く」と書き送ってくれました。友として助け合い、最も貴いもの、「福音」を分かち合った二人のすばらしい愛と模範に感謝しています。「その木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた。その実が、ほかのどんな実よりも好ましいことが分かったからである」(1ニーファイ8:12)。(やまとた・ゆうこ)

福音 活躍する日本人宣教師たち

イエス様が歩まれた道を歩む

ブリガム・ヤング大学アジア第2ワード
川崎綱代

アリゾナ州テンピ伝道部での毎日は信じられないほど早く過ぎていくので、ほんとうに驚いています。あっと言う間に伝道期間の半分が過ぎたころ、わたしはすい臓の病気にかかってしまいました。そのため、やむを得ず6週間ほど伝道を休んでカリフォルニアにいる知り合いの家族のもとで休養することになりました。たくさんの医者にかかり、検査も嫌というほどしたにもかかわらず病気の原因は分かりませんでした。ただ言えることは、快復にはしばらく時間を要するだろうということだけでした。伝道ももはやここまでかとあきらめかけたとき、癒しの祝福を受けました。すると、病気は次第に快復し、再び伝道に戻れるようになりました。病の原因は結局分からずじまいですが、主を信頼することによって祝福を得たのだと思います。

アメリカでスペイン語を使って伝道するのはさすがに日本の伝道とは違います。求道者のほとんどはメキシコや

南米から来ている人々で、彼らの多くは、小さなトレーラーに大人数で寝泊まりしています。彼らは貧しい自分たちの国を出て、残してきた家族のために働いています。普通のアメリカ人なら避けるような、危険を伴う重労働を一生懸命やっています。そして、蓄えたお金を故郷の家族へ送金しているのです。恵まれて家族で国境を越えて来た人々は、着ている洋服以外は何一つ持たずにやって来ました。(歯ブラシや小さいかばんさえ持つてこられないのは、手足で這って隠れて来なくてはならないためです。)そのような事情を抱えながら毎日つましく生活する彼らを見て、わたし自身学んだのはどんな小さなことにでも感謝の気持ちを忘れないということです。

彼らのほとんどはカトリックで、神様とイエス・キリストを信じています。しかし、カトリックの習慣を捨ててこの真実の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会を受け入れることはそうそう簡単なことではありません。しかし、わたしはこれまでに主の御靈を感じて真実の教会に入る人々をたくさん見てきました。その方々は、天のお父様が備えてくださった兄弟姉妹です。

天のお父様が、イスラエルだけではなく、世界中の一人一人を気にかけていてくださっているのが分かります。

メキシコ人の方々から見たら、日本人のわたしがスペイン語をペラペラ話すのは信じられないとよく言われます。主から非常にたくさんの助けを受けて話せるようになりました。伝道はほんとうに楽しいです。とても幸せです。時には伝道中に、つらくて「もう、だめ!もう死ぬ!」と大げさではなく何度も思ったことがあります、その度に主はわたしを力づけてくださいました。そして、そうした経験によって成長することができました。この伝道を通して、イエス様も歩まれた道を歩むことができ、また生活の中にイエス様の愛を感じることができますので心から感謝しています。御靈によってイエス様がそばにいてくださっていることを感じます。

この教会がイエス・キリストによって導かれていて、ゴードン・B・ヒンクリー大管長が確かに主に召された預言者であることを証します。イエス・キリストはわたしたち一人一人にとっての贋い主であられることを証します。(かわさき・きぬよ) (東京西ステーク府中ワードへ寄せられた手紙より抜粋)

主が与えてくださる 特別な出会い

沖縄那覇ステーク首里ワード
大城明子

19 96年10月に娘の多寿子はアリゾナ州テンピ伝道部に召されました。それは、義母が86歳で主のもとへ召されて間もないころです。娘は義母の入院中毎日欠かさず仕事帰りに病院を訪れて義母の世話をに行っていました。そんなときに、アリゾナ州テンピ伝道部への召しを受けたのです。

義母は3度も脳梗塞を繰り返し、入院が長引いていました。娘はそうした中で、伝道の召しにはこたえたいけれど、伝道を終えるまで祖母が無事でいてくれるかどうかを心配していました。

しかし、症状が突然悪化し、家族全員で義母の最期をみとることになりました。それから1か月もたたないうちに娘は任地に出発しました。

祖母のことを心に思いながら旅立った娘は新しい生活環境や言葉になかなか慣れ切れず苦労していました。レッスンの中で英語で証をしたり、バプテスマ会でお話や証をしたりとチャレンジを受ける度に大変緊張し困り果てる娘の姿が手紙を通して伝わってきました。そんな娘のことが心配で、いつも祈っていました。そうして、先輩の宣教師に頼り切りの数か月が過ぎ、やがて先輩として責任を果たすようになった娘から力強い証とすばらしい経験をつづった手紙が届いたので分かち合いたいと思います。

「同僚のノートン姉妹が伝道を終えて、^{きょう}今日帰りました。宣教師訓練センターで1週間だけ同僚だったプロボ出身のスノー姉妹と同僚になりました。でも、スノー姉妹はまだ伝道部に到着していなかったので、同じようにまだ同僚のいないパーカー姉妹と一緒にペアを組んで彼女の地区へ伝道に行きました。

そこはわたしの大好きな最初の任地でした。2、3軒の家を回って聖句を分かち合ったり、次の訪問の約束を作つ

右／マクレロン姉妹と大城多寿子姉妹
下／1967年当時のマクレロン姉妹(写真左)と
多寿子姉妹の祖母、大城カマ姉妹(写真中央)

たりした後で、ふとある女性のことを思い出しました。彼女はローズマリーという、メキシコ出身だけど英語の上手な40代のお母さんです。彼女は訪問者センターからの紹介でした。わたしがそこにいたクリスマスのころにレッスンの1番目を伝えただけで終わっていました。そのころ彼女はとても忙しく、なかなか次の約束が取れなかつたので福音を教える対象外にしようと當時、同僚と考えていたのです。

そこで、パーカー姉妹に彼女を知っているかと尋ねると、会ったこともないし、全然知らないとのことでした。わたしがその地区を去ってから5か月が過ぎようとしていましたが、その間彼女は宣教師たちの訪問をまったく受けていなかつたのです。そこで、パーカー姉妹に、訪問してみようと話し、一緒に会いに行くことになりました。

久しぶりに会った彼女は、息子さんの道を外れた生活にすごく悩まされていて毎日毎日神様に祈り、息子さんに生活を改めてほしくて祈りの答えを求めていたところでした。そこにわたしたちが訪問したのです。

わたしたちは、1時間半の長い話し合いをし、『モルモン書』やジョセフ・スミスについて祈りました。それから彼女は教会へ来ると約束し、わたしたちは祈つてから帰りました。そのとき、強く御靈の助けを感じました。これまでにない、すごい経験でした。体中に寒気を感じると同時に胸の中からすごく温かいものを感じました。彼女も御靈を感じ、顔中涙でぬれた状態でわたしたちの話を聞いてくれました。彼女はカトリックの家族で育って、どの教会が正しいかこれまで迷っていたのです。すごい聖靈の働きを感じました。

もし、わたしたちが臨時のペアを組まず、もし御靈の声にわたしが聞き従つていなかつたら、そしてパーカー姉妹に訪問することを提案しなかつたらこのようなすばらしい経験はなかつたかもしれません。神様の導きに感謝しています。彼女がバプテスマを受けることを信じて……。御靈の導きこそが鍵です。」



そして、別
の手紙でまた次のようなすばらしい
出来事を書いてくれました。

「この前、訪問者センターに結婚衣装を身に着けた一組のカップルがやつて来てイエス様の像の前で写真を撮ろうとしていました。たまたまそこに居合わせたので、花嫁のお父さんと何となく話していました。奥さんがかつて沖縄で伝道をしたという話になりました。そこで、奥さんに『何年前に伝道をしたのですか？』と尋ねると、30年前、まだ沖縄の教会が小さかったころだという返事が返ってきました。そして、いろいろなことを話し、持ち合わせていた父と家族の写真を見せると『オボエアリマスヨ。トナリハ アナタノオバアサンデスカ？』そして、続けて『ワタシ カノジョニ オシエマシタ！！』何と祖母を改宗させたマクレロン姉妹(旧姓)だったのです。感激の対面でした。」

娘は亡き義母のことを気にかけながら伝道地へ出発したので、世代を超えて義母を教えた宣教師に会えた喜びはいっそう大きいものだったようです。マクレロン姉妹は、彼女が持っていた写真をわたしたち家族に送ってくれました。それらは、家族の新しい宝物となりました。このようなすばらしい贈り物を与えてくださった神様に心から感謝しています。

また、宣教師によって伝えられた福音によってわたしたち家族のきずなが強められているように、娘も一人でも多くの人に福音を伝え、その方たちに福音による祝福があるように願っています。(おおしろ・あきこ)

専任宣教師

1998年3月(222期生)27人

●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット

※チャーチ・ニュース1998年4月号で紹介した中西規道長老、長谷川聖長老もJMT222期生です。



飯田恭陽
東京南伝道部
福岡ステーキ
藤崎ワード



大久保健二
福岡伝道部
横浜ステーキ
上大岡ワード



小川博文
岡山伝道部
札幌ステーキ
厚別ワード



河本真吾
岡山伝道部
東京ステーキ
吉祥寺ワード



喜多絵美
岡山伝道部
東京ステーキ
千葉ワード



桐澤亜都子
名古屋伝道部
東京北ステーキ
越谷ワード



坂本隼太
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



塩 昌彦
仙台伝道部
横浜ステーキ
横浜中央ワード



白浜 俊
札幌伝道部
大阪ステーキ
堺ワード



角田泰彦
仙台伝道部
松山地方部
松山支部



園田加菜
岡山伝道部
東京南ステーキ
洗足池ワード



田中雄也
仙台伝道部
横浜ステーキ
横浜第二ワード



タルメージ・
コリアントン
岡山伝道部
東京南ステーキ
第三ワード



新多和美
東京南伝道部
大阪ステーキ
大阪ワード



萩原督也
札幌伝道部
東京北ステーキ
浦和ワード



浜田美由喜
札幌伝道部
長崎地方部
長崎支部



原たま美
東京北伝道部
長崎地方部
佐世保支部



洞 菜々
東京北伝道部
熊本ステーキ
坪井ワード



武藏野 博, 信子
仙台伝道部
横浜ステーキ
横浜第一ワード



三浦礼久
神戸伝道部
東京東ステーキ
鎌ヶ谷ワード



吉田淳一
福岡伝道部
町田ステーキ
藤沢ワード



田中徹也
アジア北伝道部
横浜ステーキ
横浜第二ワード



濱口純也
オーストラリア
バース伝道部
鹿児島地方部
鹿児島支部



横山義哉
カリフォルニア州
サンディエゴ伝道部
東京東ステーキ
鎌ヶ谷ワード

役員の異動

1998年3月7日から4月7日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

●日本大阪ステーキ

第一副会長: 小村 明
第二副会長: 大林一夫

●日本大阪北ステーキ

第二副会長: 辻野茂樹

●大阪北ステーキ 豊中ワード

監督: 田中宏二

●大阪北ステーキ 岡町ワード

監督: 中川信幸

●日本広島ステーキ

ステーキ会長: 住吉正博
第一副会長: 近藤成吉

第二副会長: 桐林 潤

●名古屋西ステーキ 御器所ワード

監督: 堀田 徹

●広島ステーキ 廿日市ワード

監督: 歌島浩之

●札幌西ステーキ 琴似ワード

監督: 及川敏夫

●大阪堺ステーキ 河内長野ワード

監督: 小杉俊明

●仙台ステーキ 泉ワード

監督: 宮田孝司

●青森地方部 大館支部

支部長: 土門一元

ユニットの変更

1998年2月22日付で大阪北ステーキの次のユニットが変更になりました。

●豊中第一ワードを豊中ワードに名称変更、豊中第三ワードを岡町ワードに名称変更

●豊中第二ワードと千里中央ワードを閉鎖し、豊中、岡町、箕面、川西第一、川西第二の各ワードに合併編入

皆さんの原稿を募集しています

○あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

おわびと訂正

●『聖徒の道』4月号、「専任宣教師」の欄に、JMT220期生と記載されましたが、221期生の誤りでした。おわびして訂正いたします。

●『聖徒の道』2月号、「専任宣教師」の欄に紹介された千木里織姉妹と千木一枝姉妹の写真が入れ替わって掲載されました。謹んでおわびいたします。